

新型インフルエンザ等対策有識者会議 基本的対処方針等諮問委員会 資料集

第12回（2021年2月12日）

目次

1. 議事次第	2
2. 新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針案	3
3. 新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針変更案（新旧対照表）	48
4. 緊急事態措置、まん延防止等重点措置等について	68
5. 新型コロナウイルス感染症に係るワクチン接種について（概要）	69
6. 新型コロナウイルス感染症に係るワクチンの接種について	70
7. 参考資料1：直近の感染状況の評価等	77
8. 参考資料2：都道府県の医療提供体制等の状況（医療提供体制・監視体制・感染の状況）	94
9. 参考資料3：直近の感染状況等	95
10. 議事録	97

新型インフルエンザ等対策有識者会議 基本的対処方針等諮問委員会（第12回）

日時：令和3年2月12日（金）

8時45分～9時45分

場所：中央合同庁舎8号館1階講堂

議 事 次 第

1. 開 会
2. 議 事
（1）基本的対処方針の変更について
3. 閉 会

（配布資料）

- | | |
|-------|------------------------------------|
| 資料1 | 新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針（案） |
| 資料2 | 新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針変更案（新旧対照表） |
| 資料3 | 緊急事態措置、まん延防止等重点措置等について |
| 資料4 | 新型コロナウイルス感染症に係るワクチン接種について（概要） |
| 資料5 | 新型コロナウイルス感染症に係るワクチンの接種について |
| 参考資料1 | 直近の感染状況の評価等 |
| 参考資料2 | 都道府県の医療提供体制等の状況（医療提供体制・監視体制・感染の状況） |
| 参考資料3 | 直近の感染状況等 |

新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針

令和2年3月28日（令和3年〇月〇日変更）

新型コロナウイルス感染症対策本部決定

政府は、新型コロナウイルス感染症への対策は危機管理上重大な課題であるとの認識の下、国民の生命を守るため、これまで水際での対策、まん延防止、医療の提供等について総力を挙げて講じてきた。国内において、感染経路の不明な患者の増加している地域が散発的に発生し、一部の地域で感染拡大が見られてきたため、令和2年3月26日、新型インフルエンザ等対策特別措置法（平成24年法律第31号。以下「法」という。）附則第1条の2第1項及び第2項の規定により読み替えて適用する法第14条に基づき、新型コロナウイルス感染症のまん延のおそれが高いことが、厚生労働大臣から内閣総理大臣に報告され、同日に、法第15条第1項に基づく政府対策本部が設置された。

国民の生命を守るためには、感染者数を抑えること及び医療提供体制や社会機能を維持することが重要である。

その上で、まずは、後述する「三つの密」を徹底的に避ける、「人と人の距離の確保」、「マスクの着用」、「手洗いなどの手指衛生」等の基本的な感染対策を行うことをより一層推進し、さらに、積極的疫学調査等によりクラスター（患者間の関連が認められた集団。以下「クラスター」という。）の発生を抑えることが、いわゆるオーバーシュートと呼ばれる爆発的な感染拡大（以下「オーバーシュート」という。）の発生を防止し、感染者、重症者及び死亡者の発生を最小限に食い止めるためには重要である。

また、必要に応じ、外出自粛の要請等の接触機会の低減を組み合わせることで実施することにより、感染拡大の速度を可能な限り抑制することが、上記の封じ込めを図るためにも、また、医療提供体制を崩壊させないためにも、重要である。

併せて、今後、国内で感染者数が急増した場合に備え、重症者等への対応を中心とした医療提供体制等の必要な体制を整えるよう準備することも必要である。

既に国内で感染が見られる新型コロナウイルス感染症に関しては、

- ・ 肺炎の発生頻度が、季節性インフルエンザにかかった場合に比して相当程度高く、国民の生命及び健康に著しく重大な被害を与えるおそれがあること
- ・ 感染経路が特定できない症例が多数に上り、かつ、急速な増加が確認されており、医療提供体制もひっ迫してきていることから、全国的かつ急速なまん延により国民生活及び国民経済に甚大な影響を及ぼすおそれがある状況であること

が、総合的に判断されている。

このようなことを踏まえて、令和2年4月7日に、新型コロナウイルス感染症対策本部長（以下「政府対策本部長」という。）は法第32条第1項に基づき、緊急事態宣言を行った。緊急事態措置を実施すべき期間は令和2年4月7日から令和2年5月6日までの29日間であり、緊急事態措置を実施すべき区域（以下「緊急事態措置区域」という。）は埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、大阪府、兵庫県及び福岡県とした。

以後、4月16日に、各都道府県における感染状況等を踏まえ、全都道府県について緊急事態措置区域とし、5月4日には、全都道府県において緊急事態措置を実施すべき期間を令和2年5月31日まで延長することとした。その後、各都道府県における感染状況等を踏まえ、段階的に緊急事態措置区域を縮小していった。

5月25日に、感染状況等を分析し、総合的に判断した結果、全ての都道府県が緊急事態措置区域に該当しないこととなったため、政府対策本部長は、法第32条第5項に基づき、緊急事態解除宣言を行った。

その後、新規報告数は、10月末以降増加傾向となり、11月以降その傾向が強まっていった。12月には首都圏を中心に新規報告数は過去最多の状況が継続し、医療提供体制がひっ迫している地域が見受けられた。

こうした感染状況や医療提供体制・公衆衛生体制に対する負荷の状況に鑑み、令和3年1月7日、政府対策本部長は、法第32条第1項に基づき、緊急事態宣言を行った。緊急事態措置を実施すべき期間は令和3年1月8日から令和3年2月7日までの31日間であり、緊急事態措置区域は東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県とした。

令和3年1月13日には、法第32条第3項に基づき、緊急事態措置区域に栃木県、岐阜県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県及び福岡県を加える変更を行った。

令和3年2月2日には、感染状況や医療提供体制・公衆衛生体制に対する負荷の状況について分析・評価を行い、2月8日以降については、法第32条第3項に基づき、緊急事態措置区域を埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、岐阜県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県及び福岡県の10都府県に変更するとともに、これらの区域において緊急事態措置を実施すべき期間を令和3年3月7日まで延長することとした。ただし、緊急事態措置を実施する必要がなくなったと認められるときは、法第32条第5項の規定に基づき、速やかに緊急事態を解除することとした。

政府は、新型コロナウイルス感染症に係る対策を強化するため、新型インフルエンザ等まん延防止等重点措置（以下「まん延防止等重点措置」という。）の創設などを含む新型インフルエンザ等対策特別措置法等の一部を改正する法律案を国会に提出し、令和3年2月3日に成立した。これにより改正された法の施行（以下「改正法の施行」という。）は令和3年2月13日とされている。

本指針は、国民の生命を守るため、新型コロナウイルス感染症をめぐる状況を的確に把握し、政府や地方公共団体、医療関係者、専門家、事業者を含む国民が気持ちを一つにして、新型コロナウイルス感染症対策をさらに進めていくため、今後講じるべき対策を現時点で整理し、対策を実施するに当たって準拠となるべき統一的指針を示すものである。

一 新型コロナウイルス感染症発生の状況に関する事実

我が国においては、令和2年1月15日に最初の感染者が確認された後、令和3年2月10日までに、合計407,827人の感染者、6,676人の死亡者が確認されている。

令和2年4月から5月にかけての緊急事態宣言下において、東京都、大阪府、北海道、茨城県、埼玉県、千葉県、神奈川県、石川県、岐阜県、愛知県、京都府、兵庫県及び福岡県の13都道府県については、特に重点的に感染拡大の防止に向けた取組を進めていく必要があったことから、本対処方針において特定都道府県（緊急事態宣言の対象区域に属する都道府県）の中でも「特定警戒都道府県」と位置付けて対策を促してきた。

また、これら特定警戒都道府県以外の県についても、都市部からの人の移動等によりクラスターが都市部以外の地域でも発生し、感染拡大の傾向が見られ、そのような地域においては、医療提供体制が十分に整っていない場合も多いことや、全都道府県が足並みをそろえた取組が行われる必要があったことなどから、全ての都道府県について緊急事態措置区域として感染拡大の防止に向けた対策を促してきた。

その後、5月1日及び4日の新型コロナウイルス感染症対策専門家会議（以下「専門家会議」という。）の見解を踏まえ、引き続き、それまでの枠組みを維持し、全ての都道府県について緊急事態措置区域（特定警戒都道府県は前記の13都道府県とする。）として感染拡大の防止に向けた取組を進めてきた。

その結果、全国的に新規報告数の減少が見られ、また、新型コロナウイルス感染症に係る重症者数も減少傾向にあることが確認され、さらに、病床等の確保も進み、医療提供体制のひっ迫の状況も改善されてきた。

5月14日には、その時点における感染状況等の分析・評価を行い、総合的に判断したところ、北海道、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、京都府、大阪府及び兵庫県の8都道府県については、引き続き特定警戒都道府県として、特に重点的に感染拡大の防止に向けた取組を進めていくこととなった。

また、5月21日には、同様に、分析・評価を行い、総合的に判断したところ、北海道、埼玉県、千葉県、東京都及び神奈川県等の5都道府県については、引き続き特定警戒都道府県として、特に重点的に感染拡大の防止に向けた取組を進めていく必要があった。

その後、5月25日に改めて感染状況の変化等について分析・評価を行い、総合的に判断したところ、全ての都道府県が緊急事態措置区域に該当しないこととなったため、同日、緊急事態解除宣言が発出された。

緊急事態宣言解除後、主として7月から8月にかけて、特に大都市部の歓楽街における接待を伴う飲食店を中心に感染が広がり、その後、周辺地域、地方や家庭・職場などに伝播し、全国的な感染拡大につながっていった。

この感染拡大については、政府及び都道府県、保健所設置市、特別区（以下「都道府県等」という。）が連携し、大都市の歓楽街の接待を伴う飲食店等、エリア・業種等の対象を絞った上で、重点的なPCR検査の実施や営業時間短縮要請など、メリハリの効いた対策を講じることにより、新規報告数は減少に転じた。

また、8月7日の新型コロナウイルス感染症対策分科会（以下「分科会」という。）においては、今後想定される感染状況に応じたステージの分類を行うとともに、ステージを判断するための指標（「6つの指標」。以下「ステージ判断の指標」という。）及び各ステージにおいて講じるべき施策が提言された。

この提言を踏まえ、今後、緊急事態宣言の発出及び解除（緊急事態措置区域の追加及び除外を含む。）の判断に当たっては、以下を基本として判断することとする。その際、「ステージ判断の指標」は、提言において、あくまで目安であり、これらの指標をもって機械的に判断するのではなく、政府や都道府県はこれらの指標を総合的に判断すべきとされていることに留意する。また、緊急事態措置区域を定めるに当たっては、都道府県間の社会経済的なつながり等を考慮する。

（緊急事態宣言発出の考え方）

国内での感染拡大及び医療提供体制・公衆衛生体制のひっ迫の状況(特に、分科会提言におけるステージⅣ相当の対策が必要な地域の状況等)を踏まえて、全国的かつ急速なまん延により国民生活及び国民経済に甚大な影響を及ぼすおそれがあるか否かについて、政府対策本部長が基本的対処方針等諮問委員会の意見を十分踏まえた上で総合的に判断する。

(緊急事態宣言解除の考え方)

国内での感染及び医療提供体制・公衆衛生体制のひっ迫の状況(特に、緊急事態措置区域が、分科会提言におけるステージⅢ相当の対策が必要な地域になっているか等)を踏まえて、政府対策本部長が基本的対処方針等諮問委員会の意見を十分踏まえた上で総合的に判断する。

なお、緊急事態宣言の解除後の対策の緩和については段階的に行い、必要な対策はステージⅡ相当以下に下がるまで続ける。

8月28日には政府対策本部が開催され、「新型コロナウイルス感染症に関する今後の取組」がとりまとめられ、重症化するリスクが高い高齢者や基礎疾患がある者への感染防止を徹底するとともに、医療資源を重症者に重点化すること、また、季節性インフルエンザの流行期に備え、検査体制、医療提供体制を確保・拡充することとなった。

夏以降、減少に転じた新規報告数は、10月末以降増加傾向となり、11月以降その傾向が強まっていったことから、クラスター発生時の大規模・集中的な検査の実施による感染の封じ込めや感染拡大時の保健所支援の広域調整等、政府と都道府県等が密接に連携しながら、対策を講じていった。また、10月23日の分科会においては、「感染リスクが高まる「5つの場面」」を回避することや、「感染リスクを下げながら会食を楽しむ工夫」を周知することなどの提言がなされた。12月には首都圏を中心に新規報告数は過去最多の状況が継続し、医療提供体制がひっ迫している地域が見受けられた。

こうした感染状況や医療提供体制・公衆衛生体制に対する負荷の状況に鑑み、令和3年1月7日、政府対策本部長は、法第32条第1項に基づき、

緊急事態措置を実施すべき期間を令和3年1月8日から令和3年2月7日までの31日間とし、緊急事態措置区域を東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県とする緊急事態宣言を行った。

令和3年1月13日には、法第32条第3項に基づき、緊急事態措置区域に栃木県、岐阜県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県及び福岡県を加える変更を行った。

令和3年2月2日には、感染状況や医療提供体制・公衆衛生体制に対する負荷の状況について分析・評価を行い、2月8日以降については、法第32条第3項に基づき、緊急事態措置区域を埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、岐阜県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県及び福岡県の10都府県に変更するとともに、これらの区域において緊急事態措置を実施すべき期間を令和3年3月7日まで延長することとした。

今後、改正法の施行を踏まえ、まん延防止等重点措置の実施及び終了の判断に当たっては、以下を基本として判断することとする。その際、「ステージ判断の指標」は、提言において、あくまで目安であり、これらの指標をもって機械的に判断するのではなく、政府や都道府県はこれらの指標を総合的に判断すべきとされていることに留意する。

（まん延防止等重点措置の実施の考え方）

都道府県の特定の区域において感染が拡大し、当該都道府県全域に感染が拡大するおそれがあり、それに伴い医療提供体制・公衆衛生体制に支障が生ずるおそれがあると認められる事態が発生していること（特に、分科会提言におけるステージⅢ相当の対策が必要な地域の状況になっている等）を踏まえ、政府対策本部長が基本的対処方針等諮問委員会の意見を十分踏まえた上で総合的に判断する。

また、都道府県がステージⅡ相当の対策が必要な地域においても、当該都道府県の特定の区域において感染が急速に拡大し、都道府県全域に感染が拡大するおそれがあると認められる場合や、都道府県がステージⅢ相当の対策が必要な地域において、感染が減少傾向であっても、当該都道府県

の特定の区域において感染水準が高い又は感染が拡大しているなど、感染の再拡大を防止する必要性が高い場合に、政府対策本部長が基本的対処方針等諮問委員会の意見を十分踏まえた上で総合的に判断する。

(まん延防止等重点措置の終了の考え方)

都道府県の感染及び医療提供体制・公衆衛生体制のひっ迫の状況(特に、まん延防止等重点措置を実施している区域の感染状況が、都道府県全域に感染を拡大させるおそれがない水準か等)を踏まえて、政府対策本部長が基本的対処方針等諮問委員会の意見を十分踏まえた上で総合的に判断する。

新型コロナウイルス感染症については、以下のような特徴がある。

- ・ 新型コロナウイルス感染症と診断された人のうち、重症化する人の割合や死亡する人の割合は年齢によって異なり、高齢者は高く、若者は低い傾向にある。令和2年6月から8月に診断された人における重症化する割合や死亡する割合は1月から4月までと比べて低下している。重症化する人の割合は約1.6%(50歳代以下で0.3%、60歳代以上で8.5%)、死亡する人の割合は、約1.0%(50歳代以下で0.06%、60歳代以上で5.7%)となっている。
- ・ 重症化しやすいのは、高齢者と基礎疾患のある人で、重症化のリスクとなる基礎疾患には、慢性閉塞性肺疾患、慢性腎臓病、糖尿病、高血圧、心血管疾患、肥満がある。
- ・ 新型コロナウイルスに感染した人が他の人に感染させる可能性がある期間は、発症の2日前から発症後7日から10日間程度とされている。また、この期間のうち、発症の直前・直後で特にウイルス排出量が高くなると考えられている。

新型コロナウイルス感染症と診断された人のうち、他の人に感染させているのは2割以下で、多くの人には他の人に感染させていないと考えられている。

- ・ 新型コロナウイルス感染症は、主に飛沫感染や接触感染によって感染し、①密閉空間(換気の悪い密閉空間である)、②密集場所(多くの

人が密集している)、③密接場面(互いに手を伸ばしたら手が届く距離での会話や発声が行われる)という3つの条件(以下「三つの密」という。)の環境で感染リスクが高まる。このほか、飲酒を伴う懇親会等、大人数や長時間に及ぶ飲食、マスクなしでの会話、狭い空間での共同生活、居場所の切り替わりといった場面でも感染が起きやすく、注意が必要である。

- ・ 新型コロナウイルス感染症を診断するための検査には、PCR 検査、抗原定量検査、抗原定性検査等がある。新たな検査手法の開発により、検査の種類や症状に応じて、鼻咽頭ぬぐい液だけでなく、唾液や鼻腔ぬぐい液を使うことも可能になっている。なお、抗体検査は、過去に新型コロナウイルス感染症にかかったことがあるかを調べるものであるため、検査を受ける時点で感染しているかを調べる目的に使うことはできない。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の治療は、軽症の場合は経過観察のみで自然に軽快することが多く、必要な場合に解熱薬などの対症療法を行う。呼吸不全を伴う場合には、酸素投与やステロイド薬(炎症を抑える薬)・抗ウイルス薬の投与を行い、改善しない場合には人工呼吸器や体外式膜型人工肺(Extracorporeal membrane oxygenation: ECMO)等による集中治療を行うことがある。
- ・ 英国、南アフリカ等の世界各地で変異株が確認されている。国立感染症研究所によると、英国で確認された変異株(VOC-202012/01)については、英国の解析では今までの流行株よりも感染性が高いこと(実効再生産数を0.4以上増加させ、伝播のしやすさを最大70%程度増加すると推定)が示唆されること、現時点では、重篤な症状との関連性やワクチンの有効性への影響は調査中であることなど、また、南アフリカで確認された変異株(501Y.V2)については、感染性が増加している可能性が示唆されているが、精査が必要であること、現時点では、重篤な症状との関連性やワクチンの有効性への影響を示唆する証拠はないこと等の見解がまとめられている。さらに、ブラジルから入国した患者等から、英国と南アフリカにおいて確認された変異株と共通の変異を認め

る変異株も確認されており、現時点では、より重篤な症状を引き起こす可能性やワクチンの有効性への影響を示唆する証拠はないこと等の見解がまとめられている。

国立感染症研究所によると、変異株であっても、個人の基本的な感染予防策としては、従来と同様に、「三つの密」の回避、マスクの着用、手洗い等が推奨されている。

- 日本国内におけるウイルスの遺伝子的な特徴を調べた研究によると、令和2年1月から2月にかけて、中国武漢から日本国内に侵入した新型コロナウイルスは3月末から4月中旬に封じ込められた一方で、その後、欧米経由で侵入した新型コロナウイルスが日本国内に拡散したものと考えられている。7月、8月の感染拡大は、検体全てが欧州系統から派生した2系統に集約されたものと考えられる。現時点では、国内感染は国内で広がったものが主流と考えられる。
- また、ワクチンについては、令和3年前半までに全国民に提供できる数量の確保を目指すこととしており、これまでモデルナ社、アストラゼネカ社及びファイザー社のワクチンの供給を受けることについて契約締結に至っている。ワクチンの接種を円滑に実施するため、予防接種法（昭和23年法律第68号）の改正を行うとともに、分科会での議論経過等を踏まえ、内閣官房及び厚生労働省において令和3年2月9日に「新型コロナウイルス感染症に係るワクチンの接種について」（以下「ワクチン接種について」という。）をとりまとめ、接種に向け必要な準備を進めている。現時点では国内で承認されたワクチンは存在しないもののファイザー社及びアストラゼネカ社のワクチンについて薬事承認申請がなされ、現在、安全性及び有効性の確認を最優先に、迅速審査を行っているところであり、承認されたワクチンをできる限り2月中旬までに接種を開始できるように、政府一体となって準備を進めている。
- 新型コロナウイルス感染症による日本での経済的な影響を調べた研究では、クレジットカードの支出額によれば、人との接触が多い業態や在宅勤務（テレワーク）の実施が困難な業態は、3月以降、売り上げがよ

り大きく減少しており、影響を受けやすい業態であったことが示されている。また、令和2年4～6月期の国内総生産（GDP）は実質で前期比8.3%減、年率換算で29.2%減を記録した。

二 新型コロナウイルス感染症の対処に関する全般的な方針

- ① これまでの感染拡大期の経験や国内外の様々な研究等の知見を踏まえ、より効果的な感染防止策等を講じていく。
- ② 緊急事態措置区域においては、社会経済活動を幅広く止めるのではなく、感染リスクが高く感染拡大の主な起点となっている場面に効果的な対策を徹底する。すなわち、飲食を伴うものを中心として対策を講じることとし、その実効性を上げるために、飲食につながる人の流れを制限することを実施する。具体的には、飲食店に対する営業時間短縮要請、外出の自粛要請、テレワークの推進等の取組を強力に推進する。
- ③ 緊急事態措置区域から除外された地域においては、対策の緩和については段階的に行い、必要な対策はステージII相当以下に下がるまで続ける。
- ④ まん延防止等重点措置を実施すべき区域（以下「重点措置区域」という。）においては、都道府県知事が定める期間、区域及び業態において、感染リスクが高く感染拡大の主な起点となっている場面に効果的な対策を徹底する。
- ⑤ 緊急事態措置区域及び重点措置区域以外の地域においては、地域の感染状況や医療提供体制の確保状況等を踏まえながら、感染拡大の防止と社会経済活動の維持との持続的な両立を図っていく。その際、感染状況は地域によって異なることから、各都道府県知事が適切に判断する必要があるとともに、人の移動があることから、隣県など社会経済的につながりのある地域の感染状況に留意する必要がある。
- ⑥ 感染拡大を予防する「新しい生活様式」の定着や「感染リスクが高まる「5つの場面」」を回避すること等を促すとともに、事業者及び関係団体に対して、業種別ガイドライン等の実践と科学的知見等に基づく

進化を促していく。

- ⑦ 新型コロナウイルス感染症についての監視体制の整備及び的確な情報提供・共有により、感染状況等を継続的に監視する。また、医療提供体制がひっ迫することのないよう万全の準備を進めるほか、検査機能の強化、保健所の体制強化及びクラスター対策の強化等に取り組む。
- ⑧ 的確な感染防止策及び経済・雇用対策により、感染拡大の防止と社会経済活動の維持との両立を持続的に可能としていく。
- ⑨ 感染の拡大が認められる場合には、政府や都道府県が密接に連携しながら、重点的・集中的な PCR 検査の実施や営業時間短縮要請等を含め、速やかに強い感染対策等を講じる。

三 新型コロナウイルス感染症対策の実施に関する重要事項

(1) 情報提供・共有

- ① 政府は、地方公共団体と連携しつつ、以下の点について、国民の共感が得られるようなメッセージを発出するとともに、状況の変化に即応した情報提供や呼びかけを行い、行動変容に資する啓発を進めるとともに、冷静な対応をお願いする。
 - ・ 発生状況や患者の病態等の臨床情報等の正確な情報提供。
 - ・ 国民に分かりやすい疫学解析情報の提供。
 - ・ 医療提供体制及び検査体制に関する分かりやすい形での情報の提供。
 - ・ 「三つの密」の回避や、「人と人との距離の確保」、「マスクの着用」、「手洗いなどの手指衛生」をはじめとした基本的な感染対策の徹底等、感染拡大を予防する「新しい生活様式」の定着に向けた周知。
 - ・ 室内で「三つの密」を避けること。特に、日常生活及び職場において、人混みや近距離での会話、多数の者が集まり室内において大きな声を出すことや歌うこと、呼気が激しくなるような運動を行うことを避けるように強く促すこと。
 - ・ 令和2年10月23日の分科会で示された、「感染リスクが高まる「5つの

場面」(飲酒を伴う懇親会やマスクなしでの会話など)や、「感染リスクを下げながら会食を楽しむ工夫」(なるべく普段一緒にいる人と少人数、席の配置は斜め向かい、会話の時はマスク着用等)の周知。

- ・ 業種別ガイドライン等の実践。特に、飲食店等について、業種別ガイドラインを遵守している飲食店等を利用するよう、促すこと。
 - ・ 風邪症状等体調不良がみられる場合の休暇取得、学校の欠席、外出自粛等の呼びかけ。
 - ・ 感染リスクを下げるため、医療機関を受診する時は、あらかじめ厚生労働省が定める方法による必要があることの周知。
 - ・ 新型コロナウイルス感染症についての相談・受診の考え方を分かりやすく周知すること。
 - ・ 感染者・濃厚接触者や、診療に携わった医療機関・医療関係者その他の対策に携わった方々に対する誤解や偏見に基づく差別を行わないことの呼びかけ。
 - ・ 従業員及び学生の健康管理や感染対策の徹底についての周知。
 - ・ 国民の落ち着いた対応(不要不急の帰省や旅行など都道府県をまたいだ移動の自粛等や商店への殺到の回避及び買い占めの防止)の呼びかけ。
 - ・ 接触確認アプリ(COVID-19 Contact-Confirming Application: C O C O A)のインストールを呼びかけるとともに、陽性者との接触があった旨の通知があった場合における適切な機関への受診の相談や陽性者と診断された場合における登録の必要性についての周知。併せて、地域独自のQRコード等による追跡システムの利用の呼びかけ。
- ② 政府は、広報担当官を中心に、官邸のウェブサイトにおいて厚生労働省等関係省庁のウェブサイトへのリンクを紹介するなどして有機的に連携させ、かつ、ソーシャルネットワーキングサービス(SNS)等の媒体も積極的に活用することで、迅速かつ積極的に国民等への情報発信を行う。
- ③ 政府は、民間企業等とも協力して、情報が必ずしも届いていない層に十分な情報が行き届くよう、丁寧な情報発信を行う。
- ④ 厚生労働省は、感染症やクラスターの発生状況について迅速に情報を公

開する。

- ⑤ 外務省は、全世界で感染が拡大していることを踏まえ、各国に滞在する邦人等への適切な情報提供、支援を行う。
- ⑥ 政府は、検疫所からの情報提供に加え、企業等の海外出張又は長期の海外滞在のある事業所、留学や旅行機会の多い大学等においても、帰国者への適切な情報提供を行い、渡航の是非の判断・確認や、帰国者に対する14日間の外出自粛の要請等の必要な対策を講じるよう周知を図る。
- ⑦ 政府は、国民、在留外国人、外国人旅行者及び外国政府に対し、帰国時・入国時の手続や目的地までの交通手段の確保等について適切かつ迅速な情報提供を行い、国内でのまん延防止と風評対策につなげる。また、政府は、日本の感染対策や感染状況の十分な理解を醸成するよう、諸外国に対して情報発信に努める。
- ⑧ 地方公共団体は、政府との緊密な情報連携により、様々な手段により住民に対して地域の感染状況に応じたメッセージや注意喚起を行う。
- ⑨ 都道府県等は、厚生労働省や専門家と連携しつつ、積極的疫学調査により得られた情報を分析し、今後の対策に資する知見をまとめて、国民に還元するよう努める。
- ⑩ 政府は、今般の新型コロナウイルス感染症に係る事態が行政文書の管理に関するガイドライン（平成23年4月1日内閣総理大臣決定）に基づく「歴史的緊急事態」と判断されたことを踏まえた対応を行う。地方公共団体も、これに準じた対応に努める。

(2) サーベイランス・情報収集

- ① 感染の広がりを把握するために必要な検査を実施し、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成10年法律第114号。以下「感染症法」という。）第12条に基づく医師の届出等によりその実態を把握する。
- ② 厚生労働省及び都道府県等は、感染が拡大する傾向が見られる場合はそれを迅速に察知して的確に対応できるよう、戦略的サーベイランス体制を整えておく必要がある。また、感染拡大の防止と社会経済活動の維

持との両立を進めるためにも感染状況を的確に把握できる体制をもつことが重要であるとの認識の下、地方衛生研究所や民間の検査機関等の関係機関における検査体制の一層の強化、地域の関係団体と連携した地域外来・検査センターの設置等を迅速に進めるとともに、新しい検査技術についても医療現場に迅速に導入する。都道府県は、医療機関等の関係機関により構成される会議体を設けること等により、民間の検査機関等の活用促進を含め、PCR検査等の実施体制の把握・調整等を図る。さらに、厚生労働省は、PCR検査及び抗原検査の役割分担について検討・評価を行う。また、これらを踏まえ、検査が必要な者に、より迅速・円滑に検査を行い、感染が拡大している地域においては、医療・介護従事者、入院・入所者等関係者に対し、抗原定性検査やプール化検査法を含むPCR検査等による幅広い検査の実施に向けて取組を進めるとともに、院内・施設内感染対策の強化を図る。特定都道府県に対し、感染多数地域における高齢者施設の従事者等の検査の集中的実施計画を策定し、令和3年3月までを目途に実施するとともに、その後も地域の感染状況に応じ定期的に実施するよう求める。政府と都道府県等で協働して今後の感染拡大局面も見据えた準備を進めるため、厚生労働省は、財政的な支援をはじめ必要な支援を行い、都道府県等は、相談・検体採取・検査の一連のプロセスを通じた対策を実施する。また、社会経済活動の中で希望により受ける民間検査については、感染症法第16条の2に基づき、民間検査機関に精度管理や提携医療機関の決定等の協力を求めることなどにより環境整備を進めていく。

- ③ 厚生労働省は、感染症法第12条に基づく医師の届出とは別に、市中での感染状況を含め国内の流行状況等を把握するため、抗体保有状況に関する調査など有効なサーベイランスを実施する。また、いわゆる超過死亡については、新型コロナウイルス感染症における超過死亡を推計し、適切に把握する。
- ④ 厚生労働省は、医療機関や保健所の事務負担の軽減を図りつつ、患者等に関する情報を関係者で迅速に共有するための情報把握・管理支援システム（Health Center Real-time Information-sharing System on COVID-19：HER-SYS）を活用し、都道府県別の陽性者数等の統計データ

の収集・分析を行うとともに、その結果を適宜公表し、より効果的・効率的な対策に活用していく。

- ⑤ 政府は、医療機関の空床状況や人工呼吸器・ECMOの保有・稼働状況等を迅速に把握する医療機関等情報支援システム（Gathering Medical Information System：G-MIS）を構築・運営し、医療提供状況やPCR検査等の実施状況等を一元的かつ即座に把握するとともに、都道府県等にも提供し、迅速な患者の受入調整等にも活用する。
- ⑥ 文部科学省及び厚生労働省は、学校等での集団発生の把握の強化を図る。
- ⑦ 政府は、変異株を迅速に検出するスクリーニング技術の普及、国内検体のゲノム解析の実施、変異株が発生した際の積極的疫学調査の支援など、国内の変異株の監視体制を強化する。
- ⑧ 都道府県等は、感染症法第12条及び第15条に基づき、地方公共団体間での迅速な情報共有を行うとともに、都道府県は、県下の感染状況について、リスク評価を行う。
- ⑨ 遺伝子配列を分析するにあたり、公衆衛生対策を進めていく上で必要な情報を、国立感染症研究所において収集を行う。

(3) まん延防止

1) 外出の自粛（後述する「4）職場への出勤等」を除く）

特定都道府県は、法第45条第1項に基づき、日中も含めた不要不急の外出・移動の自粛について協力の要請を行うものとする。特に、20時以降の不要不急の外出自粛について、住民に徹底する。なお、その際、不要不急の都道府県間の移動や、感染が拡大している地域への不要不急の移動は、極力控えるように促す。

医療機関への通院、食料・医薬品・生活必需品の買い出し、必要な職場への出勤、屋外での運動や散歩など、生活や健康の維持のために必要なものについては外出の自粛要請の対象外とする。

また、「三つの密」を徹底的に避けるとともに、「人と人との距離の確保」「マスクの着用」「手洗いなどの手指衛生」等の基本的な感染対策を徹底す

るとともに、あらゆる機会を捉えて、令和2年4月22日の専門家会議で示された「10のポイント」、5月4日の専門家会議で示された「新しい生活様式の実践例」、10月23日の分科会で示された、「感染リスクが高まる「5つの場面」」等を活用して住民に周知を行うものとする。

2) 催物（イベント等）の開催制限

特定都道府県は、当該地域で開催される催物（イベント等）について、主催者等に対して、法第45条第2項等に基づき、別途通知する目安を踏まえた規模要件等（人数上限・収容率、飲食を伴わないこと等）を設定し、その要件に沿った開催の要請等を行うものとする。

その際、改正法の施行により、命令、過料の規定が設けられたことを踏まえ、その手続に関しては、別途通知する手続に沿って行うことに留意する。このことは後述3)においても同様とする。

併せて、開催に当たっては、業種別ガイドラインの徹底や催物前後の「三つの密」及び飲食を回避するための方策を徹底するよう、主催者等に求めるものとする。

また、スマートフォンを活用した接触確認アプリ（COCOA）について、検査の受診等保健所のサポートを早く受けられることやプライバシーに最大限配慮した仕組みであることを周知し、民間企業・団体等の幅広い協力を得て引き続き普及を促進する。

3) 施設の使用制限等（前述の「2）催物（イベント等）の開催制限」、後述する「5）学校等の取扱い」を除く）

- ① 特定都道府県は、法第45条第2項等に基づき、感染リスクが高いと指摘されている飲食の場を避ける観点から、飲食店に対して営業時間の短縮（20時までとする。ただし、酒類の提供は11時から19時までとする。）の要請を行うとともに、法第24条第9項に基づき、業種別ガイドラインを遵守するよう要請を行うものとする。

要請に当たっては、関係機関とも連携し、営業時間の短縮等を徹底するための対策・体制の強化を行い、できる限り個別に施設に対して働きかけを行う。その際、併せて、事業者に対して、業種別ガイドラ

インの遵守を働きかける。

また、特定都道府県は、20 時以降の不要不急の外出自粛を徹底すること及び施設に人が集まり、飲食につながることを防止する必要があること等を踏まえ、別途通知する飲食店以外の新型インフルエンザ等対策特別措置法施行令（平成 25 年政令第 122 号。以下「令」という。）第 11 条に規定する施設についても、同様の働きかけを行うものとする。

また、特定都道府県は、感染の拡大につながるおそれのある一定の施設について、別途通知する目安を踏まえた規模要件等（人数上限・収容率、飲食を伴わないこと等）を設定し、その要件に沿った施設の使用の働きかけを行うとともに、法第 24 条第 9 項に基づき、業種別ガイドラインを遵守するよう要請を行うものとする。

- ② 政府は、地方創生臨時交付金に設けた「協力要請推進枠」により、飲食店に対して営業時間短縮要請等と協力金の支払いを行う都道府県を支援する。
- ③ 事業者及び関係団体は、今後の持続的な対策を見据え、業種別ガイドライン等を実践するなど、自主的な感染防止のための取組を進める。その際、政府は、専門家の知見を踏まえ、関係団体等に必要な情報提供や助言等を行う。

4) 職場への出勤等

- ① 政府及び特定都道府県は、事業者に対して、以下の取組を行うよう働きかけを行うものとする。
 - ・ 職場への出勤は、外出自粛等の要請の対象から除かれるものであるが、「出勤者数の 7 割削減」を目指すことも含め接触機会の低減に向け、在宅勤務（テレワーク）や、出勤が必要となる職場でもローテーション勤務等を更に徹底すること。
 - ・ 20 時以降の不要不急の外出自粛を徹底することを踏まえ、事業の継続に必要な場合を除き、20 時以降の勤務を抑制すること。
 - ・ 職場に出勤する場合でも、時差出勤、自転車通勤等の人との接触を

低減する取組を強力に推進すること。

- ・ 職場においては、感染防止のための取組（手洗いや手指消毒、咳エチケット、職員同士の距離確保、事業場の換気励行、複数人が触る箇所の消毒、発熱等の症状が見られる従業員の出勤自粛、出張による従業員の移動を減らすためのテレビ会議の活用等）や「三つの密」や「感染リスクが高まる「5つの場面」」等を避ける行動を徹底するよう促すこと。特に職場での「居場所の切り替わり」（休憩室、更衣室、喫煙室等）に注意するよう周知すること。さらに、職場や店舗等に関して、業種別ガイドライン等を実践するよう働きかけること。
- ・ 別添に例示する国民生活・国民経済の安定確保に不可欠な業務を行う事業者及びこれらの業務を支援する事業者においては、「三つの密」を避けるために必要な対策を含め、十分な感染防止策を講じつつ、事業の特性を踏まえ、業務を継続すること。

② 政府及び地方公共団体は、在宅勤務（テレワーク）、ローテーション勤務、時差出勤、自転車通勤等、人との接触を低減する取組を自ら進めるとともに、事業者に対して必要な支援等を行う。

③ 政府は、上記①に示された感染防止のための取組等を働きかけるため、特に留意すべき事項を提示し、事業者自らが当該事項の遵守状況を確認するよう促す。また、遵守している事業者に、対策実施を宣言させるなど、感染防止のための取組が勧奨されるよう促す。

5) 学校等の取扱い

- ① 文部科学省は、学校設置者及び大学等に対して一律に臨時休業を求めるのではなく、地域の感染状況に応じた感染防止策の徹底を要請する。幼稚園、小学校、中学校、高等学校等については、子供の健やかな学びの保障や心身への影響の観点から、「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」等を踏まえた対応を要請する。また、大学等については、感染防止と面接授業・遠隔授業の効果的实施等による学修機会の確保の両立に向けて適切に対応することを要請する。部活動、課外活動、学生寮における感染防止策、懇

親会や飲み会などについては、学生等への注意喚起の徹底（緊急事態宣言区域においては、部活動における感染リスクの高い活動の制限）を要請する。大学入試、高校入試等については、実施者において、感染防止策や追検査等による受験機会の確保に万全を期した上で、予定どおり実施する。都道府県は、学校設置者に対し、保健管理等の感染症対策について指導するとともに、地域の感染状況や学校関係者の感染者情報について速やかに情報共有を行うものとする。

- ② 厚生労働省は、保育所や放課後児童クラブ等について、感染防止策の徹底を行いつつ、原則開所することを要請する。

6) 緊急事態措置区域から除外された都道府県における取組等

- ① 緊急事態措置区域から除外された都道府県においては、前述したように「対策の緩和については段階的に行い、必要な対策はステージⅡ相当以下に下がるまで続ける」ことを基本とし、後述8)に掲げる基本的な感染防止策等に加え、住民や事業者に対して、以下の取組を行うものとする。その際、地域の感染状況や感染拡大リスク等について評価を行いながら、対策を段階的に緩和する。また、再度、感染拡大の傾向が見られる場合には、地域における感染状況や公衆衛生体制・医療提供体制への負荷の状況について十分、把握・分析を行いつつ、迅速かつ適切に取組の強化を図るものとする。

- ・ 当面、法第24条第9項に基づき、日中も含めた不要不急の外出の自粛について協力の要請を行うこと。その後、地域の感染状況等を踏まえながら、段階的に緩和すること。
- ・ 当該地域で開催される催物（イベント等）に係る規模要件等（人数上限・収容率、飲食を伴わないこと等）については、地域の感染状況等を踏まえながら、段階的に緩和すること。
- ・ 当面、法第24条第9項に基づく飲食店に対する営業時間の短縮の要請については、継続すること。なお、営業時間及び対象地域等については、地域の感染状況等に応じ、各都道府県知事が適切に判断すること。

また、別途通知する飲食店以外の令第 11 条に規定する施設に対する営業時間の短縮等の働きかけについては、地域の感染状況等に応じ、各都道府県知事が適切に判断すること。

- ・ 職場への出勤等については、当面、「出勤者数の 7 割削減」を目指し、在宅勤務（テレワーク）や、出勤が必要となる職場でもローテーション勤務等を強力に推進すること。その後、地域の感染状況等を踏まえながら、段階的に緩和すること。

- ② 政府及び都道府県は、再度の感染拡大の予兆を早期に探知するため、歓楽街等における幅広い PCR 検査等（モニタリング検査）やデータ分析の実施を検討し、感染の再拡大を防ぐこと。
- ③ 都道府県は、①②の取組を行うに当たっては、あらかじめ政府と迅速に情報共有を行う。

7) 重点措置区域における取組等

- ① 重点措置区域である都道府県においては、まん延防止等重点措置が、地域の感染状況に応じて、期間・区域、業態を絞った措置を機動的に実施できる仕組みであり、発生の動向等を踏まえた集中的な対策により、地域的に感染を抑え込むことで、全国的かつ急速なまん延を防ぐ趣旨で創設されたものであることを踏まえ、感染リスクが高く感染拡大の主な起点となっている場面に効果的な対策を徹底するため、後述 8) に掲げる基本的な感染防止策等に加え、以下の取組を行うものとする。

また、都道府県知事は、区域を指定するに当たって市町村単位や一定の区画を原則とするなど、区域、期間及び業態を定めるに当たっては、効果的な対策となるよう留意する。

- ・ 感染リスクが高いと指摘されている飲食の場を避ける観点から、都道府県知事が定める期間及び区域において、法第 31 条の 6 第 1 項等に基づき、飲食店（新規陽性者の数等、地域の感染状況を踏まえて、酒類の提供を行う飲食店や接待を伴う飲食店等とすることもあり得るが、その場合、感染防止効果について、政府と連携しなが

ら、十分検討を行うものとする。) に対する営業時間の短縮の要請を行うこと。営業時間については、地域の感染の状況等を踏まえて、都道府県知事が適切に判断すること。また、改正法の施行により、命令、過料の規定が設けられたことを踏まえ、その手続に関しては、別途通知する手続に沿って行うこと。

- ・ 法第 24 条第 9 項に基づき、業種別ガイドラインを遵守するよう要請を行うこと。
 - ・ これらの要請に当たっては、関係機関とも連携し、営業時間の短縮等や業種別ガイドラインの遵守を徹底するための対策・体制の強化を行い、できる限り個別に施設に対して働きかけを行うこと。
 - ・ 法第 31 条の 6 第 2 項に基づき、上記により営業時間の変更を要請した時間以降、飲食店等にみだりに出入りしないよう、住民に対して要請等を行うこと。併せて、法第 24 条第 9 項に基づき、日中も含めた不要不急の外出・移動の自粛等について、住民に対して協力の要請を行うことも検討すること。
 - ・ 都道府県知事が定める期間及び区域で行われる催物(イベント等)について、主催者等に対して、法第 24 条第 9 項等に基づき、別途通知する目安を踏まえた規模要件等(人数上限・収容率、飲食を伴わないこと等)を設定し、その要件に沿った開催の要請等を行うこと。
- ② 政府は、地方創生臨時交付金に設けた「協力要請推進枠」により、飲食店に対して営業時間短縮要請等と協力金の支払いを行う都道府県を支援する。
- ③ 重点措置区域である都道府県は、①の取組を行うに当たっては、あらかじめ政府と迅速に情報共有を行う。
- 8) 緊急事態措置区域及び重点措置区域以外の都道府県における取組等
- ① 都道府県は、持続的な対策が必要であることを踏まえ、住民や事業者に対して、以下の取組を行うものとする。その際、感染拡大の防止と社会経済活動の維持との両立を持続的に可能としていくため、「新

しい生活様式」の社会経済全体への定着を図るとともに、地域の感染状況や感染拡大リスク等について評価を行いながら、必要に応じて、後述③等のとおり、外出の自粛、催物（イベント等）の開催制限、施設の使用制限等の要請等を機動的に行うものとする。

（外出の自粛等）

- ・ 「三つの密」、「感染リスクが高まる「5つの場面」」等の回避や、「人と人との距離の確保」「マスクの着用」「手洗いなどの手指衛生」をはじめとした基本的な感染対策の徹底等、感染拡大を防止する「新しい生活様式」の定着が図られるよう、あらゆる機会を捉えて、令和2年4月22日の専門家会議で示された「10のポイント」、5月4日の専門家会議で示された「新しい生活様式の実践例」、10月23日の分科会で示された「感染リスクが高まる「5つの場面」」等について住民や事業者に周知を行うこと。
- ・ 帰省や旅行など、都道府県をまたぐ移動は、「三つの密」の回避を含め基本的な感染防止策を徹底するとともに、特に大人数の会食を控える等注意を促すこと。

感染が拡大している地域において、こうした対応が難しいと判断される場合は、帰省や旅行について慎重な検討を促すこと。特に発熱等の症状がある場合は、帰省や旅行を控えるよう促すこと。

- ・ 業種別ガイドライン等を遵守している施設等の利用を促すこと。
- ・ 感染拡大の兆候や施設等におけるクラスターの発生があった場合、政府と連携して、外出の自粛に関して速やかに住民に対して必要な協力の要請等を行うこと。

（催物（イベント等）の開催）

- ・ 催物等の開催については、「新しい生活様式」や業種別ガイドライン等に基づく適切な感染防止策が講じられることを前提に、地域の感染状況や感染拡大リスク等について評価を行いながら、必要な規模要件（人数上限や収容率）の目安を示すこと。その際、事業者及び関係団体において、エビデンスに基づきガイドラインが進化、改訂された場

合は、それに基づき適切に要件を見直すこと。

また、催物等の態様（屋内であるか、屋外であるか、また、全国的なものであるか、地域的なものであるかなど）や種別（コンサート、展示会、スポーツの試合や大会、お祭りなどの行事等）に応じて、開催の要件や主催者において講じるべき感染防止策を検討し、主催者に周知すること。

催物等の開催に当たっては、その規模に関わらず、「三つの密」が発生しない席の配置や「人と人との距離の確保」、「マスクの着用」、催物の開催中や前後における選手、出演者や参加者等に係る主催者による行動管理等、基本的な感染防止策が講じられるよう、主催者に対して強く働きかけるとともに、参加者名簿を作成して連絡先等を把握しておくことや、接触確認アプリ（COCOA）等の活用等について、主催者に周知すること。

- ・ 感染拡大の兆候や催物等におけるクラスターの発生があった場合、政府と連携して、人数制限の強化、催物等の無観客化、中止又は延期等を含めて、速やかに主催者に対して必要な協力の要請等を行うこと。（職場への出勤等）
- ・ 事業者に対して、在宅勤務（テレワーク）、時差出勤、自転車通勤等、人との接触を低減する取組を働きかけること。
- ・ 事業者に対して、職場における、感染防止のための取組（手洗いや手指消毒、咳エチケット、職員同士の距離確保、事業場の換気励行、複数人が触る箇所の消毒、発熱等の症状が見られる従業員の出勤自粛、出張による従業員の移動を減らすためのテレビ会議の活用等）や「三つの密」や「感染リスクが高まる「5つの場面」」等を避ける行動を徹底するよう促すこと。特に職場での「居場所の切り替わり」（休憩室、更衣室、喫煙室等）に注意するよう周知すること。さらに、職場や店舗等に関して、業種別ガイドライン等を実践するよう働きかけること。その際には、特に留意すべき事項の確認を促し、遵守している事業者には対策実施を宣言させる等、感染防止のための取組

を強く勧奨すること。

(施設の使用制限等)

- ・ これまでにクラスターが発生しているような施設や、「三つの密」のある施設については、地域の感染状況等を踏まえ、施設管理者等に対して必要な協力を依頼すること。
- ・ 感染拡大の兆候や施設等におけるクラスターの発生があった場合、政府と連携して、施設の使用制限等を含めて、速やかに施設管理者等に対して必要な協力の要請等を行うこと。

② 都道府県は、感染の状況等を継続的に監視し、その変化が認められた場合、住民に適切に情報提供を行い、感染拡大への警戒を呼びかけるものとする。

③ 都道府県は、感染拡大の傾向が見られる場合には、地域における感染状況や公衆衛生体制・医療提供体制への負荷の状況について十分、把握・分析を行い、8月7日の分科会の提言で示された指標を目安としつつ総合的に判断し、同提言に示された各ステージにおいて「講ずべき施策」や累次の分科会提言(12月11日「今後の感染の状況を踏まえた対応についての分科会から政府への提言」等)等を踏まえ、地域の実情に応じて、迅速かつ適切に法第24条第9項に基づく措置等を講じるものとする。特に、ステージⅢ相当の対策が必要な地域等にあっては、速やかにステージⅡ相当の対策が必要な地域へ移行するよう、取り組むものとする。

④ 都道府県は、①③の取組を行うに当たっては、あらかじめ政府と迅速に情報共有を行う。

9) 予防接種

政府、都道府県及び市町村は、以下のように新型コロナウイルス感染症に係るワクチン接種を行うものとする。

① 新型コロナウイルス感染症に係るワクチンの接種目的は、新型コロナウイルス感染症の発症を予防し、死亡者や重症者の発生をできる限り減らすことであること。

- ② 関係機関と連携し、迅速にワクチンの開発等を進めるとともに、承認申請された際には審査を行った上で、安全性及び有効性を確認し、できるだけ早期の実用化、国民への供給を目指すこと。
- ③ 予防接種については、予防接種法及び検疫法の一部を改正する法律（令和2年法律第75号）による改正後の予防接種法に基づく臨時接種の特例として、厚生労働大臣の指示のもと、都道府県の協力により市町村において実施すること。
- ④ 予防接種の実施体制や接種順位等については、令和3年2月9日の「ワクチン接種について」を踏まえ接種を円滑かつ効率的に実施する観点に立つて行うこと。
- ⑤ 予防接種により健康被害が生じた場合の救済措置や副反応疑い報告等については、予防接種法の現行の規定を適用し適切に実施すること。
- ⑥ 予防接種は最終的には個人の判断で接種されるものであることから、予防接種に当たっては、リスクとベネフィットを総合的に勘案し接種の判断ができる情報を提供することが必要であること。

その上で、政府は、国民に対して、ワクチンの安全性及び有効性についての情報を提供するなど、的確で丁寧なコミュニケーション等を進め、幅広く予防接種への理解を得るとともに、国民が自らの意思で接種の判断を行うことができるよう取り組むこと。

10) 水際対策

- ① 政府は、水際対策について、変異株を含め、国内への感染者の流入及び国内での感染拡大を防止する観点から、入国制限、渡航中止勧告、帰国者の検査・健康観察等の検疫の強化、査証の制限等の措置等を、引き続き、実施する。特に、変異株については、当該国の変異株の流行状況、日本への流入状況などのリスク評価に基づき、検疫の強化等について検討する。なお、厚生労働省は、関係省庁と連携し、健康観察について、保健所の業務負担の軽減や体制強化等を支援する。
- ② 諸外国での新型コロナウイルス感染症の発生の状況を踏まえて、必

要に応じ、国土交通省は、航空機の到着空港の限定の要請、港湾の利用調整や水際・防災対策連絡会議等を活用した対応力の強化等を行うとともに、厚生労働省は、特定検疫港等の指定を検討する。

- ③ 厚生労働省は、停留に利用する施設が不足する場合には、法第 29 条の適用も念頭に置きつつも、必要に応じ、関係省庁と連携して、停留に利用可能な施設の管理者に対して丁寧な説明を行うことで停留施設の確保に努める。

11) クラスター対策の強化

- ① 都道府県等は、厚生労働省や専門家と連携しつつ、積極的疫学調査により、個々の濃厚接触者を把握し、健康観察、外出自粛の要請等を行うとともに、感染拡大の規模を適確に把握し、適切な感染対策を行う。その際、より効果的な感染拡大防止につなげるため、積極的疫学調査を実施する際に優先度も考慮する。積極的疫学調査に対して正当な理由がなく協力しない場合の命令、この命令に正当な理由がなく応じない場合の罰則の適用については、対象者の人権に十分に配慮し、慎重に運用すること。
- ② 政府は、関係機関と協力して、クラスター対策に当たる専門家の確保及び育成を行う。
- ③ 厚生労働省及び都道府県等は、関係機関と協力して、特に、感染拡大の兆候が見られた場合には、専門家やその他人員を確保し、その地域への派遣を行う。

なお、感染拡大が顕著な地域において、保健所における積極的疫学調査に係る人員体制が不足するなどの問題が生じた場合には、都道府県は関係学会・団体等の専門人材派遣の仕組みである IHEAT (Infectious disease Health Emergency Assistance Team) の活用や、厚生労働省と調整し、他の都道府県からの応援派遣職員の活用等の人材・体制確保のための対策を行う。

また、都道府県等が連携し、積極的疫学調査等の専門的業務を十分に実施できるよう保健所の業務の重点化や人材育成等を行うこと等

により、感染拡大時に即応できる人員体制を平時から整備する。

- ④ 政府及び都道府県等は、クラスター対策を抜本強化するという観点から、保健所の体制強化に迅速に取り組む。これに関連し、特定都道府県は、管内の市町村と迅速な情報共有を行い、また、対策を的確かつ迅速に実施するため必要があると認めるときは、法第 24 条に基づく総合調整を行う。さらに、都道府県等は、クラスターの発見に資するよう、地方公共団体間の迅速な情報共有に努めるとともに、政府は、対策を的確かつ迅速に実施するため必要があると認めるときは、法第 20 条に基づく総合調整を行う。
- ⑤ 政府及び都道府県等は、クラスター対策を強化する観点から、以下の取組を行う。
- ・ 大規模な歓楽街については、令和 2 年 10 月 29 日の分科会における「大都市の歓楽街における感染拡大防止対策ワーキンググループ当面の取組方策に関する報告書」に示された取組を踏まえ、通常時から相談・検査体制の構築に取り組むとともに、早期に予兆を探知し、介入時には、速やかに重点的（地域集中的）な PCR 検査等の実施や、必要に応じ、エリア・業種を絞った営業時間短縮要請等を機動的に行うこと。
 - ・ 事業者に対し、職場でのクラスター対策の徹底を呼びかけること。
 - ・ 言語の壁や生活習慣の違いがある在留外国人を支援する観点から、政府及び都道府県等が提供する情報の一層の多言語化、大使館のネットワーク等を活用したきめ細かな情報提供、相談体制の整備等により、検査や医療機関の受診に早期につながる仕組みを構築すること。
- ⑥ 政府は、接触確認アプリ（COCOA）について、機能の向上を図るとともに、検査の受診等保健所のサポートを早く受けられることやプライバシーに最大限配慮した仕組みであることを周知し、その幅広い活用や、感染拡大防止のための陽性者としての登録を行うよう、呼びかけを行い、新型コロナウイルス感染症等情報把握・管理支援シス

テム（HER-SYS）及び保健所等と連携した積極的疫学調査で活用することにより、効果的なクラスター対策につなげていく。

12) その他共通的事項等

- ① 特定都道府県又は重点措置区域である都道府県は、地域の特性に応じた実効性のある緊急事態措置又はまん延防止等重点措置を講じる。特定都道府県又は重点措置区域である都道府県は、緊急事態措置又はまん延防止等重点措置を講じるに当たっては、法第5条を踏まえ、必要最小限の措置とするとともに、講じる措置の内容及び必要性等について、国民に対し丁寧の説明する。
- ② 政府及び特定都道府県は、緊急事態措置を講じること等に伴い、食料・医薬品や生活必需品の買い占め等の混乱が生じないように、国民に冷静な対応を促す。
- ③ 政府及び地方公共団体は、緊急事態措置の実施に当たっては、事業者の円滑な活動を支援するため、事業者からの相談窓口の設置、物流体制の確保、ライフラインの万全の体制の確保等に努める。
- ④ 政府は、関係機関と協力して、公共交通機関その他の多数の人が集まる施設における感染対策を徹底する。

(4) 医療等

- ① 重症者等に対する医療提供に重点を置いた入院医療の提供体制の確保を進めるため、厚生労働省と都道府県等は、関係機関と協力して、次のような対策を講じる。
 - ・ 重症者や重症化リスクのある者に医療資源の重点をシフトする観点から、令和2年10月14日の新型コロナウイルス感染症を指定感染症として定める等の政令（令和2年政令第11号）の改正（令和2年10月24日施行）により、高齢者や基礎疾患のある者等入院勧告・措置の対象の明確化を行っており、改正法の施行により、この取扱いが法定化された。都道府県等は、関係法令に基づき、地域の感染状況等を踏まえ、適切に入院勧告・措置を運用すること。また、改正法の

施行により、入院措置に正当な理由なく応じない場合や入院先から逃げた場合の罰則が設けられたが、都道府県等は、その運用に当たって、患者の人権に十分に配慮し、慎重に運用するとともに、患者への偏見・差別につながらないよう、(6)で後述する取組の一層の強化を図ること。

重症者等に対する医療提供に重点を置くべき地域では、特に病床確保や都道府県全体の入院調整に最大限努力した上で、なお病床がひっ迫する場合には、高齢者等も含め入院治療が必要ない無症状病原体保有者及び軽症患者（以下「軽症者等」という。）については、感染症法第44条の3第2項に基づき宿泊施設(適切な場合は自宅)での療養を要請することで、入院治療が必要な患者への医療提供体制の確保を図ること。丁寧な健康観察を実施すること。

特に、家庭内での感染防止や症状急変時の対応のため、宿泊施設が十分に確保されているような地域では、軽症者等は宿泊療養を基本とすること。そのため、都道府県は、患者の病状、数その他感染症の発生及びまん延の状況を勘案して、ホテル等の一時的な宿泊療養施設の確保に努めるとともに、都道府県等は、宿泊療養施設の運営体制を確保すること。政府は、都道府県等と密接に連携し、これらの取組を支援すること。

自宅療養等を行う際には、都道府県等は電話等情報通信機器を用いて遠隔で健康状態を把握するとともに、医師が必要とした場合には電話等情報通信機器を用いて診療を行う体制を整備すること。特に、病床のひっ迫等により自宅療養者等が多い都道府県においては、医師会等への業務委託を推進するとともに、パルスオキシメーターの貸与等により患者の健康状態や症状の変化を迅速に把握できるようにするなど、環境整備を進めること。

- ・ 都道府県等は、患者が入院、宿泊療養、自宅療養をする場合に、その家族に要介護者や障害者、子供等がいる場合は、市町村福祉部門の協力を得て、ケアマネジャー、相談支援専門員、児童相談所等と連携

し、必要なサービスや支援を行うこと。

- ・ 都道府県は、関係機関の協力を得て、新型コロナウイルス感染症の患者専用の病院や病棟を設定する重点医療機関の指定等、地域の医療機関の役割分担を行うとともに、病床・宿泊療養施設確保計画に沿って、段階的に病床・宿泊療養施設を確保すること。

特に、病床がひっ迫している場合、令和2年12月28日の政府対策本部で示された「感染拡大に伴う入院患者増加に対応するための医療提供体制パッケージ」を活用しつつ、地域の実情に応じ、重点医療機関以外の医療機関に働きかけを行うなど病床の確保を進めること。

その際、地域の関係団体の協力のもと、地域の会議体を活用して医療機能（重症者病床、中等症病床、回復患者の受け入れ、宿泊療養、自宅療養）に応じた役割分担を明確化した上で、病床の確保を進めること。

また、医療機関は、業務継続計画（BCP）も踏まえ、必要に応じ、医師の判断により延期が可能と考えられる予定手術や予定入院の延期を検討し、空床確保に努めること。

さらに、都道府県は、仮設の診療所や病棟の設置、非稼働病床の利用の取組を推進するとともに、それでもなお病床が不足すると見込まれる場合には、法第31条の2に基づく臨時の医療施設の開設についてその活用を十分に考慮すること。臨時の医療施設の開設に当たっては、あらかじめ政府と協議し、迅速な情報共有を行うとともに、開設後は定期的に運営状況を報告する。厚生労働省は、それらの活用にあたって、必要な支援を行うこと。また、都道府県等が感染症法第16条の2に基づく協力要請等及び法第31条に基づく医療等の実施の要請等を行う場合には、当該医療等が適切に実施されるよう、必要な支援を行うこと。

- ・ 都道府県は、患者受入調整や移送調整を行う体制を整備し、患者の医療提供に関する必要な総合調整を行うとともに、医療機関等情報支援システム（G-MIS）も活用し、患者受入調整に必要な医療

機関の情報の見える化を行うこと。また、厚生労働省は、都道府県が患者搬送コーディネーターの配置を行うことについて、必要な支援を行うこと。

- ・ さらに、感染拡大に伴う患者の急増に備え、都道府県は、都道府県域を越える場合も含めた広域的な患者の受入れ体制を確保すること。
- ・ 新型コロナウイルス感染症患者を受け入れる医療機関の病床を効率的に活用するため、回復患者の転院先となる後方支援医療機関の確保を更に進めること。
- ・ また、効率的な転院調整が行われるよう、地域の実情に応じた、転院支援の仕組みを検討すること。
- ・ 退院基準を満たした患者について、高齢者施設等における受入れを促進すること。

② 新型コロナウイルス感染症が疑われる患者への外来診療・検査体制の確保のため、厚生労働省と都道府県等は、関係機関と協力して、次のような対策を講じる。

- ・ かかりつけ医等の地域で身近な医療機関や受診・相談センターを通じて、診療・検査医療機関を受診することにより、適切な感染管理を行った上で、新型コロナウイルス感染症が疑われる患者への外来医療を提供すること。
- ・ 都道府県等は、関係機関と協力して、集中的に検査を実施する機関（地域外来・検査センター）の設置を行うこと。

また、大型テントやプレハブを活用した、いわゆるドライブスルー方式やウォークスルー方式による診療を行うことで、効率的な診療・検査体制を確保すること。併せて、検査結果を踏まえて、患者の振り分けや受け入れが適切に行われるようにすること。

- ・ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況等を踏まえ、診療・検査医療機関の指定や地域外来・検査センターの設置を柔軟かつ積極的に行うこと。

- ・ 都道府県は、重症化しやすい方が来院するがんセンター、透析医療機関及び産科医療機関等について、必要に応じ、新型コロナウイルス感染症への感染が疑われる方への外来診療を原則行わない医療機関として設定すること。
- ③ 新型コロナウイルス感染症患者のみならず、他の疾患等の患者への対応も踏まえて地域全体の医療提供体制を整備するため、厚生労働省と都道府県は、関係機関と協力して、次のような対策を講じる。
- ・ 都道府県は、地域の医療機能を維持する観点から、新型コロナウイルス感染症以外の疾患等の患者受入れも含めて、地域の医療機関の役割分担を推進すること。
 - ・ 患者と医療従事者双方の新型コロナウイルス感染症の予防の観点から、初診を含めて、電話等情報通信機器を用いた診療体制の整備を推進すること。
- ④ 医療従事者の確保のため、厚生労働省と都道府県等は、関係機関と協力して、次のような対策を講じる。
- ・ 都道府県等は、現場で従事している医療従事者の休職・離職防止策や潜在有資格者の現場復帰、医療現場の人材配置の転換等を推進すること。また、検査を含め、直接の医療行為以外に対しては、有資格者以外の民間の人材等の活用を進めること。
 - ・ 厚生労働省は、今般の新型コロナウイルス感染症の対応に伴い、全国の医療機関等の医療人材募集情報を掲載する Web サイト「医療のお仕事 Key-Net」の運営等を通じて、医療関係団体、ハローワーク、ナースセンター等と連携し、医療人材の確保を支援すること。
- ⑤ 医療物資の確保のため、政府と都道府県、関係機関は協力して、次のような対策を講じる。
- ・ 政府及び都道府県は、医療提供体制を支える医薬品や医療機器、医療資材の製造体制を確保し、医療機関等情報支援システム（G-MIS）も活用し、必要な医療機関に迅速かつ円滑に提供できる体制を確保するとともに、専門性を有する医療従事者や人工呼吸器等の必

要な医療機器・物資・感染防止に必要な資材等を迅速に確保し、適切な感染対策の下での医療提供体制を整備すること。

- ・ 政府及び都道府県は、特に新型コロナウイルス感染症を疑う患者にPCR検査等や入院の受入れを行う医療機関等に対しては、マスク等の個人防護具を優先的に確保すること。

⑥ 医療機関及び高齢者施設等における施設内感染を徹底的に防止するため、厚生労働省と地方公共団体は、関係機関と協力して、次の事項について周知徹底を図る。

- ・ 医療機関及び高齢者施設等の設置者において、
 - ▶ 従事者等が感染源とならないよう、「三つの密」が生じる場を徹底して避けるとともに、
 - ▶ 症状がなくても患者や利用者と接する際にはマスクを着用する、
 - ▶ 手洗い・手指消毒の徹底、
 - ▶ パソコンやエレベーターのボタン等複数の従事者が共有するものは定期的に消毒する、
 - ▶ 食堂や詰め所でマスクを外して飲食をする場合、他の従事者と一定の距離を保つ、
 - ▶ 日々の体調を把握して少しでも調子が悪ければ自宅待機する、等の対策に万全を期すこと。
- ・ 医療機関及び高齢者施設等において、面会者からの感染を防ぐため、面会は、地域における発生状況等も踏まえ、患者、家族のQOLを考慮しつつ、緊急の場合を除き制限するなどの対応を検討すること。
- ・ 医療機関及び高齢者施設等において、患者、利用者からの感染を防ぐため、感染が流行している地域では、患者、家族のQOLを考慮しつつ、施設での通所サービス等の一時利用を中止又は制限する、入院患者、利用者の外出、外泊を制限するなどの対応を検討すること。
- ・ 医療機関及び高齢者施設等において、入院患者、利用者等について、新型コロナウイルス感染症を疑った場合は、早急に個室隔離し、保健

所の指導の下、感染対策を実施し、標準予防策、接触予防策、飛沫感染予防策を実施すること。

- ⑦ 都道府県は、感染者と非感染者の空間を分けることなどを含む感染防止策の更なる徹底等を通して、医療機関及び施設内での感染の拡大に特に注意を払う。

高齢者施設等の発熱等の症状を呈する入所者・従事者に対する検査や陽性者が発生した場合の当該施設の入所者等への検査が速やかに行われるようにする。また、感染者が多数発生している地域における医療機関、高齢者施設等への積極的な検査が行われるようにする。

また、都道府県は、高齢者施設等において感染者が一例でも確認された場合に、感染制御や業務継続の両面から支援するチームが、迅速に派遣を含めた支援を行う仕組みの構築に努める。政府は、この体制を構築するに当たり、各都道府県を支援する。

加えて、手術や医療的処置前等において、当該患者について医師の判断により、PCR検査等が実施できる体制をとる。

- ⑧ この他、適切な医療提供・感染管理の観点で、厚生労働省と都道府県は、関係機関と協力して、次の事項に取り組む。

- ・ 妊産婦に対する感染を防止する観点から、医療機関における動線分離等の感染防止策を徹底するとともに、妊産婦が感染した場合であっても、安心して出産し、産後の生活が送れるよう、関係機関との協力体制を構築し、適切な支援を実施すること。また、関係機関と協力して、感染が疑われる妊産婦への早めの相談の呼びかけや、妊娠中の女性労働者に配慮した休みやすい環境整備等の取組を推進すること。
- ・ 小児医療について、関係学会等の意見を聞きながら、診療体制を検討し、地方公共団体と協力して体制整備を進めること。
- ・ 関係機関と協力して、外国人が医療を適切に受けることができるよう、医療通訳の整備等を、引き続き、強化すること。
- ・ レムデシビルやデキサメタゾンについて、必要な患者への供給の確

保を図るとともに、関係省庁・関係機関とも連携し、有効な治療薬等の開発を加速すること。特に、他の治療で使用されている薬剤のうち、効果が期待されるものについて、その効果を検証するための臨床研究・治験等を速やかに実施すること。また、重症化マーカーを含めた重症化リスクに関する臨床情報・検査や、重症患者等への治療方法について、現場での活用に向けた周知、普及等に努めること。

- ・ 法令に基づく健康診断及び予防接種については、適切な感染対策の下で実施されるよう、実施時期や実施時間等に配慮すること。
- ・ 政府及び都道府県等は、実費でPCR検査が行われる場合にも、医療と結びついた検査が行われるよう、周知を行うとともに、精度管理についても推進すること。

- ⑨ 政府は、令和2年度第1次補正予算・第2次補正予算・第3次補正予算、予備費等も活用し、地方公共団体等に対する必要な支援を行うとともに、医療提供体制の更なる強化に向け、対策に万全を期す。

(5) 経済・雇用対策

現下の感染拡大の状況に応じ、その防止を最優先とし、予備費を活用するなど臨機応変に対応することとする。昨年春と夏の感染拡大の波を経験する中、感染対策とバランスをとりつつ、地域の感染状況や医療提供体制の確保状況等を踏まえながら、感染拡大の防止と社会経済活動の維持との両立を図ってきた。具体的には、政府は、令和2年度第1次補正予算を含む「新型コロナウイルス感染症緊急経済対策」（令和2年4月20日閣議決定）及び令和2年度第2次補正予算の各施策を、国・地方を挙げて迅速かつ着実に実行することにより、感染拡大を防止するとともに、雇用の維持、事業の継続、生活の下支えに万全を期してきた。今後、令和2年度第3次補正予算を含む「国民の命と暮らしを守る安心と希望のための総合経済対策」（令和2年12月8日閣議決定）及び令和3年度当初予算の各施策を、国・地方を挙げて迅速かつ着実に実行することにより、医療提供体制の確保やワクチンの接種体制等の整備をはじめとする新型コロナウイルス感

感染症の感染拡大の防止に全力を挙げるとともに、感染症の厳しい影響に対し、雇用調整助成金や官民の金融機関による実質無利子・無担保融資等により雇用と生活をしっかり守っていく。その上で、成長分野への民間投資を大胆に呼び込みながら、生産性を高め、賃金の継続的な上昇を促し、民需主導の成長軌道の実現につなげる。今後も感染状況や経済・国民生活への影響を注意深く見極め、公平性の観点や円滑な執行等が行われることにも配慮しつつ、引き続き、新型コロナウイルス感染症対策予備費の適時適切な執行により、迅速・機動的に対応する。

(6) その他重要な留意事項

1) 偏見・差別等への対応、社会課題への対応等

① 政府及び地方公共団体は、新型コロナウイルス感染症へのり患は誰にでも生じ得るものであり、感染者やその家族、勤務先等に対する差別的な取扱いや誹謗中傷、名誉・信用を毀損する行為等は、人権侵害に当たり得るのみならず、体調不良時の受診遅れや検査回避、保健所の積極的疫学調査への協力拒否等につながり、結果として感染防止策に支障を生じさせかねないことから、分科会の偏見・差別とプライバシーに関するワーキンググループが行った議論のとりまとめ（令和2年11月6日）や法第13条第2項の規定を踏まえ、感染者等の人権が尊重され、何人も差別的な取扱い等を受けることのないよう、以下のような取組を行う。

- ・ 新型コロナウイルス感染症に関する正しい知識の普及に加え、政府の統一的なホームページ（corona.go.jp）等を活用し、地方公共団体や関係団体等の取組の横展開にも資するよう、偏見・差別等の防止等に向けた啓発・教育に資する発信を強化すること。
- ・ 感染者やその家族、勤務先等に対する偏見・差別等の実態の把握に努めるとともに、偏見・差別等への相談体制を、研修の充実、NPOを含めた関係機関の連携、政府による支援、SNSの活用等により強化すること。

- ・ 悪質な行為には法的責任が伴うことについて、政府の統一的なホームページ等を活用して、幅広く周知すること。
 - ・ 新型コロナウイルス感染症の特徴を踏まえた行政による情報公表の在り方に関して、改めて政府としての統一的な考え方を整理すること。
 - ・ クラスタ発生等の有事対応中においては、感染症に関する正しい知識に加えて、感染者等を温かく見守るべきこと等を発信すること。
- ② 政府は、新型コロナウイルス感染症対策に従事する医療関係者が偏見・差別等による風評被害等を受けないよう、国民への普及啓発等必要な取組を実施する。
- ③ 政府は、海外から一時帰国した児童生徒等への学校の受入れ支援やいじめ防止等の必要な取組を実施する。
- ④ 政府及び関係機関は、各種対策を実施する場合において、国民の自由と権利の制限を必要最小限のものとする。特に、罰則が設けられている措置については、患者や関係者の人権に十分に配慮し、まずは当該措置の趣旨や必要性を患者等に丁寧に説明し、理解・協力を得られるようにすることを基本とするとともに、罰則の適用は、慎重に行うものとする。また、女性の生活や雇用への影響が深刻なものとなっていることに留意し、女性や障害者等に与える影響を十分配慮して実施するものとする。
- ⑤ 政府及び地方公共団体は、マスク、個人防護具、医薬品、医薬部外品、食料品等に係る物価の高騰や買占め、売り惜しみを未然に回避し又は沈静化するため、必要な措置を講じる。
- ⑥ 政府は、地方公共団体と連携し、対策が長期化する中で生ずる様々な社会課題に対応するため、適切な支援を行う。
- ・ 長期間にわたる外出自粛等によるメンタルヘルスへの影響、配偶者暴力、性犯罪・性暴力や児童虐待等。
 - ・ 情報公開と人権との協調への配慮。

- ・ 営業自粛等による倒産、失業、自殺等。
 - ・ 社会的に孤立しがちな一人暮らしの高齢者、休業中のひとり親家庭等の生活。
 - ・ 外出自粛等の下で、高齢者等がフレイル状態等にならないよう、コミュニティにおける支援を含め、健康維持・介護サービスの確保。
- ⑦ 政府及び地方公共団体は、新型コロナウイルス感染症により亡くなった方に対して尊厳をもってお別れ、火葬等が行われるよう、適切な方法について、周知を行う。
- ⑧ 政府は、ワクチン接種に便乗した詐欺被害等の防止のため注意喚起や相談体制を強化する。

2) 物資・資材等の供給

- ① 政府は、国民や地方公共団体の要望に応じ、マスク、個人防護具、消毒薬、食料品等の増産や円滑な供給を関連事業者に要請する。また、政府は、感染防止や医療提供体制の確保のため、マスク、個人防護具、人工呼吸器等の必要な物資を政府の責任で確保する。例えば、マスク等を政府で購入し、必要な医療機関や介護施設等に優先配布するとともに、感染拡大に備えた備蓄を強化する。
- ② 政府は、マスクや消毒薬等の国民が必要とする物資が安定的に供給されるよう、これらの物資の需給動向を注視するとともに、過剰な在庫を抱えることのないよう消費者や事業者に冷静な対応を呼びかける。また、政府は、繰り返し使用可能な布製マスクの普及を進める。
- ③ 政府は、事態の長期化も念頭に、マスクや抗菌薬及び抗ウイルス薬の原薬を含む医薬品、医療機器等の医療の維持に必要な資材の安定確保に努めるとともに、国産化の検討を進める。

3) 関係機関との連携の推進

- ① 政府は、地方公共団体を含む関係機関等との双方向の情報共有を強化し、対策の方針の迅速な伝達と、対策の現場における状況の把握を行う。
- ② 政府は、対策の推進に当たっては、地方公共団体、経済団体等の関

係者の意見を十分聴きながら進める。

- ③ 地方公共団体は、保健部局のみならず、危機管理部局も含め全ての部局が協力して対策に当たる。
- ④ 政府は、国際的な連携を密にし、WHOや諸外国・地域の対応状況等に関する情報収集に努める。また、日本で得られた知見を積極的にWHO等の関係機関や諸外国・地域と共有し、今後の対策に活かすとともに、新型コロナウイルス感染症の拡大による影響を受ける国・地域に対する国際社会全体としての対策に貢献する。
- ⑤ 政府は、基礎医学研究及び臨床医学研究、疫学研究を含む社会医学研究等の研究体制に対する支援を通して、新型コロナウイルス感染症への対策の推進を図る。
- ⑥ 都道府県等は、近隣の都道府県等が感染拡大防止に向けた様々な措置や取組を行うに当たり、相互に連携するとともに、その要請に応じ、必要な支援を行う。
- ⑦ 特定都道府県又は重点措置区域である都道府県等は、緊急事態措置又はまん延防止等重点措置等を実施するに当たっては、あらかじめ政府と協議し、迅速な情報共有を行う。政府対策本部長は、特定都道府県又は重点措置区域である都道府県等が適切に緊急事態措置又はまん延防止等重点措置を講じることができるよう、専門家の意見を踏まえつつ、総合調整を行う。
- ⑧ 緊急事態宣言の期間中に様々な措置を実施した際には、特定都道府県知事及び指定行政機関の長は政府対策本部長に、特定市町村長及び指定地方公共機関の長はその所在する特定都道府県知事に、指定公共機関の長は所管の指定行政機関に、その旨及びその理由を報告する。政府対策本部長は国会に、特定都道府県知事及び指定行政機関の長は政府対策本部長に、報告を受けた事項を報告する。

4) 社会機能の維持

- ① 政府、地方公共団体、指定公共機関及び指定地方公共機関は、職員における感染を防ぐよう万全を尽くすとともに、万が一職員において感染者又

は濃厚接触者が確認された場合にも、職務が遅滞なく行えるように対策をあらかじめ講じる。特に、テレビ会議及びテレワークの積極的な実施に努める。

- ② 地方公共団体、指定公共機関及び指定地方公共機関は、電気、ガス、水道、公共交通、通信、金融業等の維持を通して、国民生活及び国民経済への影響が最小となるよう公益的事業を継続する。
- ③ 政府は、指定公共機関の公益的事業の継続に支障が生じることがないように、必要な支援を行う。
- ④ 国民生活・国民経済の安定確保に不可欠な業務を行う事業者は、国民生活及び国民経済安定のため、事業の継続を図る。
- ⑤ 政府は、事業者のサービス提供水準に係る状況の把握に努め、必要に応じ、国民への周知を図る。
- ⑥ 政府は、空港、港湾、医療機関等におけるトラブル等を防止するため、必要に応じ、警戒警備を実施する。
- ⑦ 警察は、混乱に乗じた各種犯罪を抑止するとともに、取締りを徹底する。

5) 緊急事態宣言解除後の取組

政府は、緊急事態宣言の解除を行った後も、都道府県等や基本的対処方針等諮問委員会、分科会等との定期的な情報交換等を通じ、国内外の感染状況の変化、施策の実施状況等を定期的に分析・評価・検証を行う。その上で、最新の情報に基づいて適切に、国民や関係者へ情報発信を行うとともに、それまでの知見に基づき、より有効な対策を実施する。

6) その他

- ① 政府は、必要に応じ、他法令に基づく対応についても講じることとする。
- ② 今後の状況が、緊急事態宣言の要件等に該当するか否かについては、海外での感染者の発生状況とともに、感染経路の不明な患者やクラスターの発生状況等の国内での感染拡大及び医療提供体制のひっ迫の状況を踏まえて、国民生活及び国民経済に甚大な影響を及ぼ

すおそれがあるか否かについて、政府対策本部長が基本的対処方針等諮問委員会の意見を十分踏まえた上で総合的に判断することとする。

- ③ 政府は、基本的対処方針を変更し、又は、緊急事態を宣言、継続若しくは終了するに当たっては、新たな科学的知見、感染状況、施策の実行状況等を考慮した上で、基本的対処方針等諮問委員会の意見を十分踏まえた上で臨機応変に対応する。

(別添)緊急事態宣言時に事業の継続が求められる事業者

以下、事業者等については、「三つの密」を避けるための取組を講じていただきつつ、事業の継続を求める。

1. 医療体制の維持

- ・新型コロナウイルス感染症の治療はもちろん、その他の重要疾患への対応もあるため、全ての医療関係者の事業継続を要請する。
- ・医療関係者には、病院・薬局等のほか、医薬品・医療機器の輸入・製造・販売、献血を実施する採血業、入院者への食事提供等、患者の治療に必要な全ての物資・サービスに関わる製造業、サービス業を含む。

2. 支援が必要な方々の保護の継続

- ・高齢者、障害者等特に支援が必要な方々の居住や支援に関する全ての関係者（生活支援関係事業者）の事業継続を要請する。
- ・生活支援関係事業者には、介護老人福祉施設、障害者支援施設等の運営関係者のほか、施設入所者への食事提供など、高齢者、障害者等が生活する上で必要な物資・サービスに関わる全ての製造業、サービス業を含む。

3. 国民の安定的な生活の確保

- ・自宅等で過ごす国民が、必要最低限の生活を送るために不可欠なサービスを提供する関係事業者の事業継続を要請する。
- ① インフラ運営関係（電力、ガス、石油・石油化学・LPGガス、上下水道、通信・データセンター等）
 - ② 飲食料品供給関係（農業・林業・漁業、飲食料品の輸入・製造・加工・流通・ネット通販等）
 - ③ 生活必需物資供給関係（家庭用品の輸入・製造・加工・流通・ネット通販等）
 - ④ 宅配・テイクアウト、生活必需物資の小売関係（百貨店・スーパー、コンビニ、ドラッグストア、ホームセンター等）
 - ⑤ 家庭用品のメンテナンス関係（配管工・電気技師等）
 - ⑥ 生活必需サービス（ホテル・宿泊、銭湯、理美容、ランドリー、獣医等）
 - ⑦ ごみ処理関係（廃棄物収集・運搬、処分等）
 - ⑧ 冠婚葬祭業関係（火葬の実施や遺体の死後処置に係る事業者等）
 - ⑨ メディア（テレビ、ラジオ、新聞、ネット関係者等）
 - ⑩ 個人向けサービス（ネット配信、遠隔教育、ネット環境維持に係る設備・サービス、自家用車等の整備等）

4. 社会の安定の維持

・社会の安定の維持の観点から、緊急事態宣言の期間中にも、企業の活動を維持するために不可欠なサービスを提供する関係事業者の最低限の事業継続を要請する。

- ① 金融サービス（銀行、信金・信組、証券、保険、クレジットカードその他決済サービス等）
- ② 物流・運送サービス（鉄道、バス・タクシー・トラック、海運・港湾管理、航空・空港管理、郵便等）
- ③ 国防に必要な製造業・サービス業の維持（航空機、潜水艦等）
- ④ 企業活動・治安の維持に必要なサービス（ビルメンテナンス、セキュリティ関係等）
- ⑤ 安全安心に必要な社会基盤（河川や道路等の公物管理、公共工事、廃棄物処理、個別法に基づく危険物管理等）
- ⑥ 行政サービス等（警察、消防、その他行政サービス）
- ⑦ 育児サービス（託児所等）

5. その他

・医療、製造業のうち、設備の特性上、生産停止が困難なもの（高炉や半導体工場等）、医療・支援が必要な人の保護・社会基盤の維持等に不可欠なもの（サプライチェーン上の重要物を含む。）を製造しているものについては、感染防止に配慮しつつ、継続する。また、医療、国民生活・国民経済維持の業務を支援する事業者等にも、事業継続を要請する。

資料2

新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針変更（令和3年2月〇日）（新旧対照表）

（主な変更点）

（下線部分は改定箇所）

変 更 案	現 行
<p>序文</p> <p>（略）</p> <p><u>令和3年2月2日には、感染状況や医療提供体制・公衆衛生体制に対する負荷の状況について分析・評価を行い、2月8日以降については、法第32条第3項に基づき、緊急事態措置 <u>区域</u> を埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、岐阜県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県及び福岡県の10都府県に変更するとともに、これらの区域において緊急事態措置を実施すべき期間を令和3年3月7日まで延長することとした。ただし、緊急事態措置を実施する必要がなくなると認められるときは、法第32条第5項の規定に基づき、速やかに緊急事態を解除することと <u>した</u></u></p> <p>。</p> <p><u>政府は、新型コロナウイルス感染症に係る対策を強化するため、新型インフルエンザ等まん延防止等重点措置</u></p>	<p>序文</p> <p>（略）</p> <p><u>その後、令和3年2月2日に、感染状況や医療提供体制・公衆衛生体制に対する負荷の状況について分析・評価を行い、2月8日以降については、法第32条第3項に基づき、緊急事態措置 <u>を実施すべき区域</u> を埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、岐阜県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県及び福岡県の10都府県に変更するとともに、これらの区域において緊急事態措置を実施すべき期間を令和3年3月7日まで延長することとした。ただし、緊急事態措置を実施する必要がなくなると認められるときは、法第32条第5項の規定に基づき、速やかに緊急事態を解除することと <u>する</u></u></p> <p>（新設）</p>

(以下「まん延防止等重点措置」という。)の創設などを
含む新型インフルエンザ等対策特別措置法等の一部を改
正する法律案を国会に提出し、令和3年2月3日に成立
した。これにより改正された法の施行(以下「改正法の施
行」という。)は令和3年2月13日とされている。

(略)

一 **新型コロナウイルス感染症発生の状況に関する事実**

(略)

令和3年2月2日には、感染状況や医療提供体制・公
衆衛生体制に対する負荷の状況について分析・評価を行
い、2月8日以降については、法第32条第3項に基づき、
緊急事態措置 区域を 埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、
岐阜県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県及び福岡県の10
都府県に変更するとともに、これらの区域において緊急
事態措置を実施すべき期間を令和3年3月7日まで延長
することとした。

今後、改正法の施行を踏まえ、まん延防止等重点措置

(略)

一 **新型コロナウイルス感染症発生の状況に関する事実**

(略)

その後、令和3年2月2日に、感染状況や医療提供体
制・公衆衛生体制に対する負荷の状況について分析・評
価を行い、2月8日以降については、法第32条第3項に
基づき、緊急事態措置 を実施すべき区域を 埼玉県、千葉
県、東京都、神奈川県、岐阜県、愛知県、京都府、大阪府、
兵庫県及び福岡県の10都府県に変更するとともに、これ
らの区域において緊急事態措置を実施すべき期間を令和
3年3月7日まで延長することとした。

(新設)

の実施及び終了の判断に当たっては、以下を基本として判断することとする。その際、「ステージ判断の指標」は、提言において、あくまで目安であり、これらの指標をもって機械的に判断するのではなく、政府や都道府県はこれらの指標を総合的に判断すべきとされていることに留意する。

（まん延防止等重点措置の実施の考え方）

都道府県の特定の区域において感染が拡大し、当該都道府県全域に感染が拡大するおそれがあり、それに伴い医療提供体制・公衆衛生体制に支障が生ずるおそれがあると認められる事態が発生していること（特に、分科会提言におけるステージⅢ相当の対策が必要な地域の状況になっている等）を踏まえ、政府対策本部長が基本的対処方針等諮問委員会の意見を十分踏まえた上で総合的に判断する。

また、都道府県がステージⅡ相当の対策が必要な地域においても、当該都道府県の特定の区域において感染が急速に拡大し、都道府県全域に感染が拡大するおそれがあると認められる場合や、都道府県がステージⅢ相当の

対策が必要な地域において、感染が減少傾向であっても、当該都道府県の特定の区域において感染水準が高い又は感染が拡大しているなど、感染の再拡大を防止する必要性が高い場合に、政府対策本部長が基本的対処方針等諮問委員会の意見を十分踏まえた上で総合的に判断する。

(まん延防止等重点措置の終了の考え方)

都道府県の感染及び医療提供体制・公衆衛生体制のひっ迫の状況（特に、まん延防止等重点措置を実施している区域の感染状況が、都道府県全域に感染を拡大させるおそれがない水準か等）を踏まえて、政府対策本部長が基本的対処方針等諮問委員会の意見を十分踏まえた上で総合的に判断する。

新型コロナウイルス感染症については、以下のような特徴がある。

(略)

- ・ また、ワクチンについては、令和3年前半までに全国民に提供できる数量の確保を目指すこととしており、これまでモデルナ社、アストラゼネカ社及び

新型コロナウイルス感染症については、以下のような特徴がある。

(略)

- ・ また、ワクチンについては、令和3年前半までに全国民に提供できる数量の確保を目指すこととしており、これまでモデルナ社、アストラゼネカ社及びファ

ファイザー社のワクチンの供給を受けることについて契約締結に至っている。ワクチンの接種を円滑に実施するため、予防接種法（昭和23年法律第68号）の改正を行うとともに、分科会での議論経過等を踏まえ、内閣官房及び厚生労働省において令和3年2月9日に「新型コロナウイルス感染症に係るワクチンの接種について」（以下「ワクチン接種について」という。）をとりまとめ、接種に向け必要な準備を進めている。現時点では国内で承認されたワクチンは存在しないもののファイザー社 及びアストラゼネカ社のワクチンについて薬事承認申請がなされ、現在、安全性及び有効性の確認を最優先に、迅速審査を行っているところであり、承認されたワクチンができる限り2月中旬までに接種を開始できるように、政府一体となって準備を進めている。

(略)

二 新型コロナウイルス感染症の対処に関する全般的な方針

イザー社のワクチンの供給を受けることについて契約締結等に至っている。ワクチンの接種を円滑に実施するため、令和2年9月時点で得られた知見、分科会での議論経過等を踏まえ、内閣官房及び厚生労働省は「新型コロナウイルス感染症に係るワクチンの接種について（中間とりまとめ）」を策定したが、その後、予防接種法（昭和23年法律第68号）の改正や接種順位の検討等、接種に向け必要な準備を進めている。現時点では国内で承認されたワクチンは存在しないもののファイザー社 のワクチンについて12月中旬に薬事承認申請がなされており、現在、安全性・有効性を最優先に、迅速審査を行っているところであり、承認後にはできるだけ速やかに接種できるよう接種体制の整備を進めている。

(略)

二 新型コロナウイルス感染症の対処に関する全般的な方針

①～③（略）

④ まん延防止等重点措置を実施すべき区域（以下「重点措置区域」という。）においては、都道府県知事が定める期間、区域及び業態において、感染リスクが高く感染拡大の主な起点となっている場面に効果的な対策を徹底する。

⑤～⑦（略）

三 新型コロナウイルス感染症対策の実施に関する重要事項

（１）（略）

（２）サーベイランス・情報収集

①（略）

②（略）

政府と都道府県等で協働して今後の感染拡大局面も見据えた準備を進めるため、厚生労働省は、財政的な支援をはじめ必要な支援を行い、都道府県等は、相談・検体採取・検査の一連のプロセスを通じた対策を実施する。また、社会経済活動の中で希望によ

①～③（略）

（新設）

④～⑧（略）

三 新型コロナウイルス感染症対策の実施に関する重要事項

（１）（略）

（２）サーベイランス・情報収集

①（略）

②（略）

政府と都道府県等で協働して今後の感染拡大局面も見据えた準備を進めるため、厚生労働省は、財政的な支援をはじめ必要な支援を行い、都道府県等は、相談・検体採取・検査の一連のプロセスを通じた対策を実施する。また、社会経済活動の中で希望により受け

り受ける民間検査については、感染症法第16条の2に基づき、民間検査機関に精度管理や提携医療機関の決定等の協力を求めることなどにより環境整備を進めていく。

③～⑦（略）

⑧ 都道府県等は、感染症法第12条及び第15条に基づき、地方公共団体間での迅速な情報共有を行うとともに、都道府県は、県下の感染状況について、リスク評価を行う。

⑨（略）

(3) まん延防止

1) ～6) (略)

7) 重点措置区域における取組等

① 重点措置区域である都道府県においては、まん延防止等重点措置が、地域の感染状況に応じて、期間・区域、業態を絞った措置を機動的に実施できる仕組みであり、発生の動向等を踏まえた集中的な対策により、地域的に感染を抑え込むことで、全国かつ急速なまん延を防ぐ趣旨で創設された

る民間検査については、民間検査機関に精度管理や提携医療機関の決定等を求めることにより環境整備を進めていく。

③～⑦（略）

⑧ 都道府県は、地方公共団体間での迅速な情報共有に努めるとともに、県下の感染状況について、リスク評価を行う。

⑨（略）

(3) まん延防止

1) ～6) (略)

(新設)

ものであることを踏まえ、感染リスクが高く感染拡大の主な起点となっている場面に効果的な対策を徹底するため、後述 8) に掲げる基本的な感染防止策等に加え、以下の取組を行うものとする。

また、都道府県知事は、区域を指定するに当たって市町村単位や一定の区画を原則とするなど、区域、期間及び業態を定めるに当たっては、効果的な対策となるよう留意する。

・ 感染リスクが高いと指摘されている飲食の場を避ける観点から、都道府県知事が定める期間及び区域において、法第 31 条の 6 第 1 項等に基づき、飲食店（新規陽性者の数等、地域の感染状況を踏まえて、酒類の提供を行う飲食店や接待を伴う飲食店等とすることもあり得るが、その場合、感染防止効果について、政府と連携しながら、十分検討を行うものとする。）に対する営業時間の短縮の要請を行うこと。営業時間については、地域の感染の状況等を踏まえて、都道府県知事が適切に判断すること。また、改正

法の施行により、命令、過料の規定が設けられたことを踏まえ、その手続に関しては、別途通知する手続に沿って行うこと。

- ・ 法第 24 条第 9 項に基づき、業種別ガイドラインを遵守するよう要請を行うこと。
- ・ これらの要請に当たっては、関係機関とも連携し、営業時間の短縮等や業種別ガイドラインの遵守を徹底するための対策・体制の強化を行い、できる限り個別に施設に対して働きかけを行うこと。
- ・ 法第 31 条の 6 第 2 項に基づき、上記により営業時間の変更を要請した時間以降、飲食店等にみだりに出入りしないよう、住民に対して要請等を行うこと。併せて、法第 24 条第 9 項に基づき、日中も含めた不要不急の外出・移動の自粛等について、住民に対して協力の要請を行うことも検討すること。
- ・ 都道府県知事が定める期間及び区域で行われる催物（イベント等）について、主催者等に対

して、法第 24 条第 9 項等に基づき、別途通知する目安を踏まえた規模要件等（人数上限・収容率、飲食を伴わないこと等）を設定し、その要件に沿った開催の要請等を行うこと。

② 政府は、地方創生臨時交付金に設けた「協力要請推進枠」により、飲食店に対して営業時間短縮要請等と協力金の支払いを行う都道府県を支援する。

③ 重点措置区域である都道府県は、①の取組を行うに当たっては、あらかじめ政府と迅速に情報共有を行う。

8) (略)

9) 予防接種

政府、都道府県及び市町村は、以下のように新型コロナウイルス感染症に係るワクチン接種を行うものとする。

① 新型コロナウイルス感染症に係るワクチンの接種目的は、新型コロナウイルス感染症の発症を予防し、死亡者や重症者の発生をできる限り減らす

7) (略)

(新設)

ことであること。

- ② 関係機関と連携し、迅速にワクチンの開発等を進めるとともに、承認申請された際には審査を行った上で、安全性及び有効性を確認し、できるだけ早期の実用化、国民への供給を目指すこと。
- ③ 予防接種については、予防接種法及び検疫法の一部を改正する法律（令和2年法律第75号）による改正後の予防接種法に基づく臨時接種の特例として、厚生労働大臣の指示のもと、都道府県の協力により市町村において実施すること。
- ④ 予防接種の実施体制や接種順位等については、令和3年2月9日の「ワクチン接種について」を踏まえ接種を円滑かつ効率的に実施する観点に立って行うこと。
- ⑤ 予防接種により健康被害が生じた場合の救済措置や副反応疑い報告等については、予防接種法の現行の規定を適用し適切に実施すること。
- ⑥ 予防接種は最終的には個人の判断で接種されるものであることから、予防接種に当たっては、リ

スクとベネフィットを総合的に勘案し接種の判断ができる情報を提供することが必要であること。

その上で、政府は、国民に対して、ワクチンの安全性及び有効性についての情報を提供するなど、的確で丁寧なコミュニケーション等を進め、幅広く予防接種への理解を得るとともに、国民が自らの意思で接種の判断を行うことができるよう取り組むこと。

10) (略)

11) クラスタ対策の強化

- ① 都道府県等は、厚生労働省や専門家と連携しつつ、積極的疫学調査により、個々の濃厚接触者を把握し、健康観察、外出自粛の要請等を行うとともに、感染拡大の規模を適確に把握し、適切な感染対策を行う。その際、より効果的な感染拡大防止につなげるため、積極的疫学調査を実施する際に優先度も考慮する。積極的疫学調査に対して正当な理由がなく協力しない場合の命令、この命令に正当な理由がなく応じない場合の罰則の適用に

8) (略)

9) クラスタ対策の強化

- ① 都道府県等は、厚生労働省や専門家と連携しつつ、積極的疫学調査により、個々の濃厚接触者を把握し、健康観察、外出自粛の要請等を行うとともに、感染拡大の規模を適確に把握し、適切な感染対策を行う。その際、より効果的な感染拡大防止につなげるため、積極的疫学調査を実施する際に優先度も考慮する。(新設)

については、対象者の人権に十分に配慮し、慎重に運用すること。

②～⑥（略）

12) その他共通的事項等

① 特定都道府県 又は重点措置区域である都道府県は、地域の特性に応じた実効性のある緊急事態措置 又はまん延防止等重点措置を講じる。特定都道府県 又は重点措置区域である都道府県は、緊急事態措置 又はまん延防止等重点措置を講じる に当たっては、法第5条を踏まえ、必要最小限の措置とするとともに、講じる措置の内容及び必要性等について、国民に対し丁寧に説明する。

②～④（略）

(4) 医療等

① 重症者等に対する医療提供に重点を置いた入院医療の提供体制の確保を進めるため、厚生労働省と都道府県等は、関係機関と協力して、次のような対策

②～⑥（略）

10) その他共通的事項等

① 特定都道府県は、地域の特性に応じた実効性のある緊急事態措置 を講じる。特定都道府県は、緊急事態措置 を講じる に当たっては、法第5条を踏まえ、必要最小限の措置とするとともに、講じる措置の内容及び必要性等について、国民に対し丁寧に説明する。特定都道府県は、緊急事態措置を実施するに当たっては、法第20条に基づき、政府と密接に情報共有を行う。政府は、専門家の意見を聴きながら、必要に応じ、特定都道府県と総合調整を行う。

②～④（略）

(4) 医療等

① 重症者等に対する医療提供に重点を置いた入院医療の提供体制の確保を進めるため、厚生労働省と都道府県等は、関係機関と協力して、次のような対策を

を講じる。

- ・ 重症者や重症化リスクのある者に医療資源の重点をシフトする観点から、令和2年10月14日の新型コロナウイルス感染症を指定感染症として定める等の政令（令和2年政令第11号）の改正（令和2年10月24日施行）により、高齢者や基礎疾患のある者等入院勧告・措置の対象の明確化を行っており、改正法の施行により、この取扱いが法定化された。都道府県等は、関係法令に基づき、地域の感染状況等を踏まえ、適切に入院勧告・措置を運用すること。また、改正法の施行により、入院措置に正当な理由なく応じない場合や入院先から逃げた場合の罰則が設けられたが、都道府県等は、その運用に当たって、患者の人権に十分に配慮し、慎重に運用するとともに、患者への偏見・差別につながらないよう、（6）で後述する取組の一層の強化を図ること。

重症者等に対する医療提供に重点を置くべき地域では、特に病床確保や都道府県全体の入院調整

講じる。

- ・ 重症者や重症化リスクのある者に医療資源の重点をシフトする観点から、令和2年10月14日の新型コロナウイルス感染症を指定感染症として定める等の政令（令和2年政令第11号）の改正（令和2年10月24日施行）により、高齢者や基礎疾患のある者等入院勧告・措置の対象の明確化を行っており、都道府県等は、当該政令改正に基づき、地域の感染状況等を踏まえ、適切に入院勧告・措置を運用すること。（新設）

重症者等に対する医療提供に重点を置くべき地域では、特に病床確保や都道府県全体の入院調整

に最大限努力した上で、なお病床がひっ迫する場合には、高齢者等も含め入院治療が必要ない無症状病原体保有者及び軽症患者（以下「軽症者等」という。）については、感染症法第 44 条の 3 第 2 項に基づき宿泊施設（適切な場合は自宅）での療養を要請することで、入院治療が必要な患者への医療提供体制の確保を図ること。丁寧な健康観察を実施すること。

特に、家庭内での感染防止や症状急変時の対応のため、宿泊施設が十分に確保されているような地域では、軽症者等は宿泊療養を基本とすること。そのため、都道府県は、患者の病状、数その他感染症の発生及びまん延の状況を勘案して、ホテル等の一時的な宿泊療養施設の確保に努めるとともに、都道府県等は、宿泊療養施設の運営体制を確保すること。政府は、都道府県等と密接に連携し、これらの取組を支援すること。

（中略）

- ・ 都道府県は、関係機関の協力を得て、新型コロナ

に最大限努力した上で、なお病床がひっ迫する場合には、高齢者等も含め入院治療が必要ない無症状病原体保有者及び軽症患者（以下「軽症者等」という。）は、宿泊施設（適切な場合は自宅）での療養とすることで、入院治療が必要な患者への医療提供体制の確保を図ること。丁寧な健康観察を実施すること。

特に、家庭内での感染防止や症状急変時の対応のため、宿泊施設が十分に確保されているような地域では、軽症者等は宿泊療養を基本とすること。そのため、都道府県は、ホテル等の一時的な宿泊療養施設及び運営体制の確保に努めるとともに、政府は、都道府県と密接に連携し、その取組を支援すること。

（中略）

- ・ 都道府県は、関係機関の協力を得て、新型コロナ

ナウウイルス感染症の患者専用の病院や病棟を設定する重点医療機関の指定等、地域の医療機関の役割分担を行うとともに、病床・宿泊療養施設確保計画に沿って、段階的に病床・宿泊療養施設を確保すること。

(中略)

また、医療機関は、業務継続計画（BCP）も踏まえ、必要に応じ、医師の判断により延期が可能と考えられる予定手術や予定入院の延期を検討し、空床確保に努めること。

さらに、都道府県は、仮設の診療所や病棟の設置、非稼働病床の利用 の取組を推進するとともに、それでもなお病床が不足すると見込まれる場合には、法第 31 条の 2 に基づく臨時の医療施設の開設についてその活用を十分に考慮すること。臨時の医療施設の開設に当たっては、あらかじめ政府と協議し、迅速な情報共有を行うとともに、開設後は定期的に運営状況を報告する。厚生労働省は、それらの活用にあたって、必要な支援を行うこと。ま

ウイルス感染症の患者専用の病院や病棟を設定する重点医療機関の指定等、地域の医療機関の役割分担を行うとともに、病床・宿泊療養施設確保計画に沿って、段階的に病床・宿泊療養施設を確保すること。

(中略)

また、医療機関は、業務継続計画（BCP）も踏まえ、必要に応じ、医師の判断により延期が可能と考えられる予定手術や予定入院の延期を検討し、空床確保に努めること。

さらに、都道府県は、仮設の診療所や病棟の設置、非稼働病床の利用 、法第 48 条に基づく臨時の医療施設の開設についてその活用を十分に考慮すること。厚生労働省は、それらの活用にあたって、必要な支援を行うこと。（新設）

た、都道府県等が感染症法第 16 条の 2 に基づく協力要請等及び法第 31 条に基づく医療等の実施の要請等を行う場合には、当該医療等が適切に実施されるよう、必要な支援を行うこと。

- ・ 都道府県は、患者受入調整や移送調整を行う体制を整備し、患者の医療提供に関する必要な総合調整を行うとともに、医療機関等情報支援システム（G-MIS）も活用し、患者受入調整に必要な医療機関の情報の見える化を行うこと。また、厚生労働省は、都道府県が患者搬送コーディネーターの配置を行うことについて、必要な支援を行うこと。

(略)

②～⑨ (略)

(5) 経済・雇用対策

(略)

今後、令和 2 年度第 3 次補正予算を含む「国民の命と暮らしを守る安心と希望のための総合経済対策」(令和 2 年 12 月 8 日閣議決定) 及び令和 3 年度

- ・ 都道府県は、患者受入調整や移送調整を行う体制を整備するとともに、医療機関等情報支援システム（G-MIS）も活用し、患者受入調整に必要な医療機関の情報の見える化を行うこと。また、厚生労働省は、都道府県が患者搬送コーディネーターの配置を行うことについて、必要な支援を行うこと。

(略)

②～⑨ (略)

(5) 経済・雇用対策

(略)

今後、令和 2 年度第 3 次補正予算を含む「国民の命と暮らしを守る安心と希望のための総合経済対策」(令和 2 年 12 月 8 日閣議決定) 及び令和 3 年度当初

当初予算の各施策を、国・地方を挙げて迅速かつ着実に実行することにより、医療提供体制の確保やワクチンの接種体制等の整備をはじめとする新型コロナウイルス感染症の感染拡大の防止に全力を挙げるとともに、感染症の厳しい影響に対し、雇用調整助成金や官民の金融機関による実質無利子・無担保融資等により雇用と生活をしっかり守っていく。その上で、成長分野への民間投資を大胆に呼び込みながら、生産性を高め、賃金の継続的な上昇を促し、民需主導の成長軌道の実現につなげる。今後も感染状況や経済・国民生活への影響を注意深く見極め、公平性の観点や円滑な執行等が行われることにも配慮しつつ、引き続き、新型コロナウイルス感染症対策予備費の適時適切な執行により、迅速・機動的に対応する。

(6) その他重要な留意事項

1) 偏見・差別等への対応、社会課題への対応等

- ① 政府及び地方公共団体は、新型コロナウイルス感染症へのり患は誰にでも生じ得るものであり、

予算の各施策を、国・地方を挙げて迅速かつ着実に実行することにより、医療提供体制の確保やワクチンの接種体制等の整備をはじめとする新型コロナウイルス感染症の感染拡大の防止に全力を挙げるとともに、感染症の厳しい影響に対し、雇用調整助成金や官民の金融機関による実質無利子・無担保融資等により雇用と生活をしっかり守っていく。その上で、成長分野への民間投資を大胆に呼び込みながら、生産性を高め、賃金の継続的な上昇を促し、民需主導の成長軌道の実現につなげる。今後も感染状況や経済・国民生活への影響を注意深く見極め、引き続き、新型コロナウイルス感染症対策予備費の適時適切な執行により、迅速・機動的に対応する。

(6) その他重要な留意事項

1) 偏見・差別等への対応、社会課題への対応等

- ① 政府及び地方公共団体は、新型コロナウイルス感染症へのり患は誰にでも生じ得るものであり、

感染者やその家族、勤務先等に対する 差別的な取扱いや誹謗中傷、名誉・信用を毀損する行為等は、人権侵害に当たり得るのみならず、体調不良時の受診遅れや検査回避、保健所の積極的疫学調査への協力拒否等につながり、結果として感染防止策に支障を生じさせかねないことから、分科会の偏見・差別とプライバシーに関するワーキンググループが行った議論のとりまとめ（令和2年11月6日）や法第13条第2項の規定を踏まえ、感染者等の人権が尊重され、何人も差別的な取扱い等を受けることのないよう、以下のような取組を行う。

（中略）

- ・ 感染者やその家族、勤務先等に対する偏見・差別等の実態の把握に努めるとともに、偏見・差別等への相談体制を、研修の充実、NPOを含めた関係機関の連携、政府による支援、SNSの活用等により強化すること。

（略）

感染者やその家族、勤務先等に対する 不当な扱いや誹謗中傷は、人権侵害に当たり得るのみならず、体調不良時の受診遅れや検査回避、保健所の積極的疫学調査への協力拒否等につながり、結果として感染防止策に支障を生じさせかねないことから、分科会の偏見・差別とプライバシーに関するワーキンググループが行った議論のとりまとめ（令和2年11月6日）を踏まえ、以下のような取組を行う。

（中略）

- ・ 偏見・差別等への相談体制を、研修の充実、NPOを含めた関係機関の連携、政府による支援、SNSの活用等により強化すること。

（略）

②・③（略）

②・③（略）

④ 政府及び関係機関は、各種対策を実施する場合において、国民の自由と権利の制限を必要最小限のものとする。特に、罰則が設けられている措置については、患者や関係者の人権に十分に配慮し、まずは当該措置の趣旨や必要性を患者等に丁寧に説明し、理解・協力を得られるようにすることを基本とするとともに、罰則の適用は、慎重に行うものとする。また、女性の生活や雇用への影響が深刻なものとなっていることに留意し、女性や障害者等に与える影響を十分配慮して実施するものとする。

⑤～⑦（略）

⑧ 政府は、ワクチン接種に便乗した詐欺被害等の防止のため注意喚起や相談体制を強化する。

2）（略）

3）関係機関との連携の推進

①～⑥（略）

⑦ 特定都道府県 又は重点措置区域である都道府

④ 政府及び関係機関は、各種対策を実施する場合において、国民の自由と権利の制限を必要最小限のものとする。特に、女性の生活や雇用への影響が深刻なものとなっていることに留意し、女性や障害者等に与える影響を十分配慮して実施するものとする。

⑤～⑦（略）

（新設）

2）（略）

3）関係機関との連携の推進

①～⑥（略）

⑦ 特定都道府県等は、緊急事態措置等を実施するに当たっては、あらかじめ政府と協議し、迅速な

県等は、緊急事態措置 又はまん延防止等重点措置
等を実施するに当たっては、あらかじめ政府と協
議し、迅速な情報共有を行う。政府対策本部長は、
特定都道府県 又は重点措置区域である都道府県
等が適切に緊急事態措置 又はまん延防止等重点
措置を講じることができるよう、専門家の意見を
踏まえつつ、総合調整を行う。

4) ~ 6) (略)

情報共有を行う。政府対策本部長は、特定都道府
県等が適切に緊急事態措置 を講じることができ
るよう、専門家の意見を踏まえつつ、特定都道府
県等と総合調整を行う。

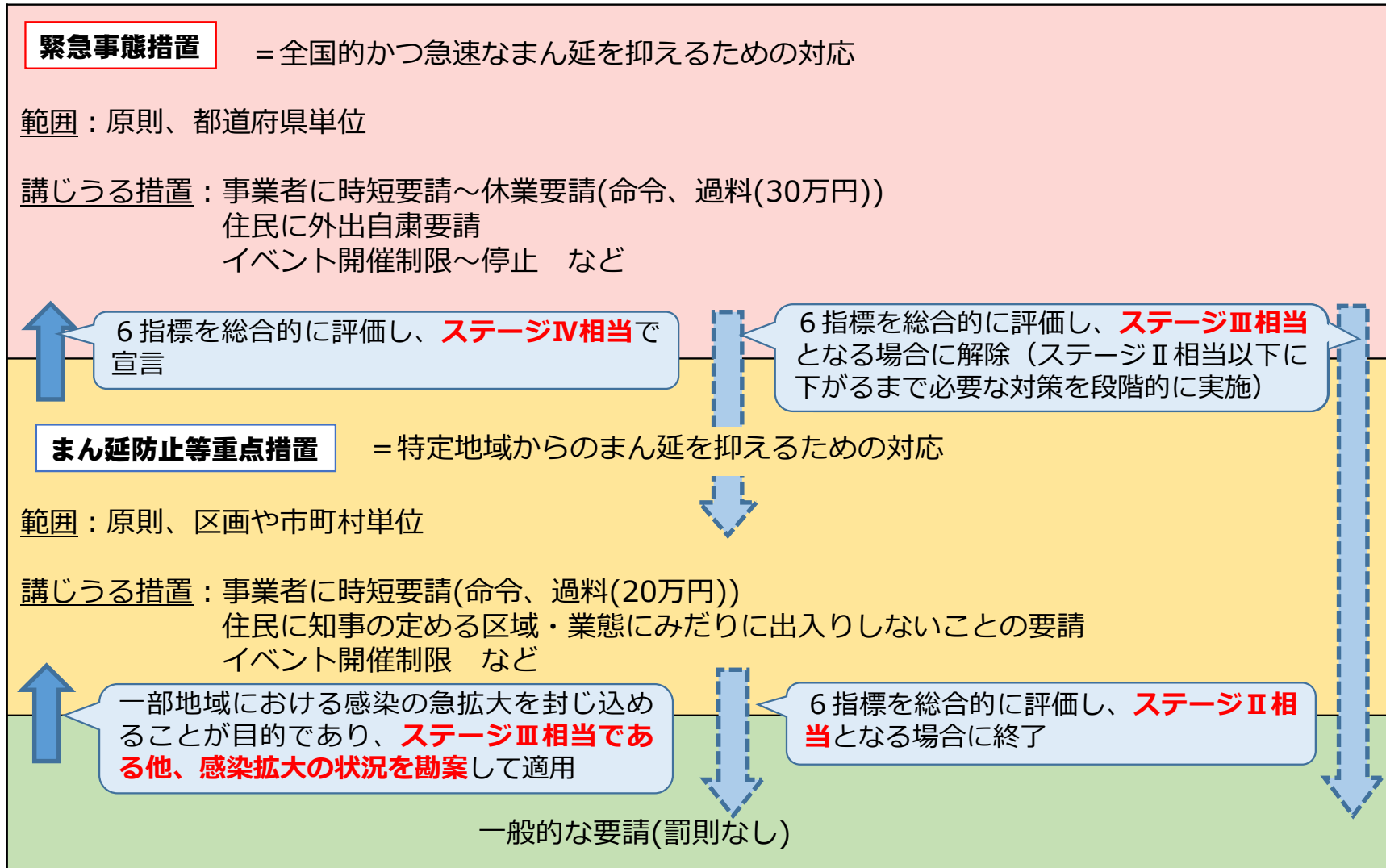
4) ~ 6) (略)

緊急事態措置、まん延防止等重点措置等について

(個別の都道府県の扱いについては、機械的に行うのではなく、その都度、総合的に判断)

資料3

<p>ステージⅣ 爆発的な感染拡大及び深刻な医療提供体制の機能不全を避けるための対応が必要な状態</p> <p>(主な目安)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病床のひっ迫具合 (最大確保病床50%) ・週当たり新規報告数 (25人/10万人) ・直近週> 先週
<p>ステージⅢ 感染者の急増及び医療提供体制における大きな支障の発生を避けるための対応が必要な段階</p> <p>(主な目安)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病床のひっ迫具合 (最大確保病床20%) ・週当たり新規報告数 (15人/10万人) ・直近週> 先週
<p>ステージⅡ 感染者の漸増及び医療提供体制への負荷が蓄積する段階</p>



※緊急事態措置及びまん延防止等重点措置に係る要請に伴う支援については、要請に応じたこと、要請による経営への影響の度合い等を勘案し、公平性の観点や円滑な執行等が行われることに配慮し、十分な理解を得られるようにするため、必要な支援となるよう努める。

- 新型コロナウイルス感染症に係るワクチン（以下「ワクチン」）の接種開始に当たり、ワクチンの確保、接種目的、接種順位の考え方、接種体制の整備など多領域にわたり、昨年7月以来、新型コロナウイルス感染症対策分科会において検討。
- 分科会での議論を踏まえ9月25日に中間的にとりまとめ、10月以降、市町村において準備を進め、また、予防接種法の改正や接種順位に関する検討等を行った上でさらに分科会で議論を行い、12月にとりまとめ案を策定。パブリックコメント（12/24～1/12 約3500件の意見）を行った上で、本年2月9日にとりまとめを実施。

（主な内容）

接種目的

- 新型コロナウイルス感染症の発症を予防し、死亡者や重症者の発生をできる限り減らし、結果として新型コロナウイルス感染症のまん延の防止を図る。

ワクチンの確保

- 令和3年前半までに全国民に提供できる数量を確保することを目指す。
- 健康被害に係る損害を賠償すること等により生じた製造販売業者等の損失の補償については、予防接種法に基づき対応。

接種の実施体制

- 予防接種法の臨時接種の特例として、住民への接種を優先する考えに立ち、簡素かつ効率的な接種体制構築。
- 接種は、国の指示のもと、都道府県の協力により、市町村において実施。
- ワクチン接種に係る費用は、国が必要な財政措置。

接種順位

- 重症化リスクの大きさ、医療提供体制の確保等を踏まえ、①医療従事者等への接種、次に②高齢者、その次に③高齢者以外で基礎疾患を有する者、及び高齢者施設等の従事者に接種を実施。その後、それ以外の者に対し、ワクチンの供給量や地域の実情等を踏まえ、順次接種。
- 医療従事者等は、患者（疑い含む）に直接医療を提供する施設の医療従事者等（患者の搬送に携わる救急隊員等や患者と接する業務を行う保健所職員を含む）が該当。

有効性及び安全性

- 副反応を疑う事象について、迅速に情報を把握し、専門家による評価により、速やかに必要な安全対策を講じる。

健康被害救済制度

- 健康被害が生じた場合、予防接種法に基づき必要な救済措置。

広報

- 的確で丁寧なコミュニケーション等を進め、国民が自らの意思で接種の判断を行うことができるように取組。

新型コロナウイルス感染症に係るワクチンの接種について

令和3年2月9日

内閣官房

厚生労働省

1 趣旨

新型コロナウイルス感染症に係るワクチン(以下「ワクチン」という。)の接種開始に当たっては、ワクチン等の確保に加え、流通体制の確保、接種順位の検討、接種体制の整備、副反応への対応、安全対策など、多領域にわたる事前準備が必要となる。

ワクチンの接種を円滑に実施するために、令和2年9月時点で得られた知見、新型コロナウイルス感染症対策分科会での議論経過等(別添)を踏まえ、中間とりまとめを策定したが、その後、予防接種法(昭和23年法律第68号)の改正や接種順位の検討など、接種に向け必要な準備を進めてきたところであり、それらを踏まえとりまとめを行うものである。

2 接種目的

新型コロナウイルス感染症の発症を予防し、死亡者や重症者の発生をできる限り減らし、結果として新型コロナウイルス感染症のまん延の防止を図る。

3 ワクチンの確保

(1)国は、多くの国民へのワクチン接種により、生命・健康を損なうリスクの軽減や医療への負荷の軽減、更には社会経済の安定につながることを期待されることから、令和3年前半までに全国民に提供できる数量を確保することを目指す。

このため、現在開発が進められているワクチン候補のうち、臨床試験の進捗状況等を踏まえ、安全性や有効性、日本での供給可能性等が見込まれるものについては、国内産、国外産の別を問わず、全体として必要な数量について、供給契約の締結を順次進めている。

(2)ワクチンの確保のため、健康被害に係る損害を賠償すること等により生じた製造販売業者等の損失の補償については、予防接種法に基づき、適切に対応する。

4 接種の実施体制

(1) 接種の実施体制については、特定接種の枠組みではなく、予防接種法の臨時接種の特例として、住民への接種を優先する考えに立ち、簡素かつ効率的な接種体制を構築する。

(2) 接種は、国の指示のもと、都道府県の協力により、市町村において実施することとなる。国民への円滑な接種を実施するため、国の主導的役割、広域的視点、住民に身近な視点から、国、都道府県及び市町村の主な役割について概ね以下の分担を前提とし、必要な体制の確保を図る。

(国の主な役割)

- ・ ワクチン、注射針・注射筒の購入及び卸売業者への譲渡
- ・ 接種順位の決定
- ・ ワクチンに係る科学的知見の国民への情報提供
- ・ 健康被害救済に係る認定
- ・ 副反応疑い報告制度の運営

(都道府県の主な役割)

- ・ 地域の卸売業者との調整
- ・ 市町村事務に係る調整
- ・ 医療従事者等への接種体制の調整
- ・ 専門的相談対応

(市町村の主な役割)

- ・ 医療機関との委託契約、接種費用の支払
- ・ 住民への接種勧奨、個別通知(予診票、接種券)
- ・ 接種手続等に関する一般相談対応
- ・ 健康被害救済の申請受付、給付
- ・ 集団的な接種を行う場合の会場確保

(3) ワクチン接種の実施に当たっては、地方自治体の負担が生じないように、予防接種法に基づき、国が必要な財政措置を講ずる。

(4) 国は、都道府県及び市町村の事務負担の軽減を図るため、接種可能な医療機関及び接種対象者の把握及びワクチン等の物流管理等のための

システムの構築・改修、集合契約の活用等を進める。

5 接種順位

(1) 当面、確保できるワクチンの量に限りがあり、その供給も順次行われる見通しであることから、接種目的に照らして、

- ・新型コロナウイルス感染症患者(新型コロナウイルス感染症疑い患者を含む。以下同じ。)に直接医療を提供する施設の医療従事者等(新型コロナウイルス感染症患者の搬送に携わる救急隊員等及び患者と接する業務を行う保健所職員等を含む。)
- ・高齢者及び基礎疾患を有する者

を接種順位の上位に位置付けて接種する。その基本的考え方や、具体的な範囲等については、別紙のとおり。

(2) 高齢者及び基礎疾患を有する者や障害を有する者が集団で居住する施設等で従事する者の接種順位については、

- ・高齢者等が入所・居住する社会福祉施設等(介護保険施設、居住系介護サービス、高齢者が入所・居住する障害者施設・救護施設等)において、利用者に直接接する職員

を高齢者に次ぐ接種順位と位置付けて接種する。その基本的考え方や、具体的な範囲等については、別紙のとおり。

(3) 妊婦の接種順位については、厚生労働省において、国内外の科学的知見等を踏まえた検討を継続した上で示す。

(4) 上記の者以外の者については、上記の者への接種の状況を踏まえた対応となるが、地方自治体はあらかじめ接種券を配布し、接種を希望する者は医療機関に予約すること等により、順次接種を行う。

6 ワクチンの有効性及び安全性

(1) 接種に用いるワクチンは現時点では未定であるが、新たな技術を活用したワクチンの開発が進められており、これまで日本で承認されたワクチンとは大きく性質が異なるものと考えられる。また、接種実績が限られる状況では、ワクチンの有効性及び安全性等に係る情報も限られることも想定される。

- (2) ワクチンの有効性及び安全性等の評価については、独立行政法人医薬品医療機器総合機構等で検討するとともに、広く接種を行う際には厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会で適切に議論する。
- (3) 国は、ワクチンの接種開始以降も、ワクチンの製造販売後調査等により、製造販売業者等と連携し、品質、有効性及び安全性のデータの収集・分析を行うなど、有効性及び安全性を十分に確保する。
- (4) 国は、ワクチンによる副反応を疑う事象について、医療機関又は製造販売業者からの報告などにより迅速に情報を把握するとともに、当該情報に係る専門家による評価により、速やかに必要な安全対策を講ずる。
- (5) ワクチンは最終的には個人の判断で接種されるものであることから、ワクチンの接種に当たっては、リスクとベネフィットを総合的に勘案し接種の判断ができる情報を提供することが必要である。

7 健康被害救済制度

国は、ワクチン接種に伴い、健康被害が生じた場合については、予防接種法に基づき、必要な救済措置を講ずる。

8 広報

国は、国民に対して、ワクチンの有効性及び安全性についての情報を提供するなど、的確で丁寧なコミュニケーション等を進め、幅広くワクチン接種への理解を得るとともに、国民が自らの意思で接種の判断を行うことができるよう取り組む。

9 今後の検討等

- (1) 今回整理する内容は、今後明らかになる知見等を踏まえ、適宜見直す。
- (2) 今後のワクチンの接種に当たり、更に具体的な接種順位、ワクチンの流通体制、複数メーカーのワクチンの使用の在り方、有害事象モニタリング、副反応への対応等について、厚生労働省において引き続き検討する。

(別紙)

接種順位の基本的考え方と具体的な範囲について

- 1 重症化リスクの大きさ、医療提供体制の確保等を踏まえ、まずは①医療従事者等への接種、次に②高齢者、その次に③高齢者以外で基礎疾患を有する者、及び高齢者施設等の従事者への接種をできるようにする。
その後、それ以外の者に対し、ワクチンの供給量や地域の実情等を踏まえ順次接種をできるようにする。
- 2 医療従事者等に早期に接種する理由として、以下の点が重要であることを踏まえ、具体的な範囲を定める。
 - ・ 業務の特性として、新型コロナウイルス感染症患者や多くの疑い患者と頻繁に接する業務を行うことから、新型コロナウイルスへの曝露の機会が極めて多いこと
 - ・ 医療従事者等の発症及び重症化リスクの軽減は、医療提供体制の確保のために必要であること

医療従事者等の範囲は、基本的に以下とする。

- 病院、診療所において、新型コロナウイルス感染症患者(新型コロナウイルス感染症疑い患者を含む。以下同じ。)に頻繁に接する機会のある医師その他の職員
- 薬局において、新型コロナウイルス感染症患者に頻繁に接する機会のある薬剤師その他の職員
- 新型コロナウイルス感染症患者を搬送する救急隊員等、海上保安庁職員、自衛隊職員
- 自治体等の新型コロナウイルス感染症対策業務において、新型コロナウイルス感染症患者に頻繁に接する業務を行う者

3 基礎疾患を有する者の範囲については、第 43 回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会予防接種基本方針部会(令和2年 12 月 25 日開催)において、現時点の科学的知見等に基づいて検討され、現時点では以下の範囲とすることとされた。今後、国内外の新たな科学的知見等も踏まえ、同部会で検討し見直すことがある。

(1) 以下の病気や状態の方で、通院／入院している方

1. 慢性の呼吸器の病気
2. 慢性の心臓病(高血圧を含む。)
3. 慢性の腎臓病
4. 慢性の肝臓病(肝硬変等)
5. インスリンや飲み薬で治療中の糖尿病又は他の病気を併発している糖尿病
6. 血液の病気(ただし、鉄欠乏性貧血を除く。)
7. 免疫の機能が低下する病気(治療中の悪性腫瘍を含む。)
8. ステロイドなど、免疫の機能を低下させる治療を受けている
9. 免疫の異常に伴う神経疾患や神経筋疾患
10. 神経疾患や神経筋疾患が原因で身体の機能が衰えた状態(呼吸障害等)
11. 染色体異常
12. 重症心身障害(重度の肢体不自由と重度の知的障害が重複した状態)
13. 睡眠時無呼吸症候群

(2) 基準(BMI 30 以上)を満たす肥満の方

4 高齢者及び基礎疾患を有する者や障害を有する者が集団で居住する施設等で従事する者(以下「高齢者施設等の従事者」という。)の接種順位については、業務の特性として、仮に施設で新型コロナウイルス感染症患者が発生した後にも高齢の患者や濃厚接触者へのサービスを継続するとともに、クラスターを抑止する対応を行う必要があることから、基本的に以下の従事者を、高齢者に次ぐ接種順位と位置付ける。

対象の高齢者施設等には、例えば、以下の施設であって、高齢者等が入所・居住するものが含まれる。

- 介護保険施設
 - ・ 介護老人福祉施設
 - ・ 地域密着型介護老人福祉施設
入所者生活介護
 - ・ 介護老人保健施設
 - ・ 介護医療院
- 居住系介護サービス
 - ・ 特定施設入居者生活介護
 - ・ 地域密着型特定施設入居者
生活介護
 - ・ 認知症対応型共同生活介護
- 老人福祉法による施設
 - ・ 養護老人ホーム
 - ・ 軽費老人ホーム
 - ・ 有料老人ホーム
- 高齢者住まい法による住宅
 - ・ サービス付き高齢者向け住宅
- 生活保護法による保護施設
 - ・ 救護施設
 - ・ 更生施設
 - ・ 宿所提供施設
- 障害者総合支援法による障害者
支援施設等
 - ・ 障害者支援施設
 - ・ 共同生活援助事業所
 - ・ 重度障害者等包括支援事業所
(共同生活援助を提供する場合に限
る)
 - ・ 福祉ホーム
- その他の社会福祉法等による施設
 - ・ 社会福祉住居施設
(日常生活支援住居施設を含む)
 - ・ 生活困窮者・ホームレス自立支援
センター
 - ・ 生活困窮者一時宿泊施設
 - ・ 原子爆弾被爆者養護ホーム
 - ・ 生活支援ハウス
 - ・ 婦人保護施設
 - ・ 矯正施設 (※患者が発生した場合
の処遇に従事する職員に限る)
 - ・ 更生保護施設

<感染状況について>

- ・ 新規感染者数は、報告日ベースでは、1月11日には、直近一週間では10万人あたり約36人に達したが、1月中旬以降減少傾向となっており、直近の1週間では10万人あたり約11人となっている。(発症日ベースでは、1月上旬以降減少傾向が継続)
 実効再生産数：全国的には、1月上旬以降1を下回っており、直近で0.76となっている(1月25日時点)。1都3県、大阪・兵庫・京都、愛知・岐阜、福岡では、1を下回る水準が継続。(1月25日時点)
- ・ 入院者数は減少が続き、重症者数も減少傾向が明確化、死亡者数も減少の動き。60歳以上の新規感染者数の割合が高まっているため、重症者数の減少は時間を要することが考えられ、入院・療養調整中の事例は減少しているものの、対応を続けている保健所や医療機関の職員は引き続き疲弊し、業務への影響が懸念される。都市部を中心に多数の感染者数の発生が続く中、新型コロナの診療と通常の医療との両立が困難な状況が続いており、救急対応への影響が見られる事例などが生じているほか、高齢者施設でのクラスター発生事例も継続。

【地域の動向】 ※新規感染者数の数値は、報告日ベースの直近1週間合計の対人口10万人の値

- ①首都圏 東京では、新規感染者数は減少が続き、宣言期間中のピークの1/3を下回っているが、なお約26人となっている。医療提供体制は非常に厳しい状況が継続。自治体での入院等の調整が厳しい状況も継続。神奈川、埼玉、千葉でも新規感染者数は減少が続き、それぞれ約14人、約18人、約19人となっている。いずれも医療提供体制は厳しい状況。
 栃木では、新規感染者数の減少が続き、約6人まで減少。病床使用率は低下傾向。
- ②関西圏 大阪では、新規感染者数の減少が続き、約13人とステージⅢの指標となっている15人を下回っている。一方、医療提供体制や自治体での入院等の調整が厳しい状況も継続。また、高齢者施設等でのクラスターが継続的に発生し、重症者が高止まり。兵庫、京都でも新規感染者数は減少傾向であり、それぞれ約10人、約8人となっているが、医療提供体制は厳しい状況。新規感染者数の減少に伴う医療提供体制の負荷への影響について、引き続き注視する必要。
- ③中京圏 愛知では、新規感染者数の減少が続き、約8人と15人を下回っている。岐阜でも新規感染者数の減少が継続し、約9人まで減少。いずれも、病床使用率は低下傾向であるが、医療提供体制は厳しい状況。新規感染者数の減少に伴う医療提供体制の負荷への影響について、引き続き注視する必要がある。
- ④九州 福岡では、新規感染者数の減少が続き、約12人と15人を下回っているが、重症者数は増加傾向。医療提供体制は厳しい状況。新規感染者数の減少に伴う医療提供体制の負荷への影響について、引き続き注視する必要。
- ⑤上記以外の地域 新規感染者数の減少傾向が続いている。沖縄でも、医療提供体制は、非常に厳しい状況が続いているが、新規感染者数は約17人まで減少。沖縄においては65才以上の割合が高く注意を要する。

【変異株】

- ・ 英国、南アフリカ等で増加がみられる新規変異株は、世界各地に拡大しつつあり、国内でも、国内での感染によると考えられる、海外渡航歴のない者から変異株が発見される事例が、複数都道府県に感染者またがる広域事例も含め、生じている。従来株と比較して感染性が高い可能性があり、国内で持続的に感染した場合には、現状より急速に拡大するリスクがある。英国株については、変異による重篤度への影響も注視が必要。

直近の感染状況の評価等

＜感染状況の分析＞

- 1都3県、愛知・岐阜、大阪・兵庫・京都では実効再生産数が年始から低下傾向となり、緊急事態宣言下では0.8弱程度を維持し、新規感染者数の減少も継続しているが、人流の低下の鈍化もみられ留意が必要。クラスターの発生状況は、飲食店等に着目した今般の緊急事態宣言に伴う取組への協力もあり、飲食店は減少しているが、医療機関・福祉施設、家庭内などを中心として発生するとともに、飲食店でも引き続き発生している。全国的に20-50才台の感染者は減少しているが、80代以降では減少傾向が弱く、感染者数に占める60才以上の割合が上昇しており、重症者や死亡者の減少が遅れる可能性があり、動向に注意が必要。
- 年末年始にかけて、都市部から周辺地域へという形で感染が拡大したことも踏まえると、大都市における感染をしっかりと抑制し、再拡大を抑える対策を継続することが、地方での感染を抑えるためにも必須である。
※直近1週間の新規感染者数は、東京都だけで全国の1/4強を占め、1都3県で55%弱を占めている。また、緊急事態宣言下の10都府県で新規感染者数の8割弱を占めている。

＜必要な対策＞

- 今後、新規感染者の減少傾向を確かなものとし、重症者数、死亡者数を減少させることに加え、今後のワクチン接種に向けて医療機関の負荷を減少させ、リバウンドを防止し、変異株探知を的確に行えるようにするためにも、対策の徹底が必要。
- 11都府県に発出されていた緊急事態宣言は、2月2日に栃木県を除き、延長が決定された。新規感染者数が15人を下回り、病床使用率も低下傾向が見られる地域もあるが、医療提供体制や公衆衛生体制の負荷への影響について、引き続き注視する必要がある。一方、多数の入院者数、重症者数が引き続き発生する状況も想定し、引き続き必要な医療提供体制の確保が必要。
- 緊急事態宣言が解除された地域でも、再増加につながらないよう、引き続き感染者数を減少させる取組が必要。そのためには感染リスクに応じた積極的検査や積極的疫学調査を再度強化できる体制が求められる。また、感染拡大の核となる場や影響の変化を評価・分析し、新たに対応が必要となる取組も検討すべき。
- 「高齢者を守る」。クラスターの発生が継続している福祉施設および医療機関における感染拡大を阻止する取組が必要である。さらに、施設従事者も守るための取組が必要である。施設等の職員に対する定期的な検査の実施、自治体の高齢者福祉部門と感染症対策部門が連携して、施設への専門家派遣等による感染症対策の支援が求められる。さらに、高齢者施設で1例でも感染者が確認された場合には、地域の医療資源を活用して、施設への医療支援を迅速に行うこと。

【変異株】

- 変異株国内流入の監視のため、リスク評価に基づく検疫体制の強化が必要である。また、国内の変異株スクリーニング検査体制の強化により、変異株感染者の早期検知、積極的疫学調査と速やかな拡大防止策の実施や広域事例への支援等が求められる。個人の基本的な感染予防策は、従来と同様に、3密の回避、マスクの着用、手洗いなどが推奨される。

直近の感染状況等（１）

○新規感染者数の動向（対人口10万人（人））

	1/21～1/27	1/28～2/3	2/4～2/10
全国	23.62人 (29,806人) ↓	16.18人 (20,415人) ↓	10.72人 (13,521人) ↓
北海道	15.50人 (814人) ↓	13.54人 (711人) ↓	9.81人 (515人) ↓
埼玉	29.32人 (2,155人) ↓	23.95人 (1,760人) ↓	18.01人 (1,324人) ↓
千葉	38.38人 (2,402人) ↓	29.16人 (1,825人) ↓	19.01人 (1,190人) ↓
東京	52.58人 (7,319人) ↓	35.62人 (4,959人) ↓	25.56人 (3,558人) ↓
神奈川	38.74人 (3,563人) ↓	24.43人 (2,247人) ↓	14.31人 (1,316人) ↓
岐阜	16.10人 (320人) ↓	11.63人 (231人) ↓	9.26人 (184人) ↓
愛知	19.29人 (1,457人) ↓	12.58人 (950人) ↓	8.21人 (620人) ↓
京都	32.44人 (838人) ↓	20.05人 (518人) ↓	8.36人 (216人) ↓
大阪	32.58人 (2,870人) ↓	21.88人 (1,927人) ↓	12.74人 (1,122人) ↓
兵庫	24.99人 (1,366人) ↓	17.47人 (955人) ↓	10.01人 (547人) ↓
福岡	28.47人 (1,453人) ↓	17.32人 (884人) ↓	12.42人 (634人) ↓
沖縄	40.06人 (582人) ↓	28.97人 (421人) ↓	16.79人 (244人) ↓

○検査体制の動向（検査数、陽性者割合）

1/18～1/24		1/25～1/31		2/1～2/7	
475,366件 ↑	7.4% ↓	433,315件 ↓	5.6% ↓	372,020件 ↓	4.2% ↓
20,059件 ↑	4.3% ↓	20,791件 ↑	3.7% ↓	16,223件 ↓	3.9% ↑
35,006件 ↑	7.3% ↓	33,300件 ↓	5.5% ↓	36,780件 ↑	4.1% ↓
22,047件 ↑	13.2% ↓	22,145件 ↑	9.4% ↓	19,552件 ↓	7.3% ↓
93,010件 ↑	9.1% ↓	84,189件 ↓	7.1% ↓	72,706件 ↓	5.5% ↓
35,464件 ↑	13.7% ↓	29,078件 ↓	9.4% ↓	25,011件 ↓	6.1% ↓
6,254件 ↑	5.4% ↓	5,227件 ↓	5.3% ↓	4,383件 ↓	4.8% ↓
17,128件 ↑	9.2% ↓	15,941件 ↓	7.4% ↓	12,411件 ↓	5.4% ↓
10,503件 ↑	8.4% ↓	8,911件 ↓	7.7% ↓	8,712件 ↓	3.5% ↓
39,962件 ↑	8.4% ↓	36,653件 ↓	6.2% ↓	29,995件 ↓	4.5% ↓
13,550件 ↑	11.7% ↓	13,054件 ↓	8.3% ↓	12,392件 ↓	5.4% ↓
26,288件 ↑	6.2% ↓	23,145件 ↓	4.8% ↓	16,669件 ↓	4.0% ↓
8,317件 ↑	7.4% ↑	7,820件 ↓	6.9% ↓	5,458件 ↓	5.5% ↓

※ ↑は前週と比べ増加、↓は減少、→は同水準を意味する。

直近の感染状況等（2）

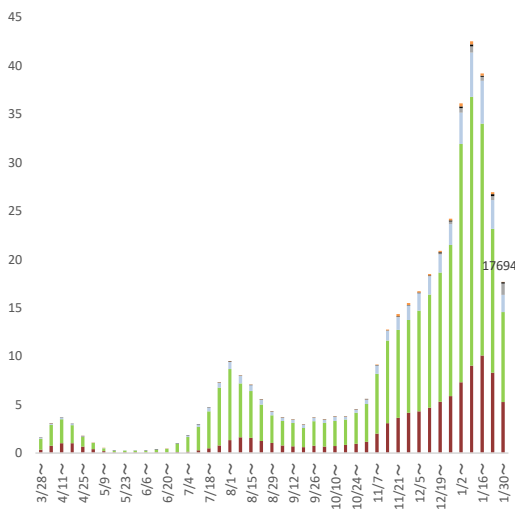
○入院患者数の動向（入院者数(対受入確保病床数)

○重症者数の動向（入院者数(対受入確保病床数)

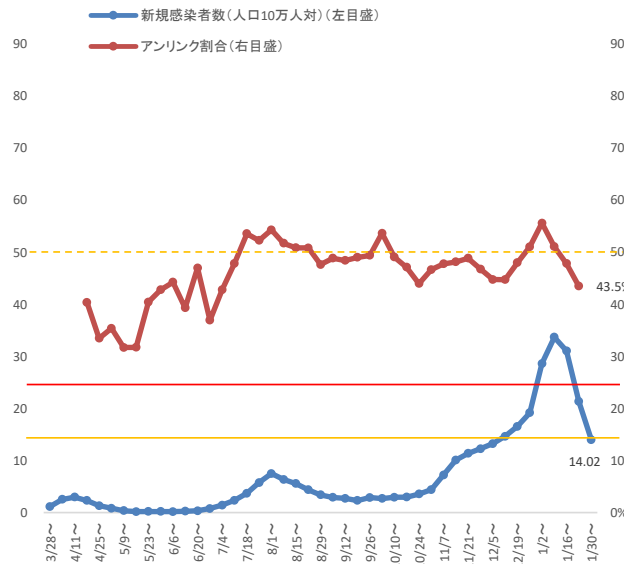
	1/20	1/27	2/3	1/20	1/27	2/3
全国	14,724人(52.8%) ↓	14,417人(51.6%) ↓	13,489人(46.4%) ↓	1,505人(41.8%) ↑	1,569人(43.2%) ↑	1,439人(39.8%) ↓
北海道	708人(39.1%) ↓	704人(38.9%) ↓	641人(35.1%) ↓	13人(7.1%) ↑	18人(9.9%) ↑	12人(7.5%) ↓
埼玉	886人(69.7%) ↓	867人(67.8%) ↓	970人(73.4%) ↑	82人(64.1%) ↑	92人(65.7%) ↑	71人(50.4%) ↓
千葉	661人(56.8%) ↑	713人(65.2%) ↑	728人(66.6%) ↑	45人(48.4%) ↑	54人(61.4%) ↑	46人(52.3%) ↓
東京	2,957人(73.9%) ↓	2,933人(73.3%) ↓	2,924人(59.7%) ↓	535人(107.0%) ↑	567人(113.4%) ↑	537人(107.4%) ↓
神奈川	938人(48.4%) ↑	928人(59.7%) ↓	879人(56.5%) ↓	111人(55.5%) ↑	105人(55.3%) ↓	104人(54.7%) ↓
岐阜	404人(64.6%) ↑	364人(53.9%) ↓	301人(43.4%) ↓	15人(29.4%) ↓	14人(23.7%) ↓	11人(18.6%) ↓
愛知	697人(63.2%) ↓	718人(65.2%) ↑	699人(63.4%) ↓	54人(43.2%) ↑	67人(53.6%) ↑	60人(48.0%) ↓
京都	278人(38.6%) ↓	273人(37.9%) ↓	240人(57.7%) ↓	37人(43.0%) ↑	35人(40.7%) ↓	31人(36.0%) ↓
大阪	1,198人(74.8%) ↑	1,211人(68.2%) ↑	1,172人(60.9%) ↓	256人(64.5%) ↓	270人(64.0%) ↑	258人(61.1%) ↓
兵庫	598人(79.1%) ↑	586人(77.5%) ↓	539人(64.2%) ↓	69人(59.5%) ↓	72人(62.1%) ↑	65人(56.0%) ↓
福岡	507人(79.1%) ↑	572人(84.5%) ↑	618人(89.4%) ↑	27人(24.5%) ↑	35人(31.8%) ↑	40人(36.4%) ↑
沖縄	320人(68.2%) ↑	368人(78.5%) ↑	383人(81.7%) ↑	30人(56.6%) ↑	38人(71.7%) ↑	34人(64.2%) ↓

※ 「入院患者数の動向」は、厚生労働省「新型コロナウイルス感染症患者の療養状況、病床数等に関する調査」による。この調査では、記載日の0時時点で調査・公表している。重症者数については、8月14日公表分以前とは対象者の基準が異なる。また、同調査(令和3年2月5日公表)では、東京都の重症者の受入確保病床使用率について、「重症者数537は本調査のために国基準で集計されたものであり、確保病床数500と単純に比較できない。」とされている。
↑は前週と比べ増加、↓は減少、→は同水準を意味する。

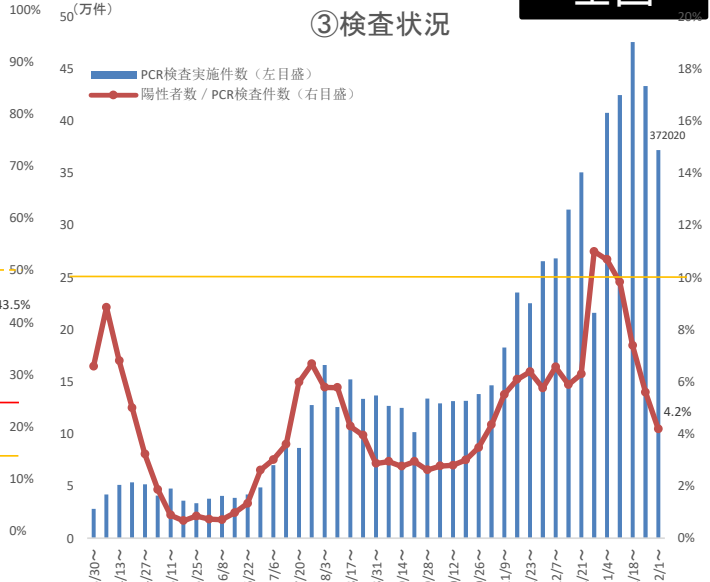
① 新規感染者報告数



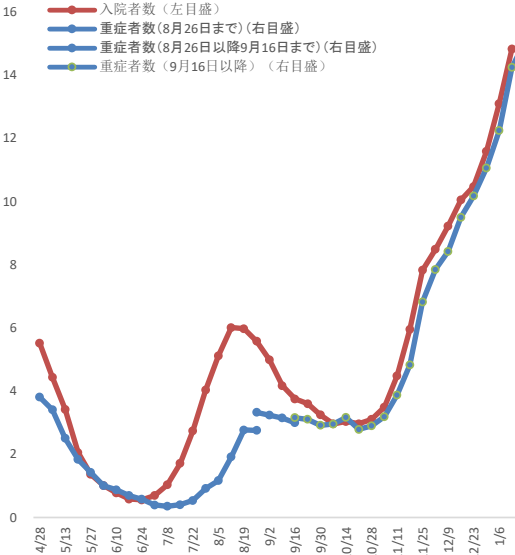
② 新規感染者数(人口10万人対)／アンリンク割合



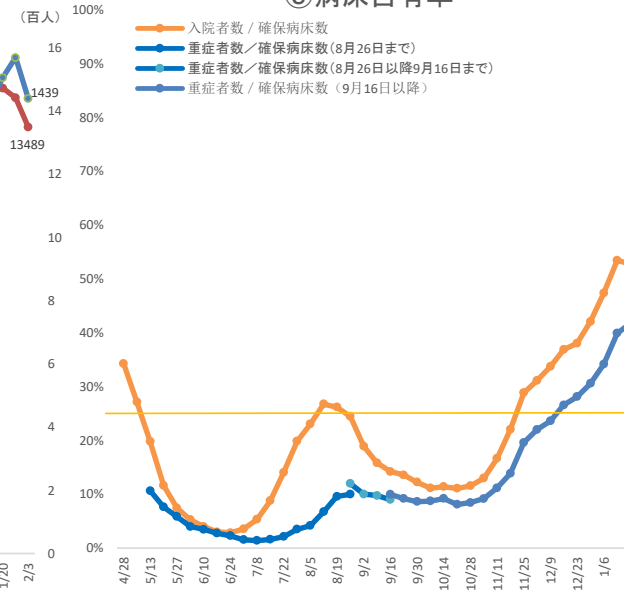
③ 検査状況



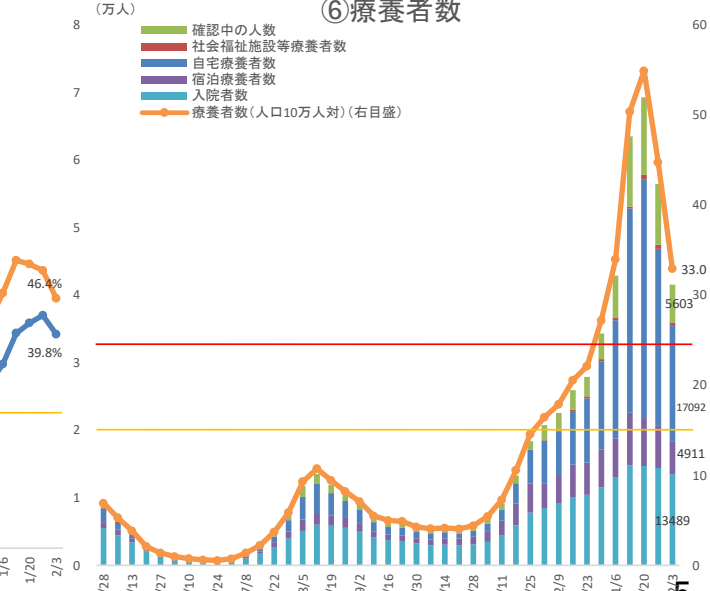
④ 入院者数／重症者数



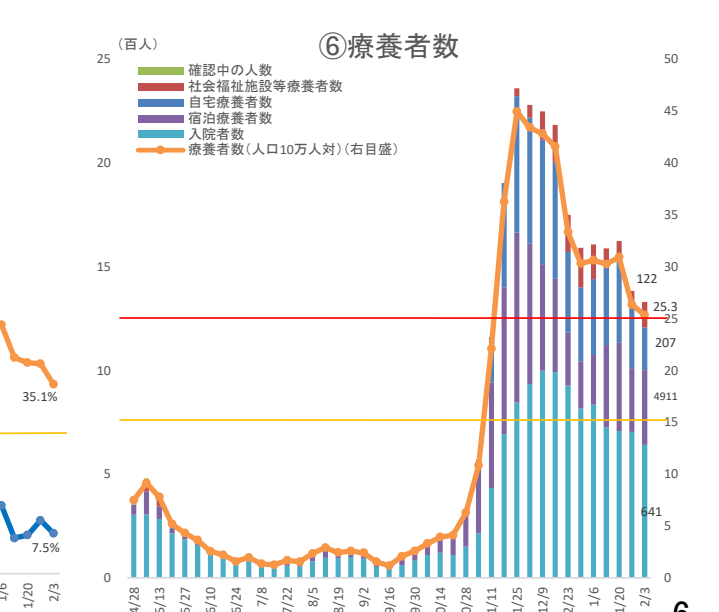
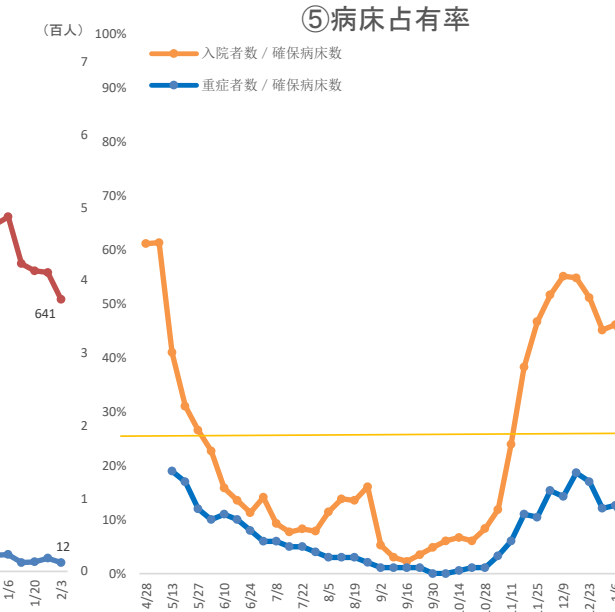
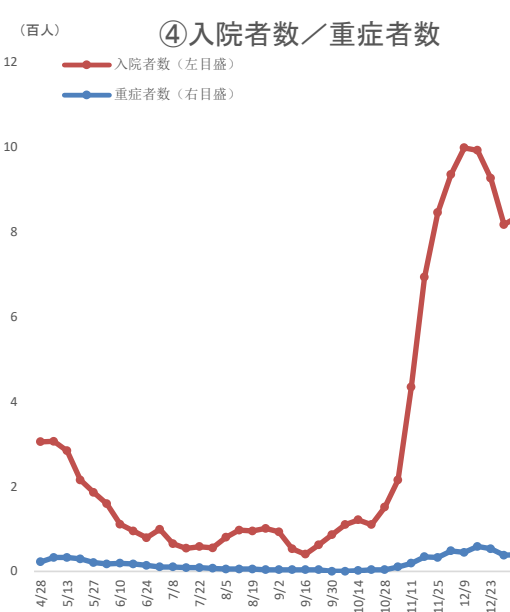
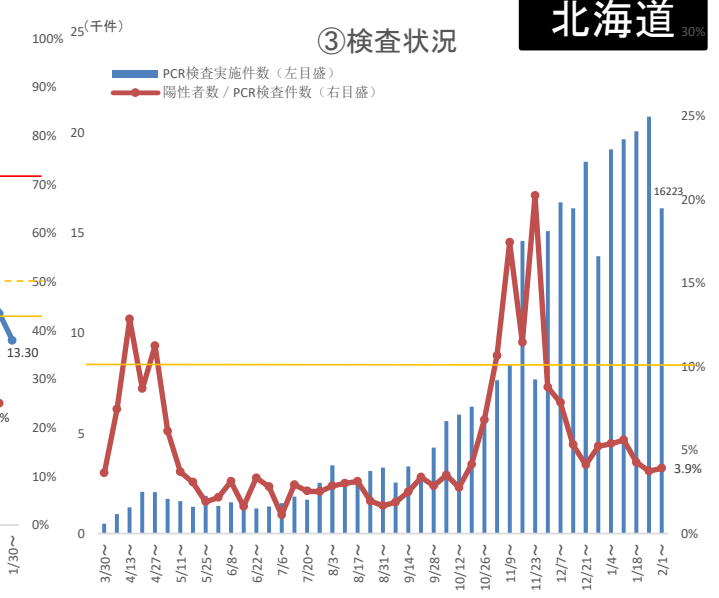
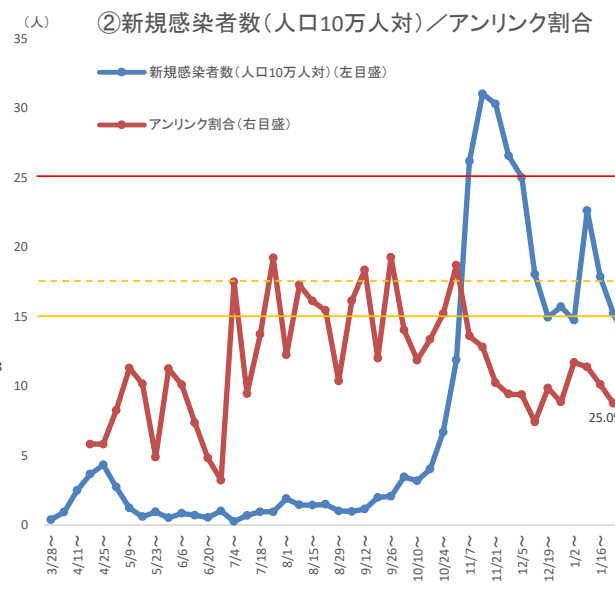
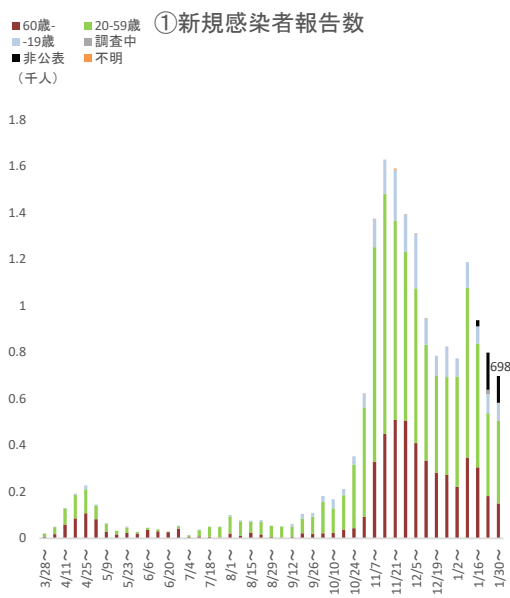
⑤ 病床占有率



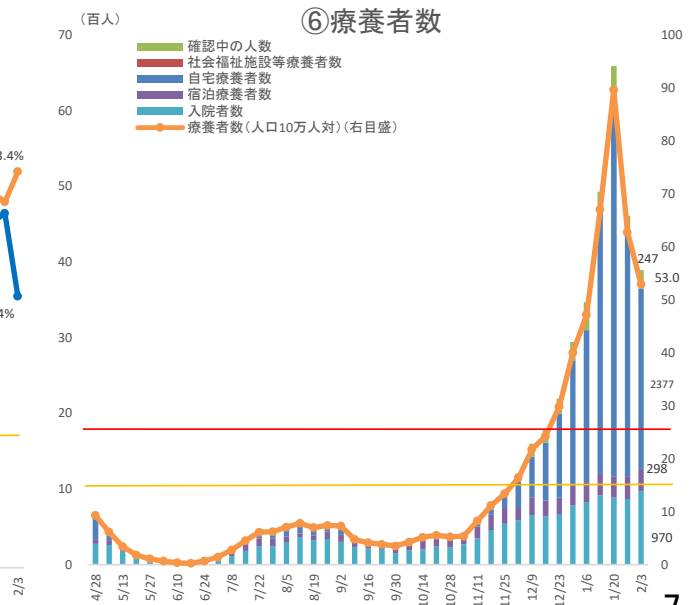
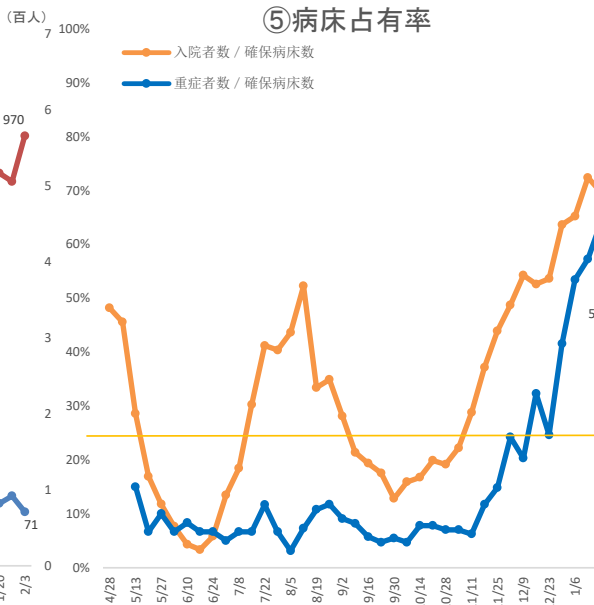
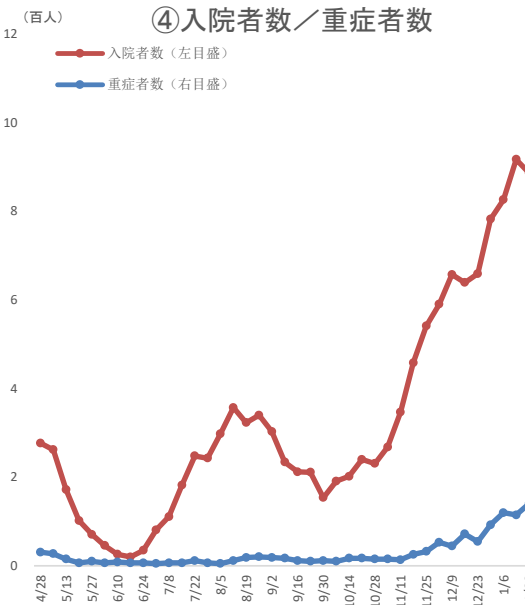
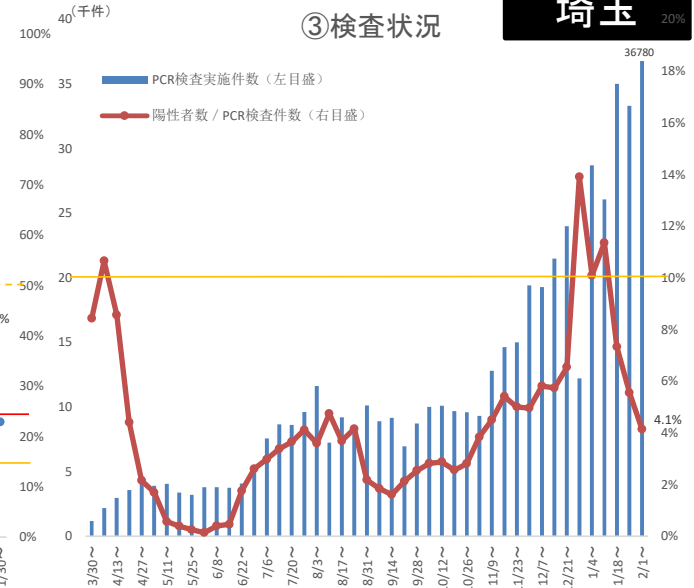
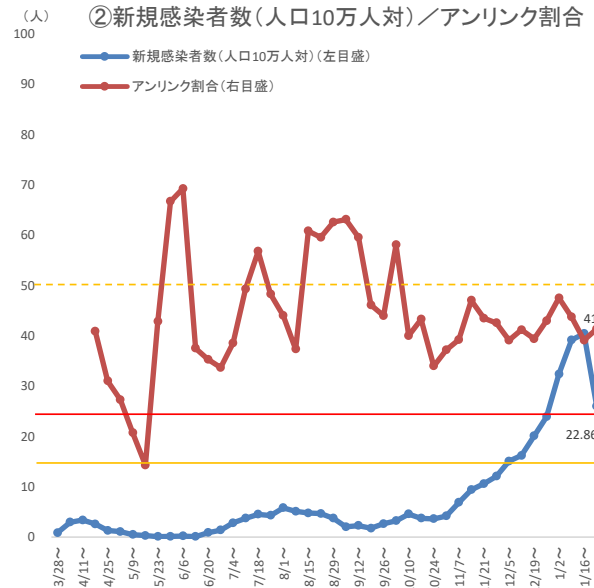
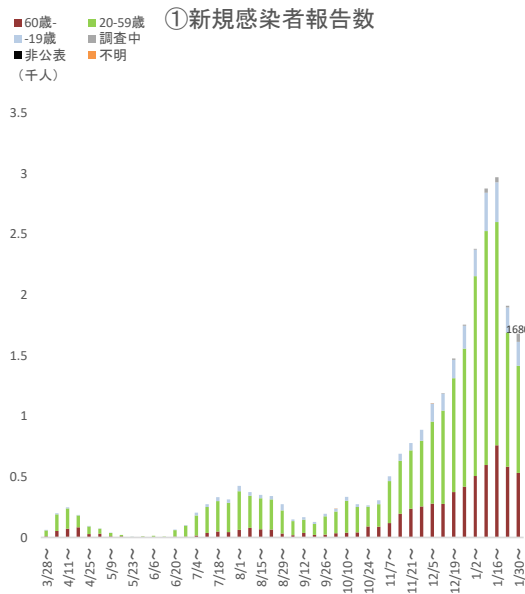
⑥ 療養者数



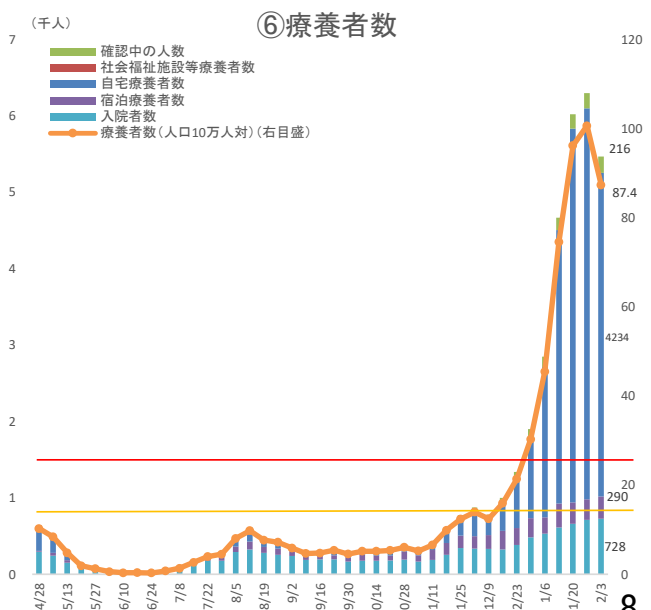
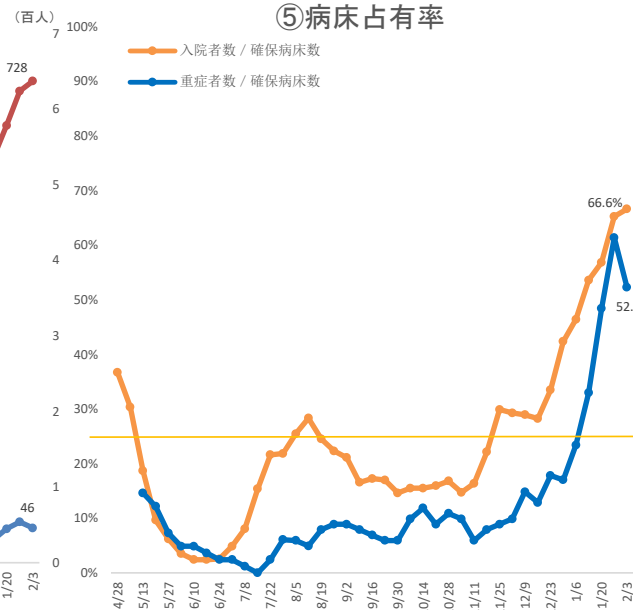
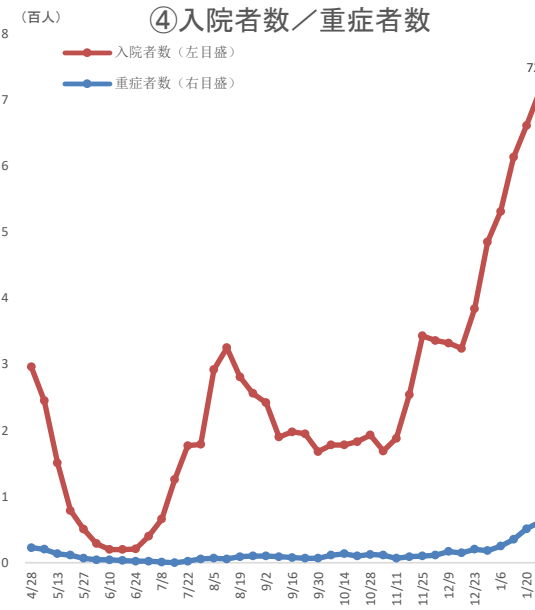
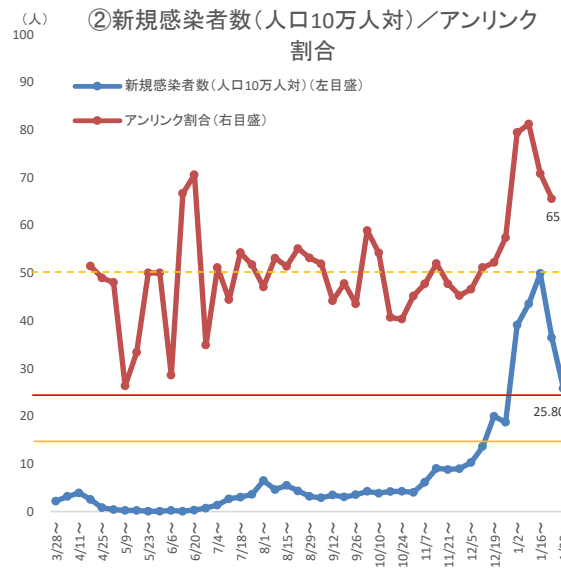
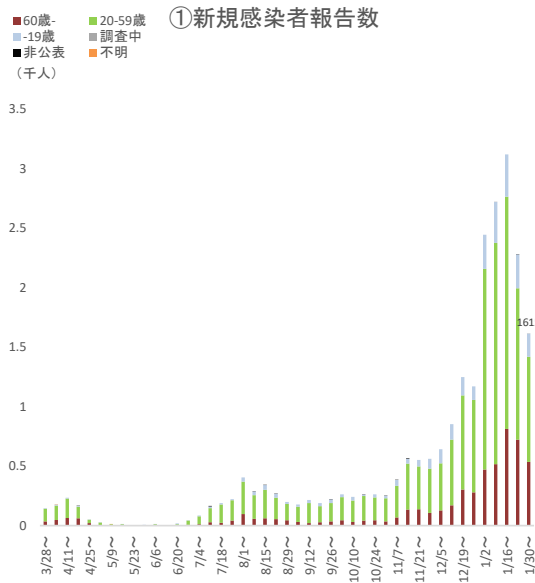
(資料出所)2月11日ADB資料2



(資料出所) 2月11日ADB資料2

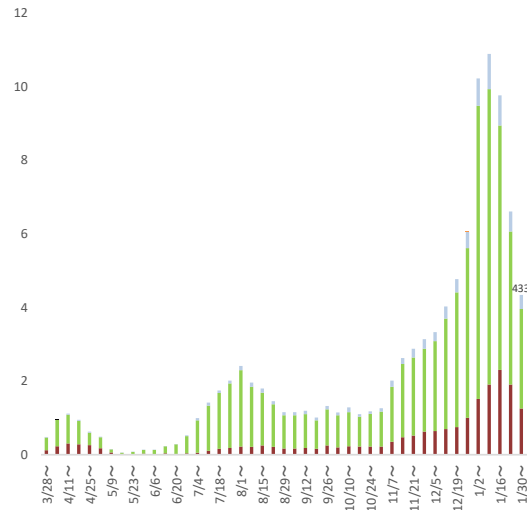


(資料出所) 2月11日ADB資料2

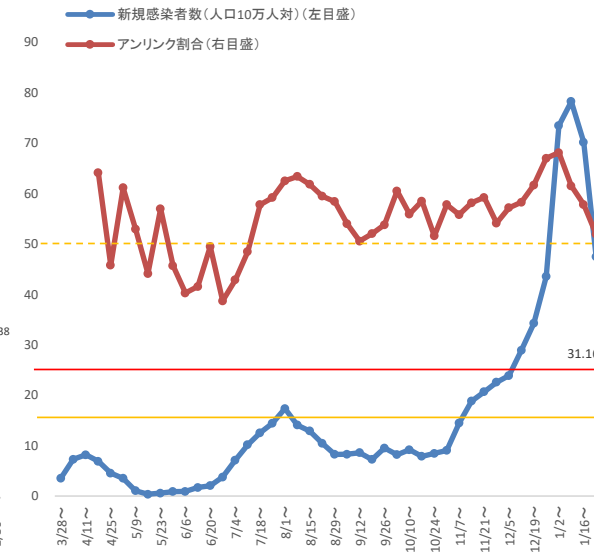


(資料出所) 2月11日ADB資料2

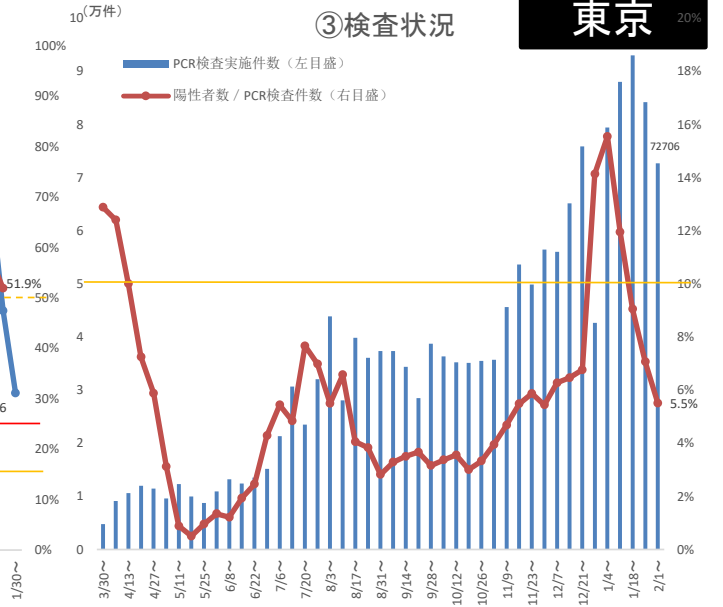
①新規感染者報告数



②新規感染者数(人口10万人対)／アンリンク割合

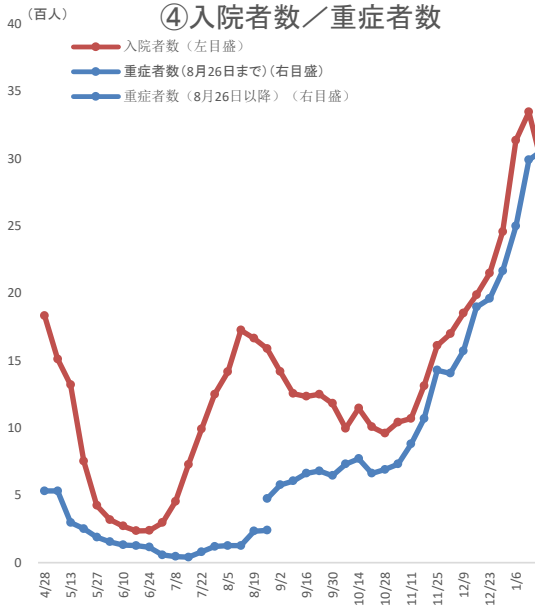


③検査状況

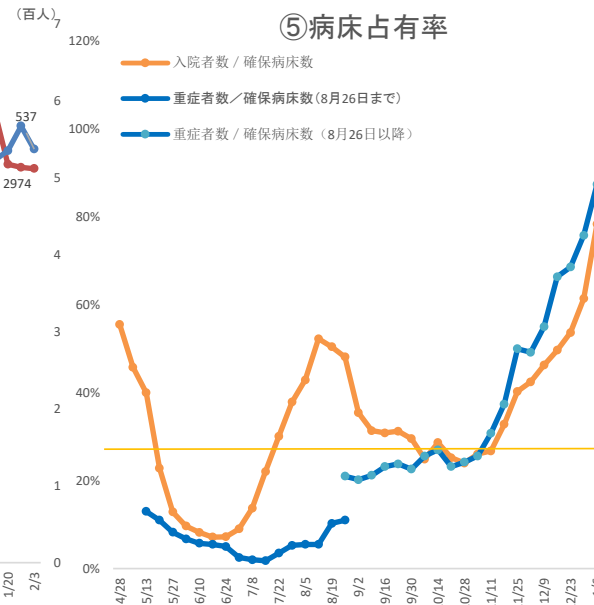


東京 20%

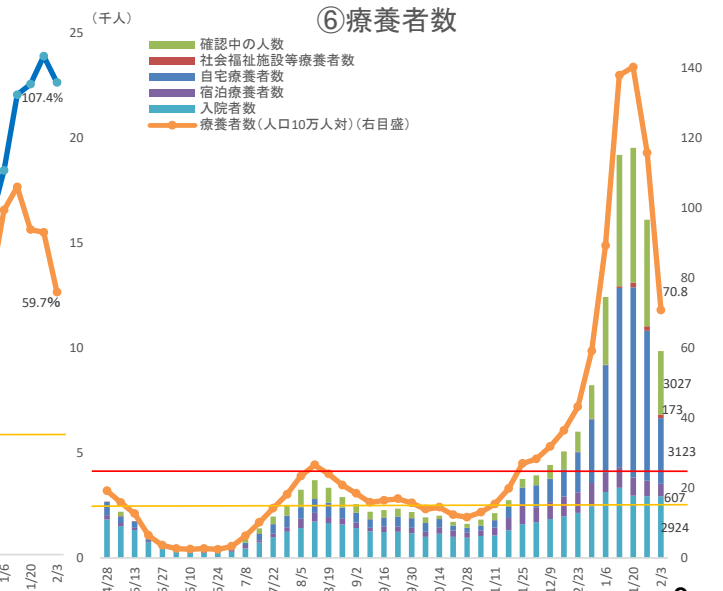
④入院者数／重症者数



⑤病床占有率



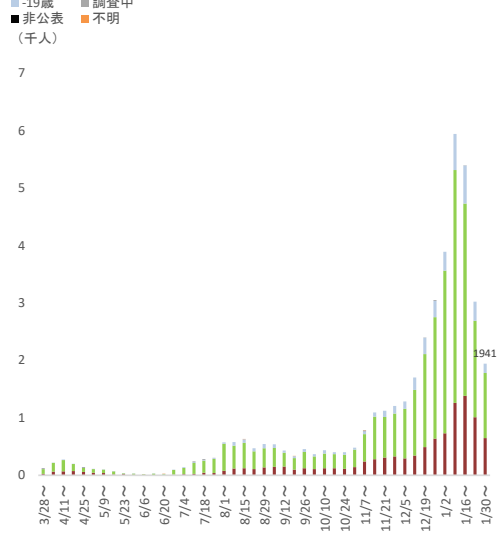
⑥療養者数



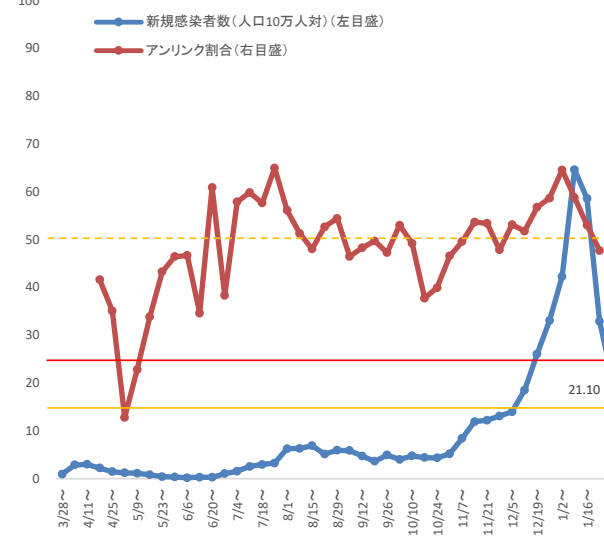
(資料出所)2月11日ADB資料2

神奈川

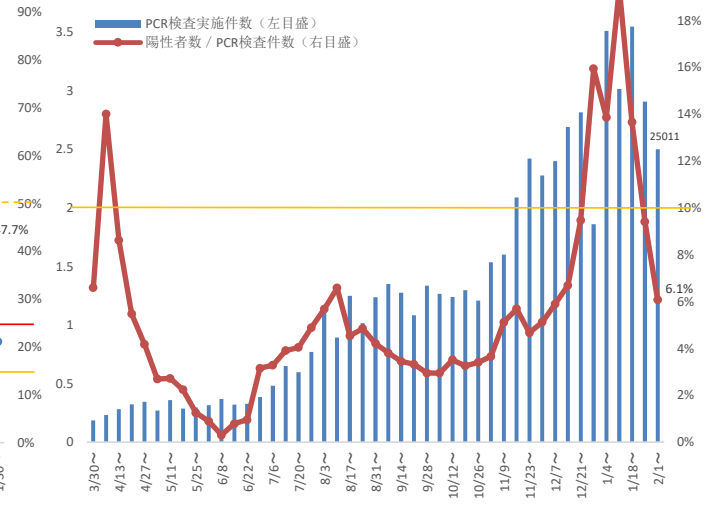
①新規感染者報告数



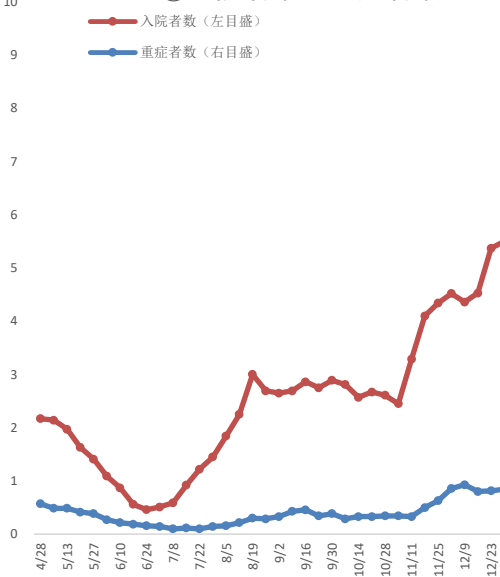
②新規感染者数(人口10万人対)／アンリンク割合



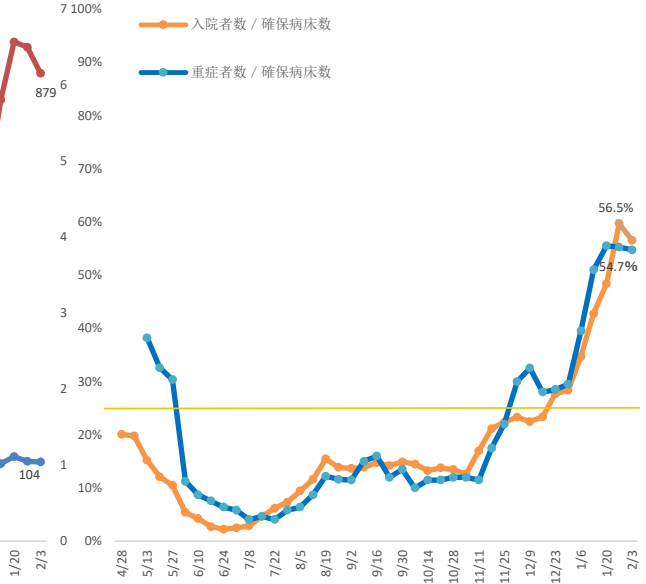
③検査状況



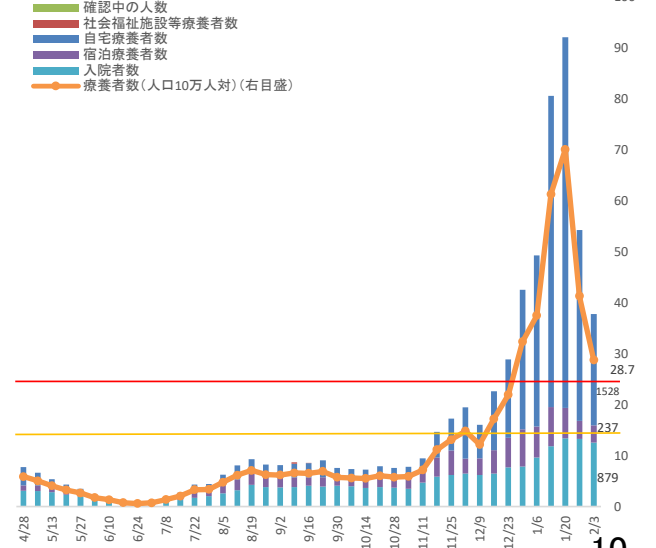
④入院者数／重症者数



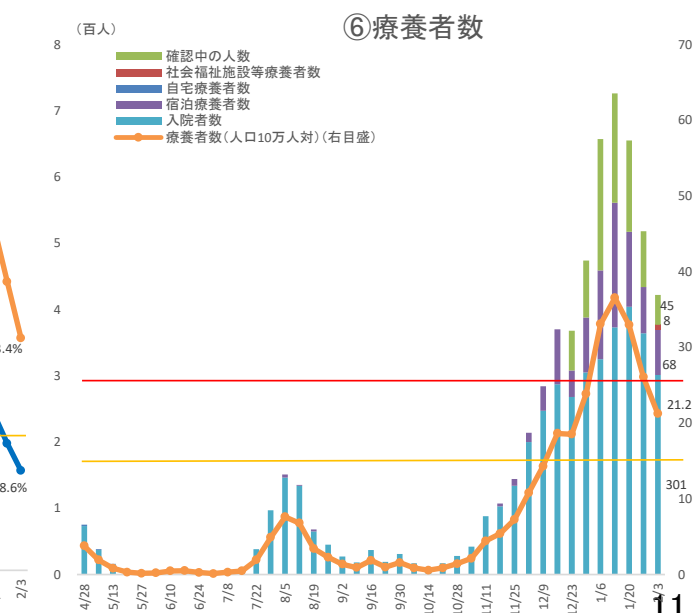
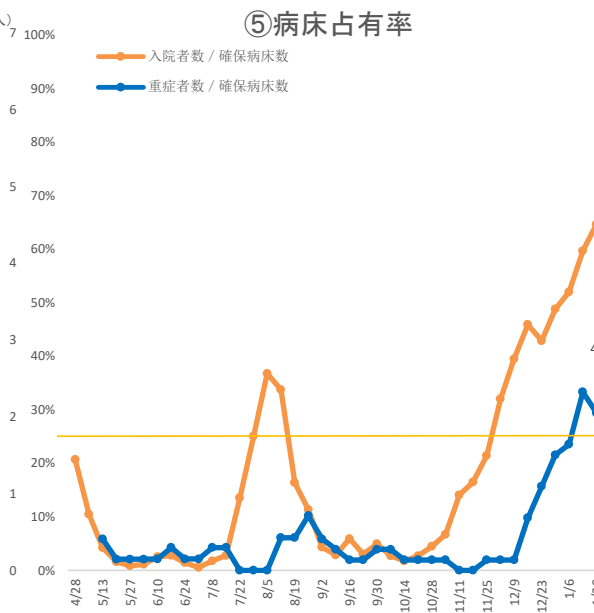
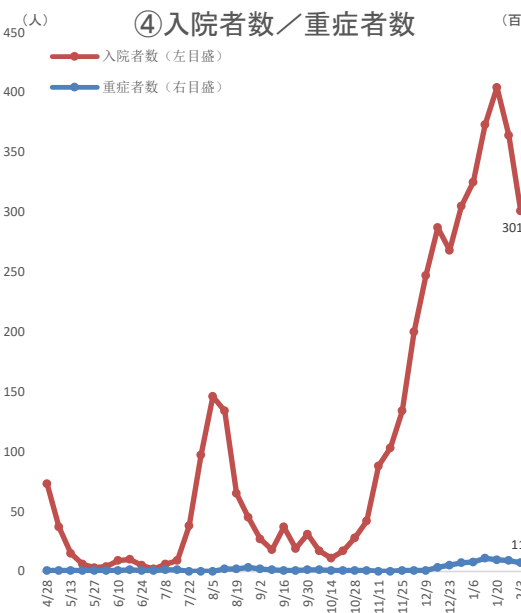
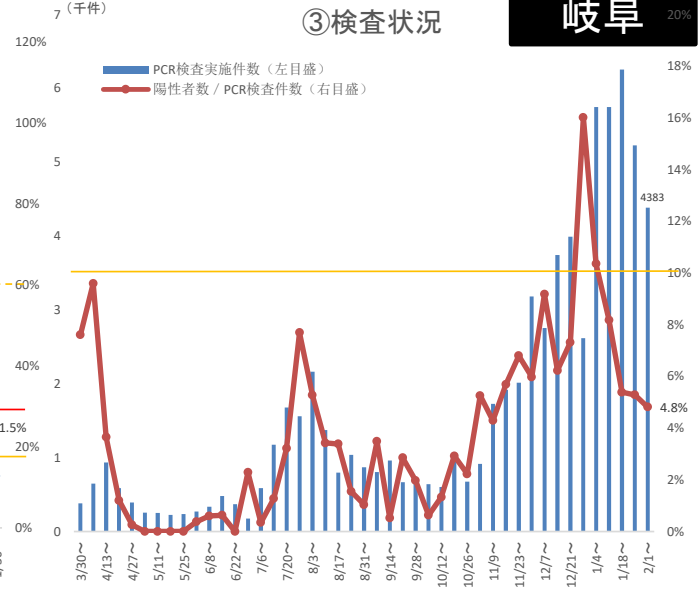
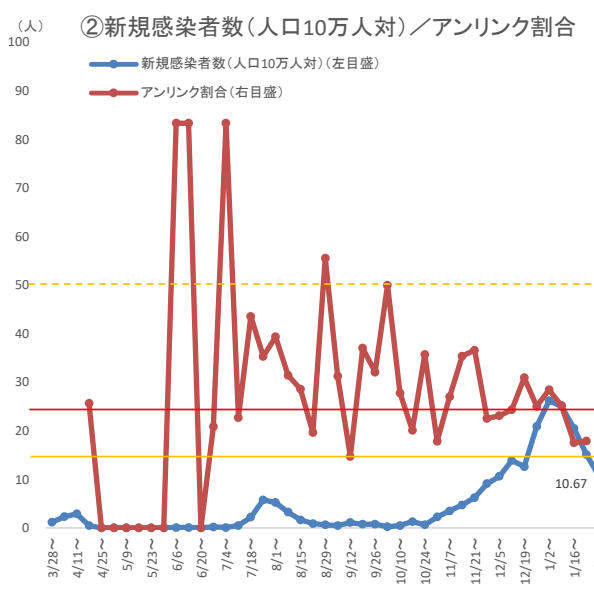
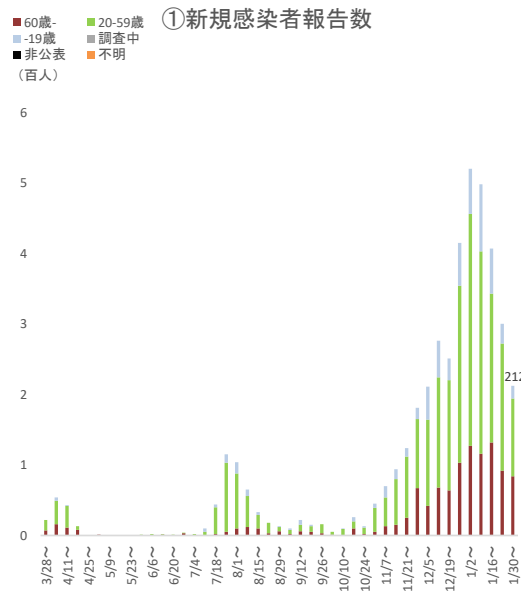
⑤病床占有率



⑥療養者数

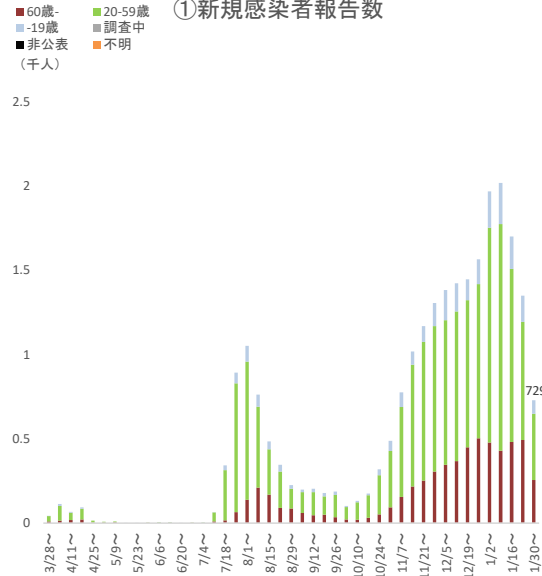


(資料出所)2月11日ADB資料2

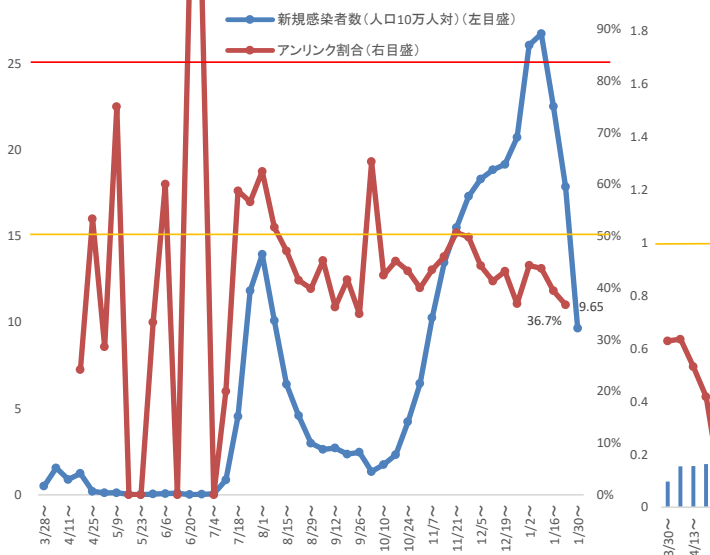


(資料出所) 2月11日ADB資料2

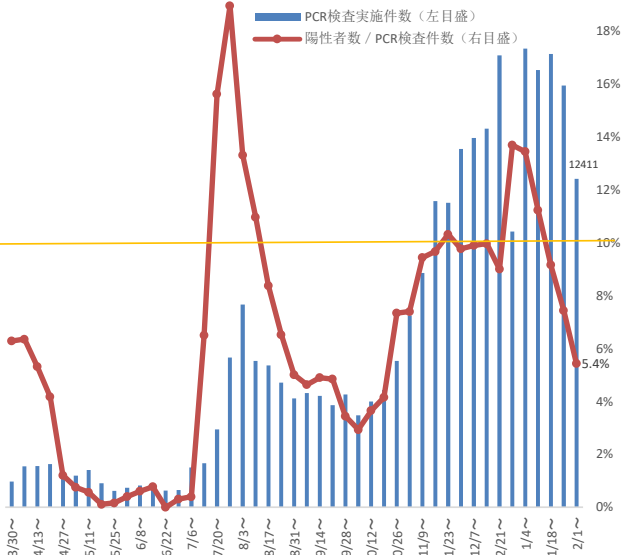
①新規感染者報告数



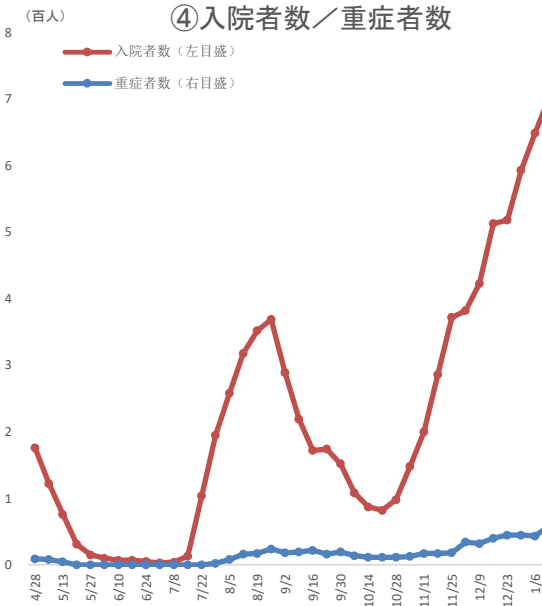
②新規感染者数(人口10万人対)／アンリンク割合



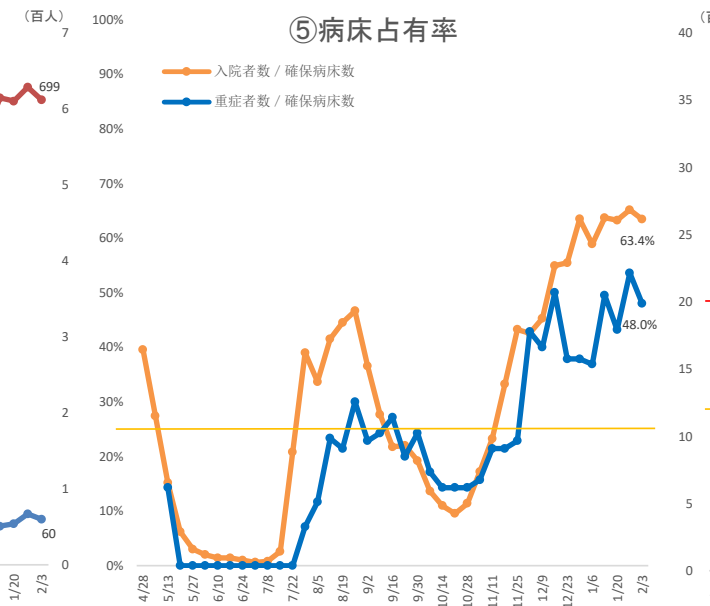
③検査状況



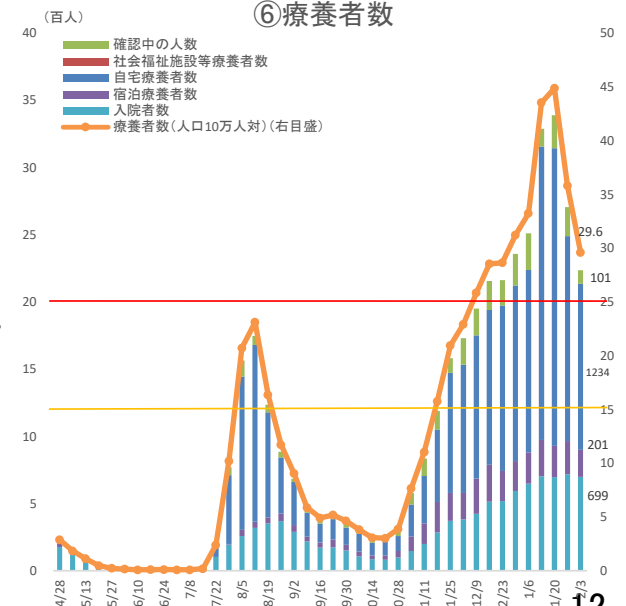
④入院者数／重症者数



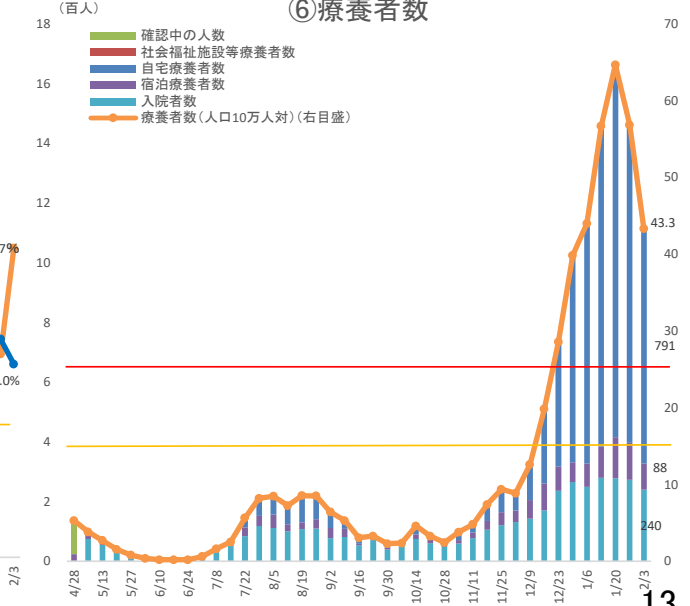
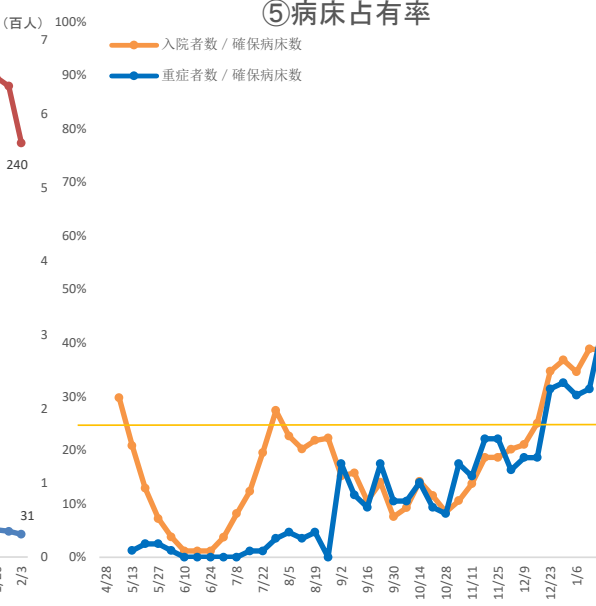
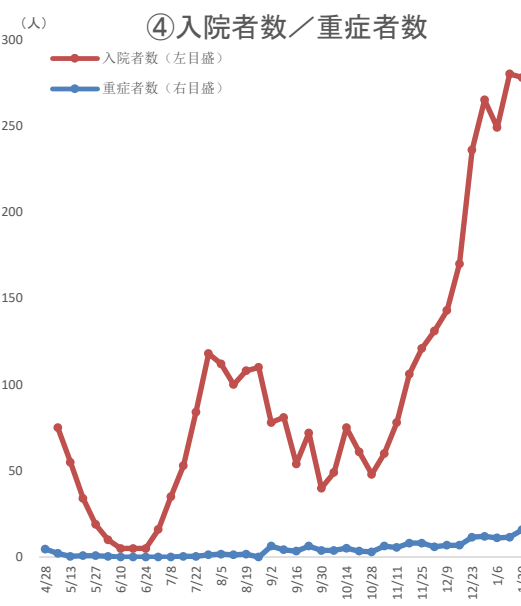
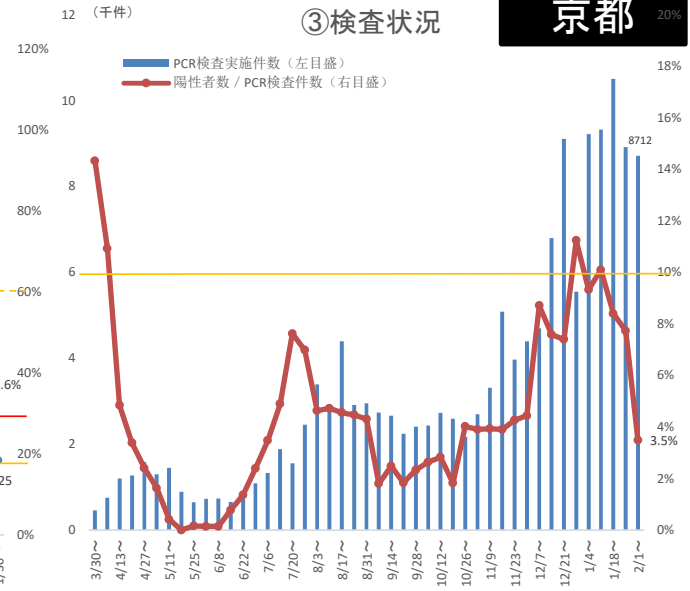
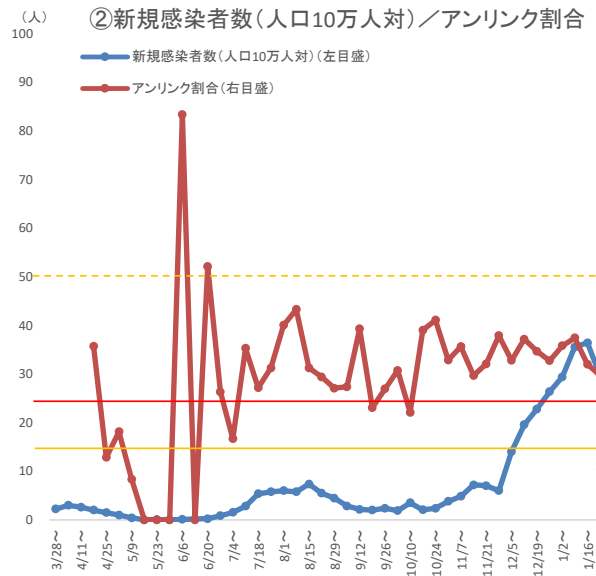
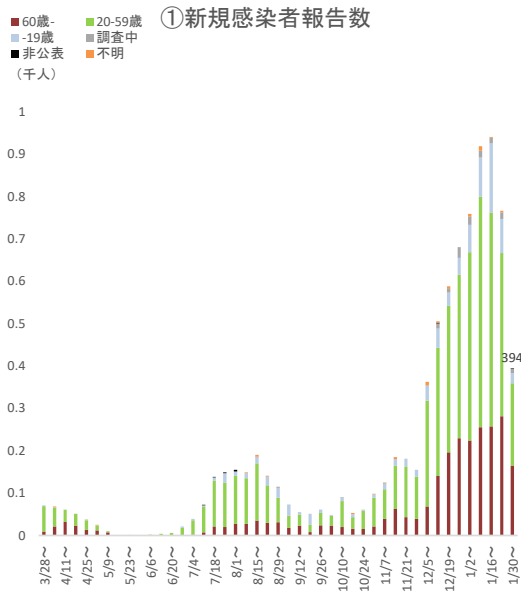
⑤病床占有率



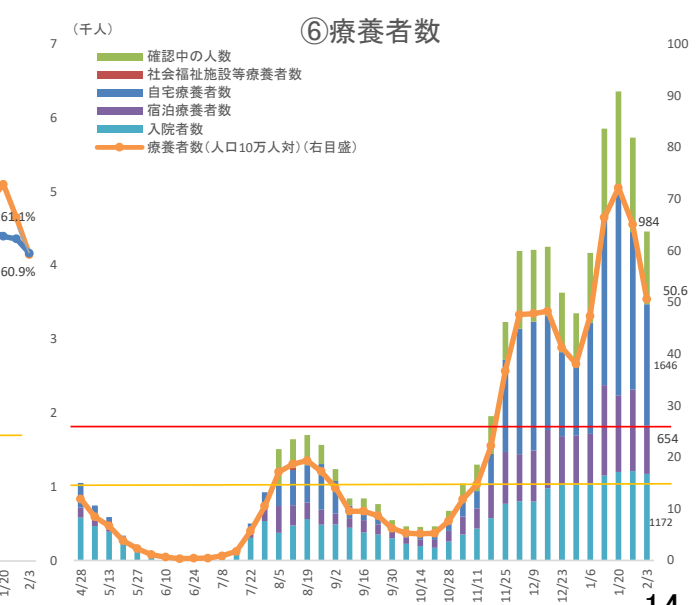
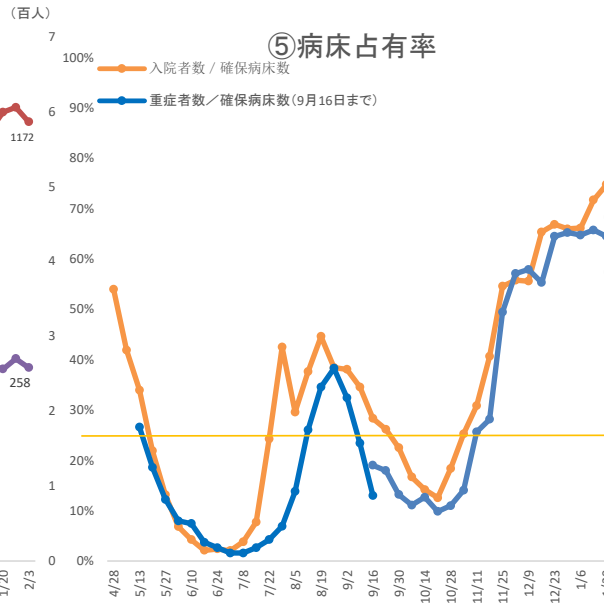
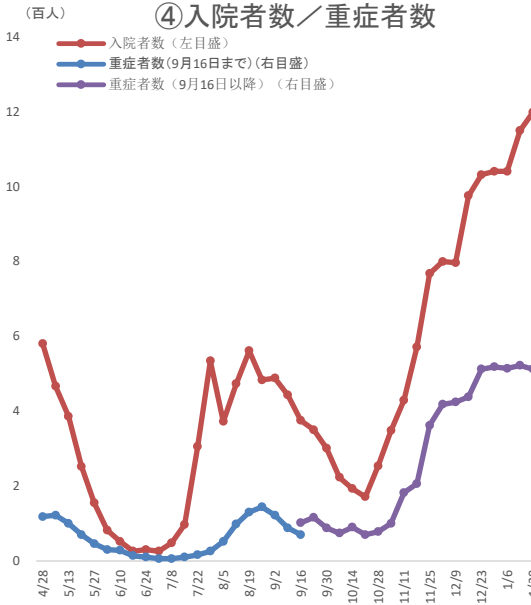
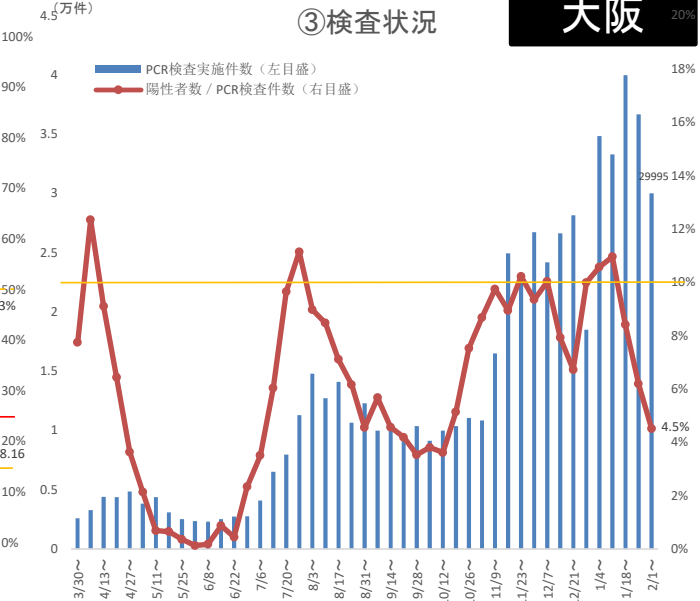
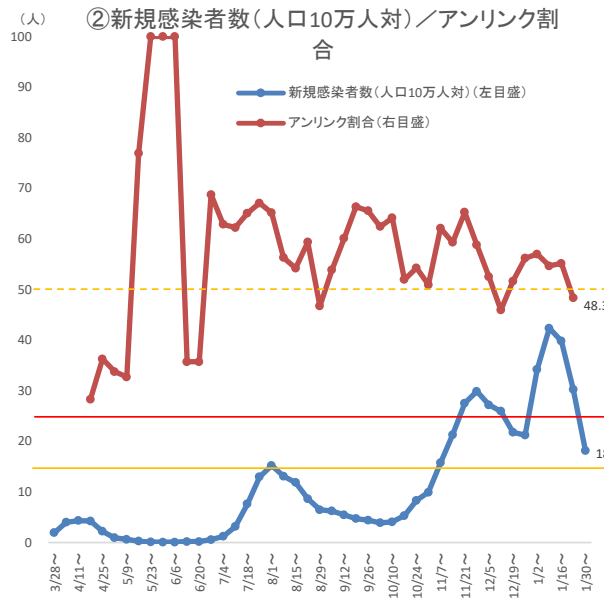
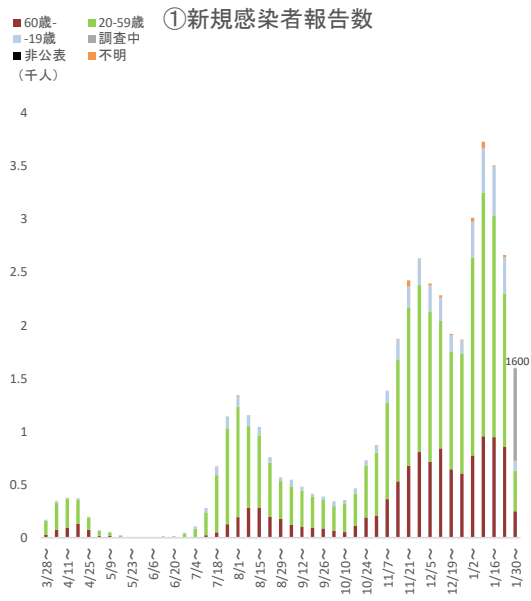
⑥療養者数



(資料出所) 2月11日ADB資料2

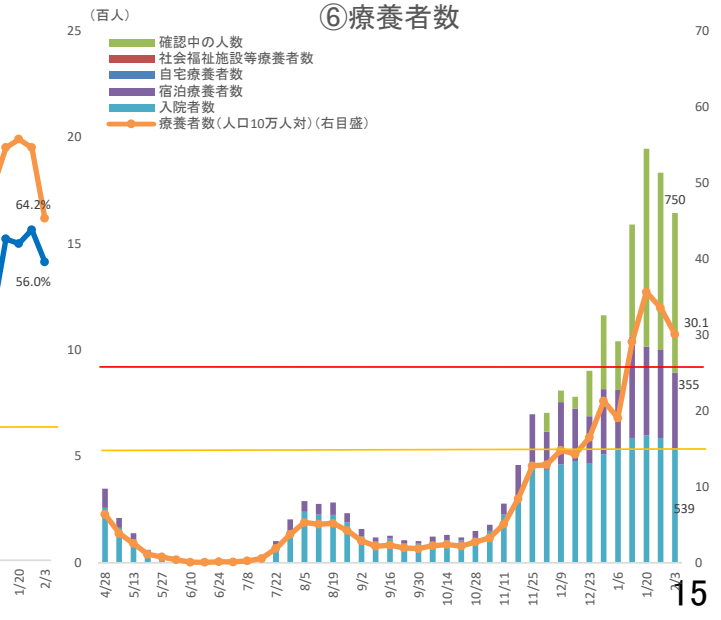
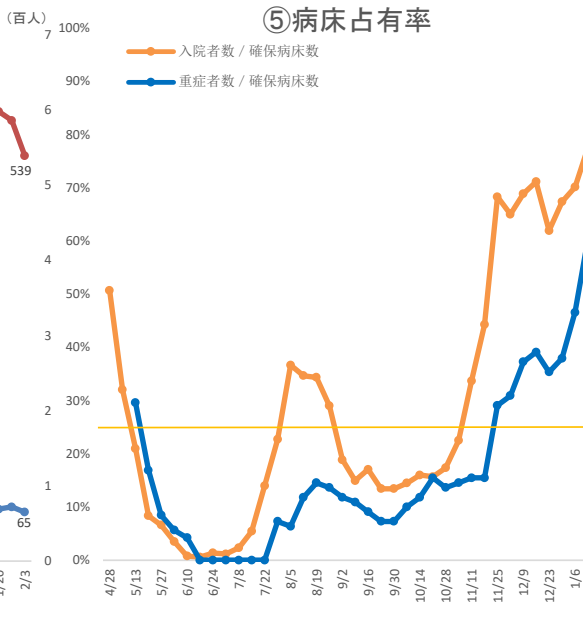
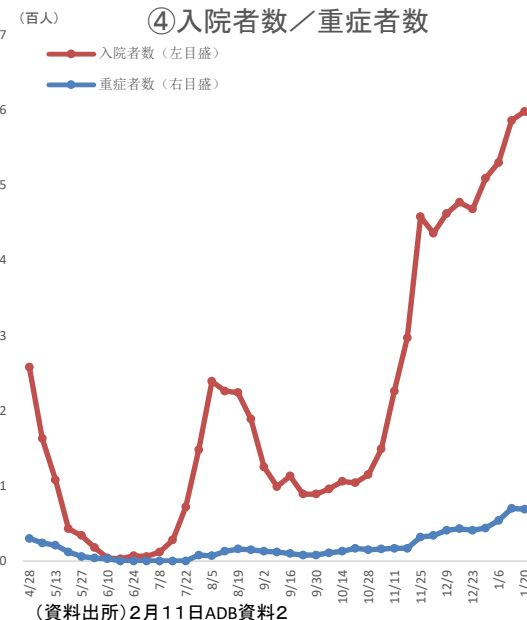
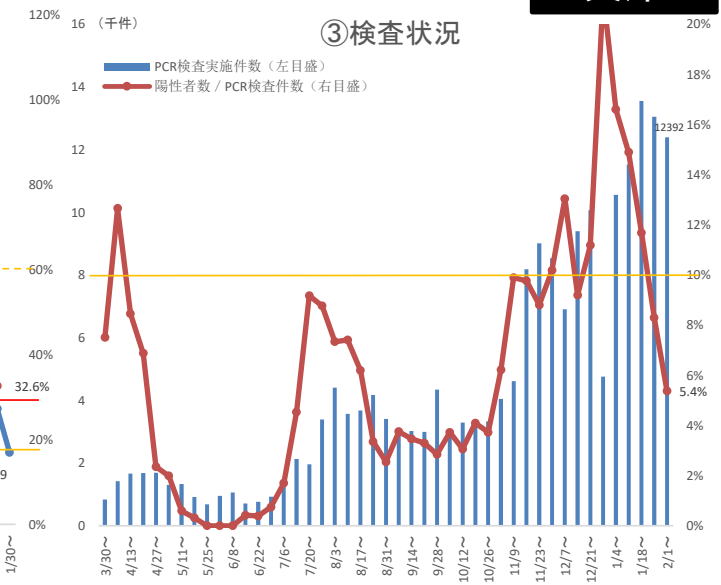
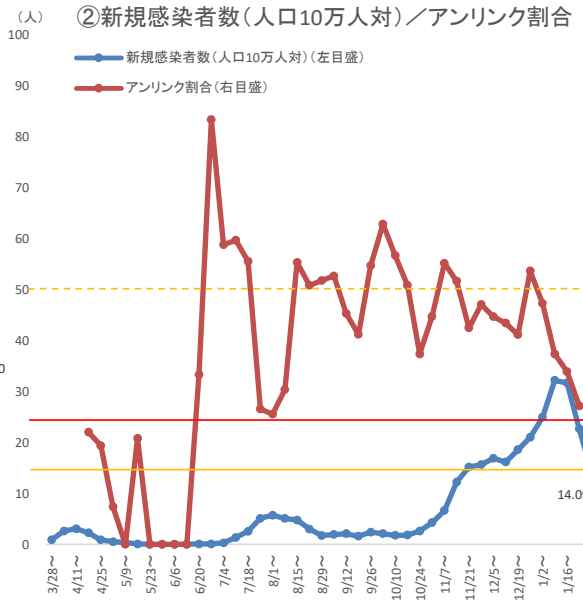
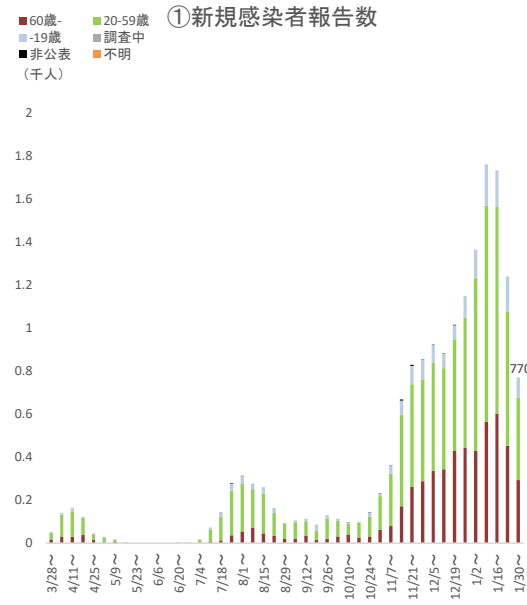


(資料出所) 2月11日ADB資料2



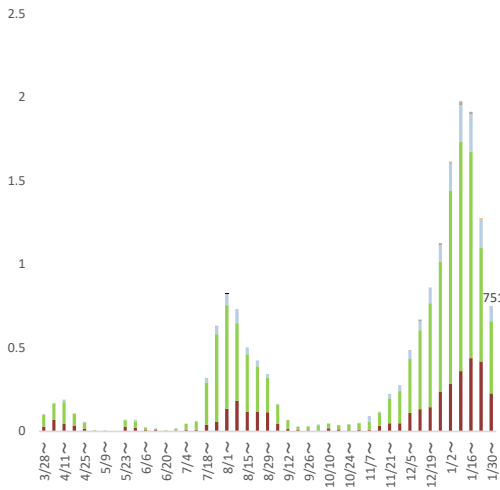
(資料出所) 2月11日ADB資料2

兵庫

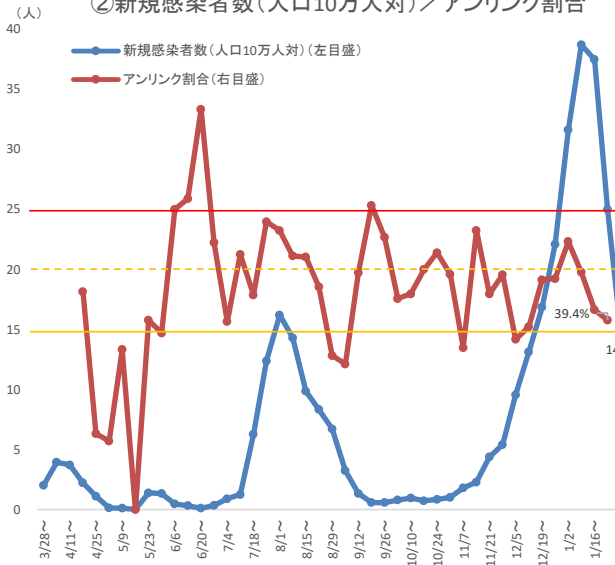


(資料出所) 2月11日ADB資料2

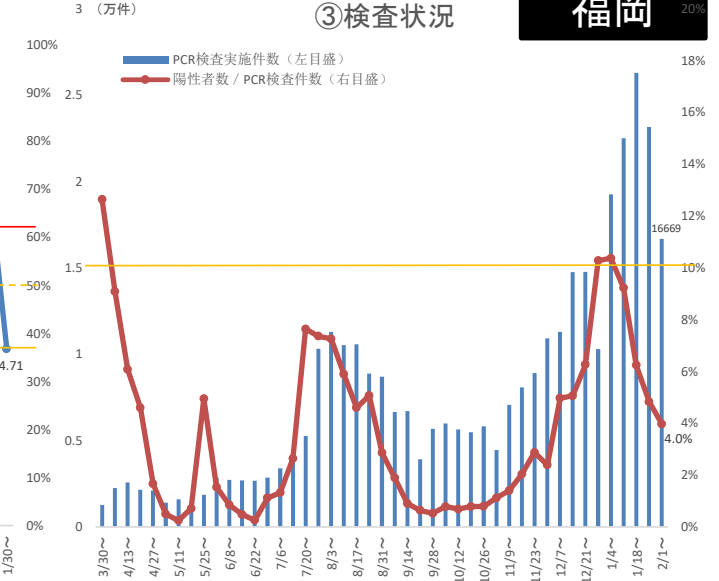
①新規感染者報告数
 ■60歳- ■20-59歳 ■調査中
 ■-19歳 ■非公表 ■不明
 (千人)



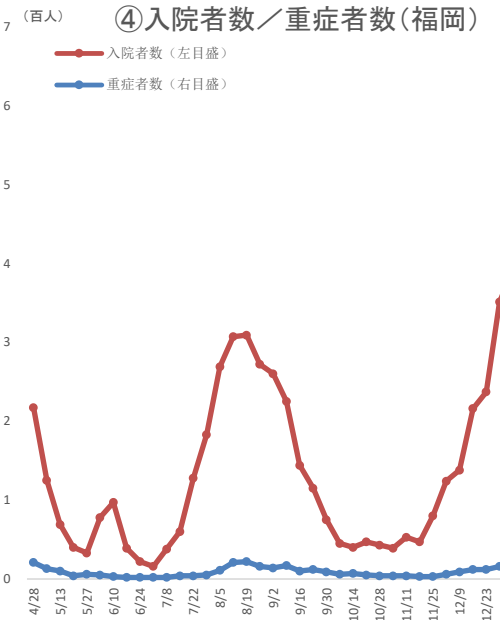
②新規感染者数(人口10万人対)／アリンク割合



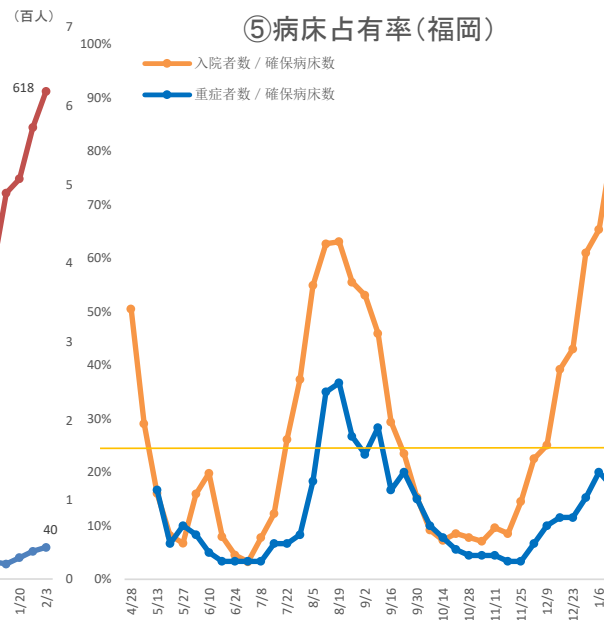
③検査状況



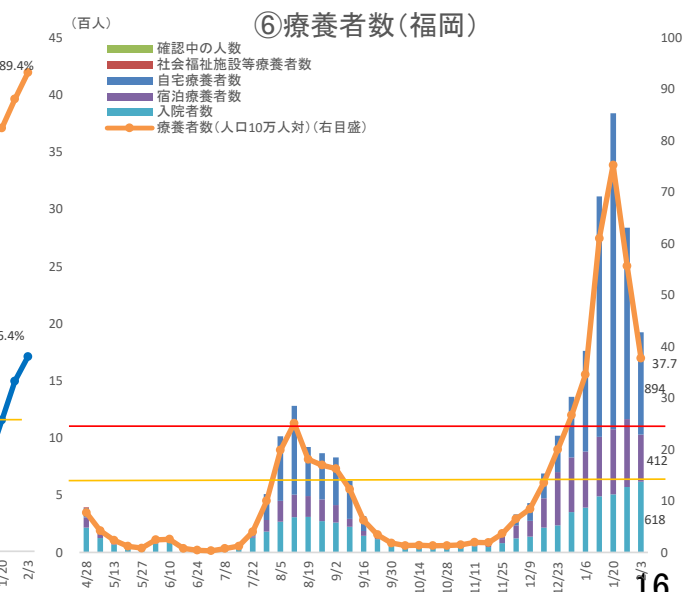
④入院者数／重症者数(福岡)



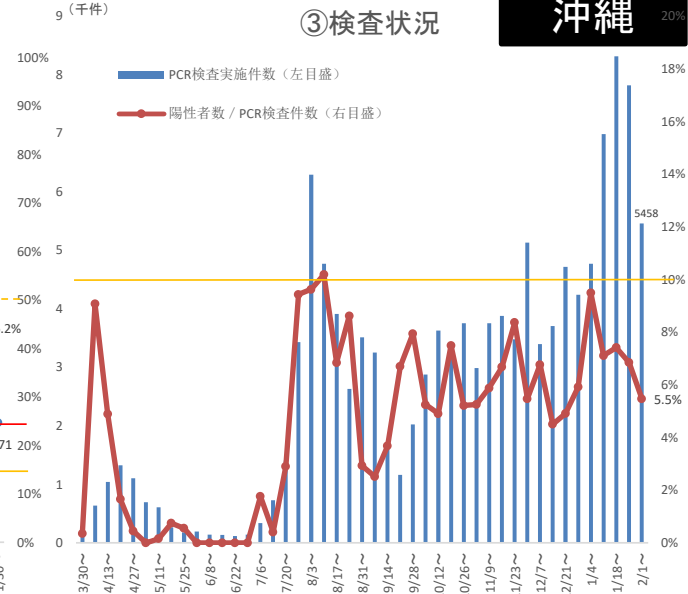
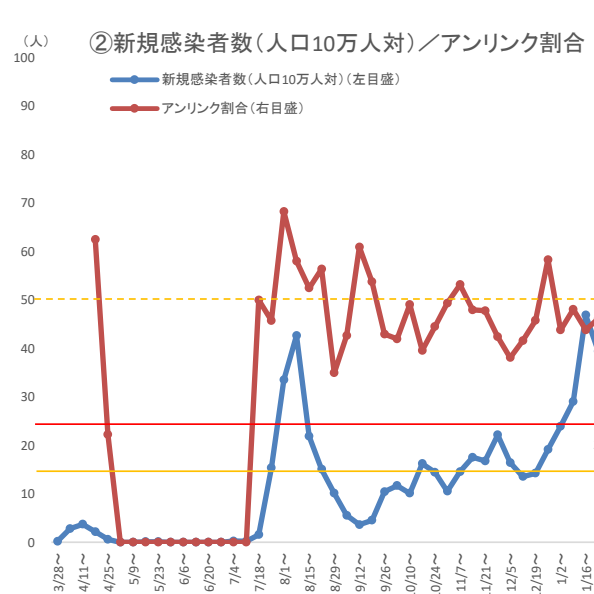
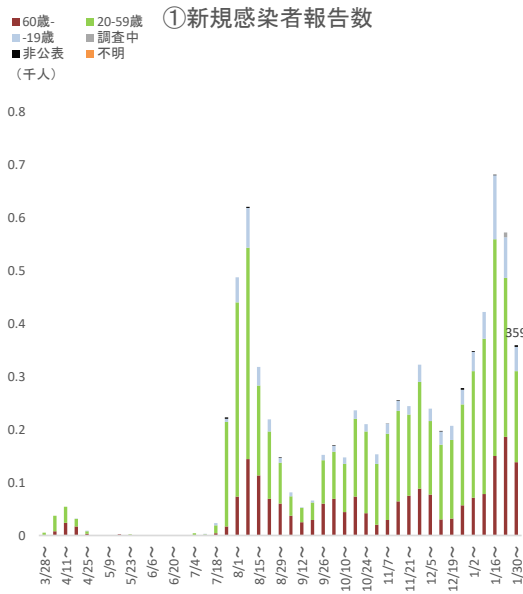
⑤病床占有率(福岡)



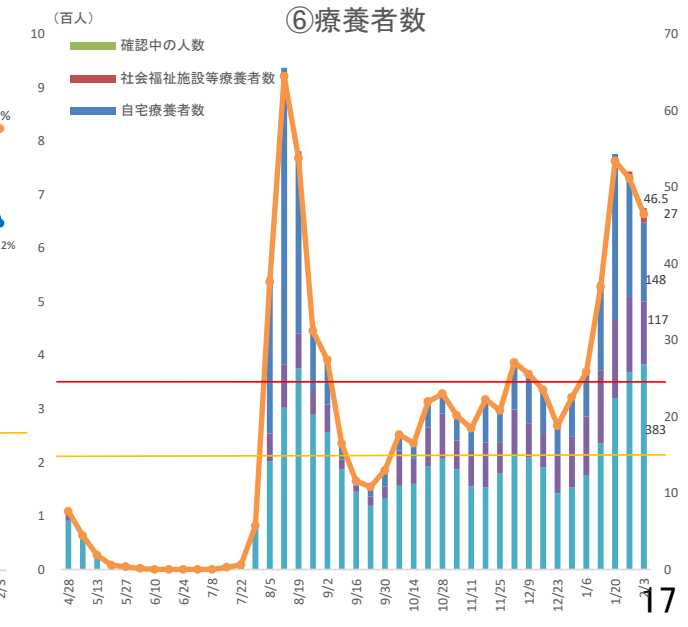
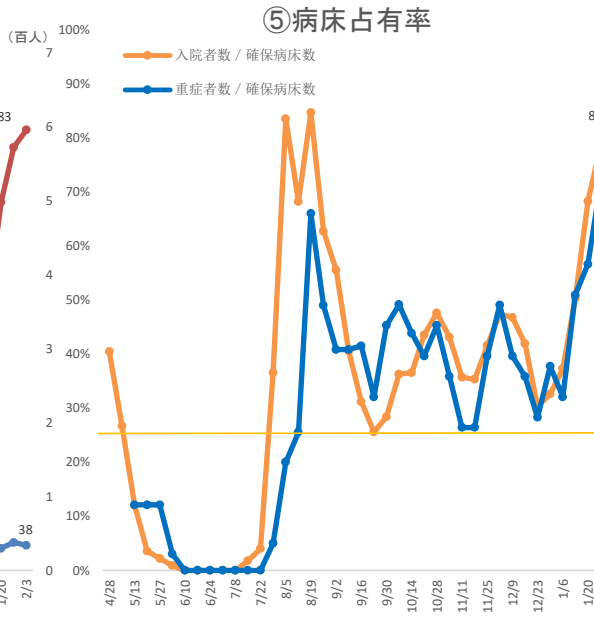
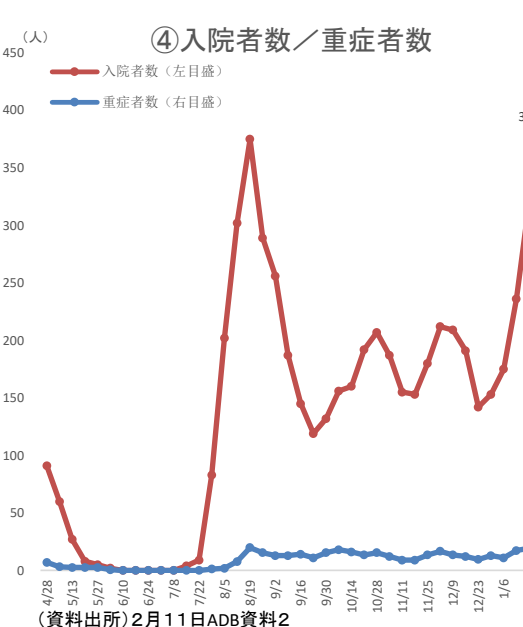
⑥療養者数(福岡)



(資料出所) 2月11日ADB資料2



沖縄 20%



(資料出所) 2月11日ADB資料2

(参考) 11都府県の医療提供体制等の状況(医療提供体制・監視体制・感染の状況) ※2/9時点版

参考資料2

	【 医療提供体制 】					【 監視体制 】	【 感染の状況 】			
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
	人口	①病床のひっ迫具合		②療養者数		③陽性者数/ PCR検査件数 (最近1週間)	④直近1週間の陽性者 数	⑤直近1週間 とその前1週間の比	⑥感染経路 不明な者の 割合	
時点	2019.10	全入院者		重症患者		対人口10万人 (前週差)	対人口10万人 (前週差)	(前週差)	対人口10万人 (前週差)	
単位	千人	確保病床使用率	確保想定 病床使用率	確保病床 使用率 【重症患者】	確保想定 病床使用率 【重症患者】	% (前週差)	% (前週差)	% (前週差)	% (前週差)	
ステージⅢの指標		25%	20%	25%	20%	15	10%	15	1	50%
ステージⅣの指標			50%		50%	25	10%	25	1	50%
埼玉県	7,350	68.8% (▲4.6)	64.9% (▲4.4)	36.9% (▲13.5)	26.0% (▲9.5)	53.0 (▲9.8)	4.1% (▲1.4)	19.21 (▲4.6)	0.81 (+0.05)	41.3% (+2.2)
千葉県	6,259	74.6% (+8.0)	67.9% (+7.3)	50.0% (▲2.3)	24.4% (▲1.1)	87.4 (▲13.3)	7.3% (▲2.0)	20.34 (▲9.3)	0.69 (▲0.02)	65.6% (▲5.3)
東京都	13,921	53.2% (▲6.5)	53.2% (▲6.5)	103.2% 注1 (▲4.2)	103.2% 注1 (▲4.2)	70.8 (▲45.0)	5.5% (▲1.6)	26.89 (▲10.9)	0.71 (+0.02)	51.9% (▲5.9)
神奈川県	9,198	44.2% (▲12.3)	44.2% (▲12.3)	30.0% (▲24.7)	30.0% (▲24.7)	28.7 (▲12.5)	6.1% (▲3.3)	14.94 (▲11.1)	0.57 (▲0.04)	47.7% (▲5.3)
岐阜県	1,987	35.7% (▲7.6)	35.7% (▲7.6)	20.3% (+1.7)	20.3% (+1.7)	21.2 (▲4.8)	4.8% (▲0.5)	10.42 (▲1.1)	0.90 (+0.20)	21.5% (+0.4)
愛知県	7,552	48.7% (▲14.7)	48.7% (▲14.7)	36.0% (▲12.0)	36.0% (▲12.0)	29.6 (▲6.2)	5.4% (▲2.0)	8.21 (▲5.9)	0.58 (▲0.14)	36.7% (▲2.7)
京都府	2,583	41.3% (▲16.3)	41.3% (▲16.3)	22.1% (▲14.0)	22.1% (▲14.0)	43.3 (▲13.5)	3.5% (▲4.2)	8.98 (▲14.4)	0.38 (▲0.34)	35.6% (▲2.8)
大阪府	8,809	51.8% (▲9.1)	51.8% (▲9.1)	61.9% 注2 (▲8.5)	61.9% 注2 (▲8.5)	50.6 (▲14.5)	4.5% (▲1.7)	14.07 (▲9.1)	0.61 (▲0.07)	48.3% (▲6.8)
兵庫県	5,466	55.4% (▲8.8)	55.4% (▲8.8)	58.6% (+2.6)	56.7% (+2.5)	30.1 (▲3.5)	5.4% (▲2.9)	10.48 (▲8.7)	0.55 (▲0.17)	32.6% (▲8.1)
福岡県	5,104	66.6% (▲22.9)	60.5% (▲20.8)	34.5% (▲1.8)	34.5% (▲1.8)	37.7 (▲17.9)	4.0% (▲0.9)	12.74 (▲5.9)	0.68 (+0.07)	39.4% (▲2.2)

※：人口推計 第4表 都道府県、男女別人口及び人口性比－総人口，日本人人口（2019年10月1日現在）
 ※：療養者数は、厚生労働省「新型コロナウイルス感染症患者の療養状況等及び入院患者受入病床数等に関する調査」による。
 確保想定病床使用率は、同調査における「最終フェーズにおける即応病床（計画）数」を用いて計算し、
 確保病床数が確保想定病床数を超える場合には、確保想定病床数は確保病床数と同数として計算している。
 ※：重症者数は、集中治療室（ICU）等での管理、人工呼吸器管理又は体外式心肺補助（ECMO）による管理が必要な患者数。
 ※：確保病床使用率及び確保想定病床使用率は、厚生労働省「新型コロナウイルス感染症患者の療養状況等及び入院患者受入病床数等に関する調査」及び
 厚生労働省で把握した2021年2月9日時点の数値を用いている。
 また、確保病床使用率及び確保想定病床使用率の前週差は、同調査（令和3年2月5日公表）との差である。
 注1：「新型コロナウイルス感染症患者の療養状況等及び入院患者受入病床数等に関する調査」（令和3年2月5日公表）では、東京都の使用率について、
 「重症者数537は本調査のために国基準で集計されたものであり、確保病床数500と単純に比較できない。」とされている。
 注2：大阪府の基準に基づき計算した数値である。

※：陽性者数は、感染症法に基づく陽性者数の累積（各都道府県の発表日ベース）を記載。自治体に確認を得てない暫定値であることに留意。
 ※：PCR検査件数は、厚生労働省において把握した、地方衛生研究所・保健所、民間検査会社、大学等及び医療機関における検査件数の合計値。
 ※：各数値は、資料掲載時点において把握している最新の値としている。掲載時以降に数値が更新されることにより、前週差が前週公表の値との差と一致しない場合がある。
 ※：⑤と⑥について、分母が0の場合は、「-」と記載している。
 ※：2020年12月18日以降に新たに厚生労働省が公表している岡山県のアンリンク割合については、
 木曜日から水曜日までの新規感染者について翌週に報告されたものであり、他の都道府県と対象の期間が異なる点に留意。

(1) 感染の状況 (疫学的状況)

(2) ①医療提供体制 (療養状況)

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
	人口	直近1週間 累積陽性者数	対人口10万人 B/(A/100)	その前1週間 累積陽性者数	直近1週間と その前1週間の比 (B/D)	感染経路不明 な者の割合 (アリンク割合)	入院患者・ 入院確定数	うち 重症者数	入院患者・ 入院確定数	うち 重症者数	宿泊療養者数	
時点	2019.10	~2/9(1W)	~2/9(1W)	~2/2(1W)		~1/29(1W)	2/2	2/2	1/26	1/26	2/2	1/26
単位	千人	人		人		人	人	人	人	人	人	人
北海道	5,250	545	10.38	764	0.71	25%	641	12	704	18	360	307
青森県	1,246	26	2.09	33	0.79	24%	38	1	33	2	14	4
岩手県	1,227	17	1.39	10	1.70	30%	21	2	28	1	1	5
宮城県	2,306	57	2.47	123	0.46	30%	74	8	134	8	100	200
秋田県	966	7	0.72	11	0.64	11%	41	0	42	1	4	16
山形県	1,078	17	1.58	47	0.36	21%	55	2	38	2	2	0
福島県	1,846	51	2.76	84	0.61	19%	186	11	213	11	12	23
茨城県	2,860	338	11.82	419	0.81	31%	260	15	261	17	101	113
栃木県	1,934	107	5.53	176	0.61	40%	150	13	186	21	62	79
群馬県	1,942	219	11.28	281	0.78	30%	197	13	181	11	118	146
埼玉県	7,350	1,412	19.21	1750	0.81	41%	970	71	867	92	298	302
千葉県	6,259	1,273	20.34	1855	0.69	66%	728	46	713	54	290	271
東京都	13,921	3,743	26.89	5256	0.71	52%	2,924	537	2,933	567	607	737
神奈川県	9,198	1,374	14.94	2399	0.57	48%	879	104	928	105	237	250
新潟県	2,223	44	1.98	66	0.67	23%	83	2	96	1	19	23
富山県	1,044	7	0.67	27	0.26	37%	36	2	52	4	1	3
石川県	1,138	107	9.40	36	2.97	54%	67	3	95	3	11	34
福井県	768	11	1.43	21	0.52	0%	64	4	77	4	1	0
山梨県	811	16	1.97	4	4.00	30%	21	3	58	4	4	6
長野県	2,049	42	2.05	82	0.51	14%	99	1	146	2	21	30
岐阜県	1,987	207	10.42	229	0.90	21%	301	11	364	14	68	70
静岡県	3,644	146	4.01	291	0.50	29%	149	3	171	9	45	81
愛知県	7,552	620	8.21	1063	0.58	37%	699	60	718	67	201	247
三重県	1,781	111	6.23	175	0.63	19%	220	10	250	6	25	21
滋賀県	1,414	103	7.28	132	0.78	28%	145	11	179	14	65	106
京都府	2,583	232	8.98	603	0.38	36%	240	31	273	35	88	124
大阪府	8,809	1,239	14.07	2040	0.61	48%	1,172	258	1,211	270	654	1,104
兵庫県	5,466	573	10.48	1046	0.55	33%	539	65	586	72	355	414
奈良県	1,330	127	9.55	174	0.73	38%	174	5	209	7	71	102
和歌山県	925	42	4.54	60	0.70	22%	100	2	136	1	0	0
鳥取県	556	4	0.72	5	0.80	11%	21	0	36	0	2	4
島根県	674	7	1.04	26	0.27	17%	24	0	14	0	0	0
岡山県	1,890	61	3.23	87	0.70	32%	77	5	119	10	29	39
広島県	2,804	68	2.43	177	0.38	29%	164	11	167	12	108	115
山口県	1,358	73	5.38	99	0.74	2%	154	0	223	2	123	161
徳島県	728	8	1.10	18	0.44	16%	37	3	60	1	6	41
香川県	956	41	4.29	66	0.62	39%	61	1	54	1	33	30
愛媛県	1,339	27	2.02	43	0.63	13%	43	3	69	4	9	27
高知県	698	13	1.86	23	0.57	38%	20	4	21	6	12	29
福岡県	5,104	650	12.74	950	0.68	39%	618	40	572	35	412	593
佐賀県	815	30	3.68	33	0.91	20%	52	2	105	2	20	62
長崎県	1,327	32	2.41	102	0.31	19%	126	3	155	1	33	40
熊本県	1,748	35	2.00	91	0.38	29%	175	18	253	20	21	64
大分県	1,135	60	5.29	98	0.61	26%	92	2	99	4	40	43
宮崎県	1,073	38	3.54	93	0.41	19%	70	5	96	8	61	77
鹿児島県	1,602	38	2.37	81	0.47	29%	99	2	124	2	50	67
沖縄県	1,453	277	19.06	492	0.56	46%	383	34	368	38	117	141
全国	126,167	14,275	11.31	21741	0.66	43%	13,489	1,439	14,417	1,569	4,911	6,351

※：人口推計 第4表 都道府県，男女別人口及び人口性比－総人口，日本人人口（2019年10月1日現在）
 ※：累積陽性者数は、感染症法に基づく陽性者数の累積（各都道府県の発表日ベース）を記載。自治体に確認を得てない暫定値であることに留意。
 ※：入院患者・入院確定数、重症者数及び宿泊患者数（G列～L列）は、厚生労働省「新型コロナウイルス感染症患者の療養状況等及び入院患者受入病床数等に関する調査」による。同調査では、記載日の翌日 00:00時点としてとりまとめている。
 ※：入院確定数は、一両日中に入院すること及び入院先が確定している者の数。
 ※：重症者数は、集中治療室（ICU）等での管理、人工呼吸器管理又は体外式心肺補助（ECMO）による管理が必要な患者数。
 ※：各数値は、資料掲載時点において把握している最新の値としている。掲載時以降に数値が更新されることにより、前週の値が前週公表の値と一致しない場合がある。
 ※：東京都、滋賀県、京都府、福岡県及び沖縄県の重症者数については、これまで都府県独自の基準に則って報告された数値を掲載していたが、8/21公表分からは、国の基準に則って、集中治療室（ICU）等での管理が必要な患者も含めた数値が報告されている。
 ※：2020年12月18日以降に新たに厚生労働省が公表している岡山県のアリンク割合については、木曜日から水曜日までの新規感染者について翌週に報告されたものであり、他の都道府県と対象の期間が異なる点に留意。

(2) ②医療提供体制(病床確保等)

(3) 検査体制の構築

	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W
	新型コロナ対策協議会の設置状況	患者受入れ調整本部の設置状況	周産期医療の協議会開催状況	受入確保病床数	受入確保想定病床数	宿泊施設確保数	最近1週間のPCR検査件数	2週間前のPCR検査件数	変化率(S/T)	(参考)それぞれの週の陽性者数	
時点	5/1	5/1	5/19	2/2	2/2	2/2	~2/7(1W)	~1/31(1W)		~2/7(1W)	~1/31(1W)
単位				床	床	室	件	件		人	人
北海道	済	済	済	1,827	1,827	1,835	16,223	20,791	0.78	635	777
青森県	済	済	済	209	225	190	1,486	1,859	0.80	27	40
岩手県	済	済	済	385	385	381	1,453	1,411	1.03	18	8
宮城県	済	済	済	345	450	500	4,356	5,649	0.77	68	145
秋田県	済	済	済	229	235	58	628	1,002	0.63	8	14
山形県	済	済	予定	216	216	134	2,644	2,043	1.29	23	45
福島県	済	済	済	469	469	220	5,975	7,325	0.82	51	117
茨城県	済	済	済	600	600	324	11,661	16,149	0.72	324	456
栃木県	済	済	済	377	377	284	4,676	4,743	0.99	110	215
群馬県	済	済	済	341	341	1,300	4,838	5,143	0.94	247	263
埼玉県	済	済	済	1,321	1,400	1,347	36,780	33,300	1.10	1,524	1,848
千葉県	済	済	済	1,093	1,200	968	19,552	22,145	0.88	1,434	2,072
東京都	済	済	済	4,900	4,900	3,060	72,706	84,189	0.86	4,004	5,951
神奈川県	済	済	済	1,555	1,555	1,535	25,011	29,078	0.86	1,519	2,736
新潟県	済	済	済	456	456	176	2,847	2,463	1.16	43	66
富山県	済	済	済	500	500	377	1,455	1,603	0.91	9	25
石川県	済	済	済	258	258	340	3,081	2,762	1.12	101	40
福井県	済	済	済	255	255	75	1,414	1,894	0.75	7	34
山梨県	済	済	済	285	285	139	1,024	1,363	0.75	12	17
長野県	済	済	済	434	434	375	3,166	4,767	0.66	47	104
岐阜県	済	済	済	694	694	603	4,383	5,227	0.84	211	276
静岡県	済	済	済	453	453	592	9,310	10,787	0.86	158	328
愛知県	済	済	済	1,102	1,102	1,300	12,411	15,941	0.78	674	1,186
三重県	済	済	済	373	373	100	1,532	1,451	1.06	143	188
滋賀県	済	済	済	349	349	403	2,671	2,906	0.92	115	156
京都府	済	済	済	416	416	826	8,712	8,911	0.98	303	688
大阪府	済	済	済	1,926	1,926	2,416	29,995	36,653	0.82	1,353	2,268
兵庫県	済	済	予定	839	839	988	12,392	13,054	0.95	667	1,084
奈良県	済	済	済	368	500	254	3,356	3,801	0.88	157	166
和歌山県	済	済	済	400	400	137	2,666	2,187	1.22	45	71
鳥取県	済	済	済	313	313	340	1,317	1,804	0.73	8	3
島根県	済	済	済	253	253	98	370	1,202	0.31	8	26
岡山県	済	済	済	401	401	207	4,600	5,967	0.77	68	110
広島県	済	済	済	477	500	1,038	9,297	11,584	0.80	75	193
山口県	済	済	済	475	475	834	1,479	3,245	0.46	67	135
徳島県	済	済	済	200	200	180	675	1,428	0.47	10	22
香川県	済	済	済	199	199	101	3,172	2,484	1.28	54	55
愛媛県	済	済	済	270	270	192	893	939	0.95	20	54
高知県	済	済	済	200	200	203	665	870	0.76	15	24
福岡県	済	済	済	691	760	1,387	16,669	23,145	0.72	662	1,119
佐賀県	済	済	済	328	328	377	1,652	1,990	0.83	28	52
長崎県	済	済	済	421	421	384	5,440	6,122	0.89	37	118
熊本県	済	済	済	440	440	230	3,032	4,169	0.73	43	114
大分県	済	済	済	365	365	700	2,125	2,756	0.77	68	116
宮崎県	済	済	済	246	246	250	3,012	3,555	0.85	59	93
鹿児島県	済	済	済	352	352	577	3,760	3,638	1.03	37	93
沖縄県	済	済	済	469	469	370	5,458	7,820	0.70	299	536
全国	-	-	-	29,075	29,612	28,705	372,020	433,315	0.86	15,595	24,247

※：受入確保病床数、受入確保想定病床数、宿泊施設確保数は、厚生労働省「新型コロナウイルス感染症患者の療養状況等及び入院患者受入病床数等に関する調査」による。
 受入確保想定病床数は、同調査における「最終フェーズにおける即応病床（計画）数」を用いている。同調査では、記載日の翌日 00:00時点としてとりまとめている。
 ※：受入確保病床数は、ピーク時に新型コロナウイルス感染症患者が利用する病床として、各都道府県が医療機関と調整を行い、確保している病床数。実際には受入れ患者の重症度等により、変動する可能性がある。
 ※：受入確保想定病床数は、ピーク時に新型コロナウイルス感染症患者が利用する病床として、各都道府県が見込んで（想定している）病床数であり変動しうる点に特に留意が必要。また、実際には受入れ患者の重症度等により、変動する可能性がある。
 ※：確保病床数が確保想定病床数を超える場合には、確保想定病床数は確保病床数と同数として計算している。
 ※：宿泊施設確保数は、受け入れが確実な宿泊施設の部屋として都道府県が判断し、厚生労働省に報告した室数。都道府県の運用によっては、事務職員の宿泊や物資の保管、医師・看護師の控え室のために使用する居室等として、一部使われる場合がある。（居室数が具体的に確認できた場合、数値を置き換えることにより数値が減る場合がある。）数値を非公表としている県又は調整中の県は「-」で表示。
 ※：PCR検査件数は、①各都道府県から報告があった地方衛生研究所・保健所のPCR検査件数（PCR検査の体制整備にかかる国への報告について（依頼）（令和2年3月5日））、②厚生労働省から依頼した民間検査会社、大学、医療機関のPCR検査件数を計上。一部、未報告の検査機関があったとしても、現時点で得られている検査件数を計上している。
 ※：各数値は、資料掲載時点において把握している最新の値としている。掲載時以降に数値が更新されることにより、前週の値が前週公表の値と一致しない場合がある。

新型インフルエンザ等対策有識者会議
基本的対処方針等諮問委員会（第12回）議事録

1. 日時 令和3年2月12日（金）8：45～9：59

2. 場所 中央合同庁舎8号館 講堂

3. 出席者

《構成員》

会長	尾身 茂	独立行政法人地域医療機能推進機構理事長
会長代理	岡部 信彦	川崎市健康安全研究所所長
	井深 陽子	慶應義塾大学経済学部教授
	大竹 文雄	大阪大学大学院経済学研究科教授
	押谷 仁	東北大学大学院医学系研究科微生物分野教授
	釜范 敏	公益社団法人日本医師会常任理事
	川名 明彦	防衛医科大学校内科学講座（感染症・呼吸器）教授
	小林 慶一郎	公益財団法人東京財団政策研究所研究主幹
	鈴木 基	国立感染症研究所感染症疫学センター長
	竹森 俊平	慶應義塾大学経済学部教授
	田島 優子	さわやか法律事務所弁護士
	舘田 一博	東邦大学微生物・感染症学講座教授
	谷口 清州	独立行政法人国立病院機構三重病院臨床研究部長
	朝野 和典	大阪大学大学院医学系研究科感染制御学教授
	中山 ひとみ	霞ヶ関総合法律事務所弁護士
	長谷川 秀樹	国立感染症研究所インフルエンザウイルス研究センター長
	武藤 香織	東京大学医科学研究所公共政策研究分野教授
	脇田 隆宇	国立感染症研究所所長

《オブザーバー》

飯泉 嘉門	全国知事会会長
井上 隆	日本経済団体連合会常務理事
石田 昭浩	日本労働組合総連合会副事務局長

《事務局》

（内閣官房・内閣府）

西村 康稔 国務大臣

赤澤	亮正	内閣府副大臣
和田	義明	内閣府大臣政務官
吉田	学	新型コロナウイルス感染症対策推進室長
井上	肇	新型コロナウイルス感染症対策推進室次長
池田	達雄	内閣審議官
鳥井	陽一	内閣参事官
村瀬	佳史	大臣官房審議官（経済財政運営担当）

（厚生労働省）

田村	憲久	厚生労働大臣
三原	じゅん子	厚生労働副大臣
こやり	隆史	厚生労働大臣政務官
福島	靖正	医務技監
迫井	正深	医政局長
正林	督章	健康局長
佐々木	健	内閣審議官

○事務局（鳥井） ただいまから、第12回「基本的対処方針等諮問委員会」を開催いたします。開催に当たりまして、政府対策本部副本部長の西村国務大臣から挨拶をさせていただきます。

○西村国務大臣 おはようございます。お忙しいところ、お集まりをいただきまして、ありがとうございます。

まず、緊急事態宣言でありますけれども、1都3県が1月8日から、7府県が1月14日からということになりまして、約1か月が経過したところであります。この間、飲食店の20時までの営業時間の短縮をお願いいたしまして、多くの飲食店で協力をいただいている中、対象区域におきまして、今は10府県でありますけれども、新規陽性者の報告数が減少傾向になってきているところであります。これも事業者の皆様の御協力、また、国民の皆様の不要不急の外出自粛も含めた様々な御協力、改めて感謝申し上げたいと思います。

しかしながら、医療提供体制は引き続きひっ迫している状況でございます。特に高齢者施設での感染、院内感染などが多発する中で、高齢者の感染者の数がなかなか減らない状況にあると分析をされております。

また、飲食関係のクラスターも減少はしておりますけれども、引き続き、昼カラオケであったり、家庭でのいわゆる食事会、パーティーといったものでもクラスターが発生している報告があるわけでありまして。

また、朝の通勤時の駅の人流を見ておりますけれども、昨年春の緊急事態宣言のときと比べますと、前は7割減っていたわけですが、今回は首都圏で約4割、関西圏で約3割の減少にとどまっております。

また、日本生産性本部の調査では、首都圏の1都3県のテレワークの実施率が32.7%ということでありましてけれども、昨年春は41%を超えておりましたので、9ポイント程度低くなっております。こうした状況で、この緊急事態宣言を長引かせないためにも、ぜひ、引き続きの御協力をお願いしたいと思っております。

感染者の減少傾向を確かなものとしていくということ。そして、医療への負荷を軽減させること。特にワクチン接種を行う医療機関への負荷をぜひとも軽減することが必要であります。こうした観点から、引き続き飲食店に対する20時までの時間短縮をお願いしたいと思いますし、また、テレワークの実施による出勤者数の7割削減についても、様々な支援策も用意しております。3次補正で成立した中でも支援策がありますので、中小企業の皆さんにもさらに取組をお願いしたいと思っております。

また、昼間も含めた、それから県をまたぐものも含めた不要不急の外出・移動の自粛、特に昼ならばいいのではないかとということで昼飲み、あるいは飲食店が休みだから家で集まって飲もうという宅飲み、それから、私も少し車で繁華街を視察したりしておりますけれども、いわゆる路上で集まって飲み会のようなことをやっているケースもござい

ます。土日の人出もむしろ増えてきている傾向にありますので、ぜひこういった面も含めて、不要不急の外出自粛を改めてお願いしたいと思います。

イベントの開催制限は、引き続き継続をお願いしております。何としてもこの感染拡大を抑えていくために、事業者の皆さん、国民の皆様にもう一段の御協力をお願いしたいと思います。

そして、本日は2点、1つは新型インフルエンザ等対策特別措置法などの改正がされました。明日13日から施行となりますので、そのことについて。また、2月9日の新型コロナの分科会で御議論をいただきまして、ワクチン接種における実施体制や接種順位などについて取りまとめが行われましたので、これを踏まえた基本的対処方針の変更について諮問させていただければと考えております。

特措法につきましては、「まん延防止等重点措置」というものが導入されました。実施に当たっては、緊急事態宣言にならないようにするためにということではありますが、基本的にステージⅢ相当の対策が必要な地域での対応を想定しておりますけれども、その都道府県の特定の区域において感染が拡大している場合に、それが全県に広がらないように、そこで抑え込んでいこうということでもあります。医療提供体制や公衆衛生体制に支障が生じるおそれがあると認められる場合に、そうした対応を取ることになっております。その場合も、この基本的対処方針等諮問委員会にお諮りをして、御意見をいただいた上で対応することとなっておりますので、よろしくお願いたします。

その上で、重点措置区域の都道府県が定められますと、それぞれの知事が定める区域、期間及び業態において効果的な対策を徹底するということになっておりますので、後ほどまた御説明をさせていただければと思います。

さらに、要請や命令などの罰則が設けられている措置につきましては、人権に十分配慮して、要請に応じただけでない場合には文書で丁寧に説明をする。また、要請や命令を行う場合には、あらかじめそれぞれの都道府県において専門家の意見をお聞きすることとなっております。こうした人権に配慮した運用に努めてまいりたいと考えております。

ワクチンにつきましては、安全性・有効性を確認した上で、2月中旬に接種を開始すべく準備を進めてきているところであります。後ほど田村大臣からもお話があるかと思っております。分科会におきまして、実施体制や接種順位につきましてワクチン接種についての取りまとめが行われましたので、それを踏まえまして、ワクチン接種を円滑かつ効率的に実施する観点に立って取り組んでいくこととしたいと考えております。後ほど説明をさせていただきます。

その上で、緊急事態宣言の対象区域となっております10都道府県につきましては、冒頭にも申し上げましたとおり、新規陽性者の報告数は減少傾向となっておりますけれども、医療提供体制は厳しい状況が継続しておりますので、引き続き緊急事態宣言を実施する必要があると考えておりますので、今日の諮問にはこれは含めておりません。今後とも、

感染状況、病床のひっ迫状況あるいは外出している人流なども、それぞれの都道府県とも状況を共有しながら、日々、分析を重ねていきたいと考えております。また改めて御相談をさせていただければと思います。

緊急事態宣言を早く終わらせるためにも、何としてもまずは今の感染を早期に終息させるべく、感染拡大を抑えることを最優先で取り組んでいきたいと考えております。

先ほど申し上げましたとおり、ワクチン接種を円滑に進めるためにも、医療機関への負荷をしっかりと下げていくことが大事だと考えております。引き続き、国民の皆様、そして事業者の方々、地方自治体としっかりと連携をしながら全力で取り組んでいきますので、どうぞ本日も忌憚のない御意見をよろしくお願い申し上げます。

○事務局（鳥井） 次に、同じく政府対策本部副本部長の田村厚生労働大臣から挨拶をさせていただきます。

○田村厚生労働大臣 おはようございます。早朝から御参加いただきまして、誠にありがとうございます。

全国の新規感染者、昨日は1,691名ということで、1週間移動平均は1,805名、1月中旬以降、減少傾向が続いております。本当に国民の皆様方、また、若い方々にも大変な御協力をいただきまして、何とか感染拡大、減少のほうに向かっております。心から御礼を申し上げる次第であります。

重症者数も701名と減ってきてつつあります。ただ、やはり新規感染者よりも遅れて入院患者、重症者の数は減ってまいりますので、我々はまだ一段の努力をしていかなければならないと思っております。

高齢者施設でのクラスターもまだ完全に収まっておりません。そういう意味で、我々はこの対策も進めていかなければならないと考えておりますが、昨日、祝日にもかかわらず、先生方にはアドバイザリーボードに御参加いただきまして、ありがとうございました。

色々と現在の感染状況、分析評価をいただいたわけでありまして、1都3県、愛知、岐阜、大阪、兵庫、京都では、新規感染者数の減少が継続しているけれども、人流の低下の鈍化も見られ、留意が必要ということ。それから、クラスターは医療機関、福祉施設、家庭内を中心に発生しており、重症者や死亡者の減少が遅れる可能性があり、動向に注意が必要ということ。さらには、新規感染者の減少傾向を確かなものとし、重症者、死亡者、ワクチン接種に向けた医療機関の負荷を減少させ、感染の再拡大を防止するとともに、変異株を的確に探知するためにも、引き続き対策を徹底する必要があるということ。さらには、宣言解除地域でも再拡大につながらないように、感染リスクに応じた積極的検査や積極的疫学調査を再度強化する必要、そして、福祉施設・医療機関における感染拡大を防止する取組が必要、施設等の職員への定期的検査、専門家派遣等の支援が

求められる、との御意見をいただいたわけであります。

今、感染状況は収まりつつあるのですが、ただ、医療提供体制はまだひっ迫している地域もございますので、さらに役割分担をしっかりとお願いさせていただきながら、病床を確保していく。これはこれからも続けてまいりたいと都道府県にお願いする予定であります。

それから、高齢者施設に関してでありますけれども、これは従事者の方々の検査の実施計画を2月中におつくりいただいて、3月にはきちんとやっていただく。実はアドバイザーボードでは、もっと早めてほしいという御意見もございました。再度、そういうお願い、徹底を都道府県にさせていただくと同時に、もし感染者が出た場合には、感染制御の専門チームを都道府県でしっかりと養成、おつくりいただいて、それぞれの施設に派遣していただく。こういうことをお願いしたところであります。

また、変異株でありますけれども、各地域で海外から帰ってきた方と接していない方々の中でクラスター等々が起こってきております。まだ面的な広がりとはまだ行っていないと思っておりますが、しかしながら、そういう孤発例が出てきているということは、国内の中で変異株というものが一定程度発生していることは間違いないわけでありまして、そういう意味での積極的疫学調査、ゲノム解析をしっかりと強化するようにということで、今、体制を整備しております。

ワクチンに関しては、今日の夕刻、薬食審で御議論いただきます。承認して差し支えないというような結論が得られれば、我々は即座に承認をさせていただきまして、その上で2月中旬、すぐに体制を整えた上で、まず医療関係者から接種を始めていくということでございますので、よろしくお願いたしたいと思っております。

本日は、先般成立をいたしまして、いよいよ施行されます特措法の改正法に対する御議論、そして、基本的対処方針の改定について闊達な御議論を賜りますように、よろしくお願いたします。

○事務局（鳥井） ここで報道の皆様には御退出をお願いいたします。

（報道関係者退出）

○事務局（鳥井） 本日は、東京大学医科学研究所の河岡構成員が御欠席です。また、御意見をいただくために、全国知事会から飯泉会長、日本経済団体連合会から井上理事、日本労働組合総連合会から石田副事務局長にリモートで御出席いただいております。

また、その他のリモート参加の構成員の皆様は、お手元の座席図のウェブ参加者の欄に記載のとおりでございます。

なお、本委員会については非公開でございますが、議事の内容を記録し、公表することとさせていただきます。

それでは、ここからは尾身会長に議事進行をお願いいたします。

○尾身会長 おはようございます。今日は予算委員会がありまして、なるべく予定どおりに終えたいと思いますので、よろしく御協力をお願いします。

それでは、まず最初に、昨日行われたアドバイザリーボードの状況分析について、脇田構成員からお願いします。

○脇田構成員 <参考資料1を説明>

○尾身会長 ありがとうございます。それでは、質疑応答は後でしたいと思いますので、次に、基本的対処方針の改定案について、内閣官房からお願いいたします。

○事務局（池田） <資料1、資料2、参考資料2、参考資料3を説明>

○尾身会長 どうもありがとうございました。それでは、アドバイザリーボードの評価と今の基本的対処方針の改定案について、コメント、質問等々がありましたら挙手をお願いします。竹森構成員。

○竹森構成員 まず、特措法の改正については、去年の5月頃と比べて、全体のアクティビティを抑えるのではなくて、ピンポイントで問題点に対応していくための準備を目指したということで、大変プラスだと考えています。特に飲食店というのが一つのキートンとされており、そこでの感染を抑える措置を強化したことは非常に良かったと思います。

もう一つ、感染の数字についても大分改善が見られます。今日頂いた資料を見て随分よくなっているなど思ったのですが、ただ前回の会議で、感染源を押さえないと、一度緊急事態を解除したらまたすぐに数字が飛び上がってしまうから、同じことの繰り返しになるという発言がありまして、あれは非常に印象に残ったのです。発言をされた委員の方は、世界的には国民を対象とした疫学調査みたいなものを進めているから、それをしたらどうかというご意見なのですが、今まで日本でやってきたのは、まず保健所を中心として感染経路を特定化する方法をやっていて、それプラス、5月ぐらいからCOCOAというアプリを使った経路の特定化をやったわけです。私はその発言は非常に印象に残っているのですが、これをしないと、解除すればまた数字が飛び上がる危険があると思うのです。

保健所については、入院調整のために人手が割かれているため、感染経路に人手が十分割けないという問題が色々なところから指摘されていて、私もテレビ局からそういうことを聞かれました。これについて、入院調整のほうは別の役職がやるという提案があったので、それがどれぐらい進んでいるかということは今分かる範囲で教えていただけ

ればありがたい。

もう一つ、COCOAの件です。Androidの対応が去年の9月からできなかったという報道あって、新聞で紹介されたコメントの中に、普通こういうアプリというのは、1回出したら一発で完全に使えることは珍しいので、使い勝手をだんだん改良していく必要があるが、それを恐らくやっていたいなかっただけでしょうというコメントがあって、それが非常に印象に残ったのです。

私が出ているこの諮問委員会では、COCOAをやってから、どこかのクラスターがCOCOAで特定化できたという話を聞いたことはないし、一体どういう成果が上がっているか、どういうデータが出ているのかというのがあまり伝えられなかった。伝えられなかったというのは、要するにあまり効果がなかったのではないか。はっきり言って、あってもなくても同じだったのではないかという気がしているのです。使いながらだんだんよくしていく。私も携帯とかは使いながらよくしていくので、COCOAから何が分かった、ということが分かった、感染経路特定化にどれだけ役に立ったかということを経々データとして出していただければと思うわけです。

ただ、今、感染が収まっているとそれはなかなかしにくいわけですが、しかし、感染源がある限りはまた出る可能性もあるので、それをやっていただきたいと思うわけです。

病床の件について1点だけ申し上げますと、未調整という部分、要するにまだどこに当てはめるか分からないというのが年初は1万件ぐらいあって、前回の会議のときに出された数字で9,000件ぐらいだったのが、今日見たら、2月3日の数字ですけれども全国で5,600に下がっていて、これは随分よくなったなと思っています。直近だとさらに減っているということですので、どういうところで成功したのかを教えてくださいたい。それと今度の改正の中で、臨時医療機関を設けるということが書かれていて、これは恐らく必要ないということになるのかもしれませんが、今まで何で臨時病床を設けなかったのか。それとこれはスペースの問題なのか、人員の問題なのか。スペースの問題だと、臨時医療機関を設ける必要があるのでしょうかけれども、人員の問題は臨床医療機関では解決しないだろうということなのです。

もう1点だけ。前回、東京都の重症者の病床占有率が100%を超えていておかしいという点が議論になり、とても分かりやすい説明をいただきました。要するに定義が違うのだという話です。でも、よく考えてみると、我々がステージを決めるときに病床占有率というのはそのための指標に入っていて、その指標が信頼できない、そもそもその数字自体が何だか分からないというのはやはり問題です。しかも東京都は都道府県の一つではなくて、今、御説明にあったように、感染の4分の1は東京から出ているということ踏まえたら、東京都にきちんと全国標準と合わせた数字を調整して出してもらうようにしていかないと。感染の4分の1の問題は東京に集中しているのですから、早急に東京都のほうで努力していただきたいと思います。

○尾身会長 ありがとうございます。それでは、釜菴構成員。

○釜菴構成員 まず一点確認を申し上げたいのですが、今回の改正に伴って、緊急事態措置、まん延防止等重点措置の発出あるいは解除に関して、総理がなさる政府対策本部長の権限というか、その判断がさらに重視されるようになったと考えておりますが、それではよろしいのかどうかということが一点御質問というか確認です。

もう一点は、この基本的対処方針は、今日の資料1も四十数ページという大部であります。たしか特措法の18条でしたか。発生の状況に関する事実、対処に関する全般的な方針、対処の実施に関する重要事項を書くということが決められているので、それは書かなければならないのは承知しているのですが、過去の経緯や、新型コロナウイルス感染症に関する知見について、割合重複して出てきたりするところもあって、その部分をもう少し整理して、参照できるように後段のほうに持っていきのはいかがでしょうか。先ほど今回変わったことを新旧対照表でお示しいただきまして、こうなると分かりやすいのですけれども、基本的対処方針を全部一生懸命読もうとすると、なかなか容易ではないということがあるので、改定あるいは変更の時期ごとに、どこがどのようになったかというのが分かりやすいような記載をお願いできると、さらに情報が伝わりやすいのではないかと感じましたので、意見を申し述べました。

○尾身会長 ありがとうございます。それでは、小林構成員。

○小林構成員 質問を1つ、コメントを1つしたいと思います。

基本的対処方針を読んでいて、私も釜菴構成員と同じで少し混乱したのですが、最初のほうで「緊急事態措置地域」という概念が新しく出てくるのですけれども、これは緊急事態宣言をする都道府県という意味だと思っておりますが、それと同じ概念で、前から基本的対処方針の中に「特定都道府県」という概念が入っていたと思っております。この違いがよく分からないので、御説明をいただきたいというのが1点目の質問です。

2つ目はコメントです。予防接種のことがこの基本的対処方針に書いてあるので、そこに関連して御質問したいと思います。最近、ジョンソン・エンド・ジョンソンのワクチンがアメリカで承認申請されて、今月末ぐらいには使用できるようになると。ジョンソン・エンド・ジョンソンのワクチンは、接種が1回で済むということと、通常の冷蔵庫で数か月間保存ができると報道されていますので、ロジスティクスが物すごく楽になる、やりやすくなるのだらうと思われるわけです。ジョンソン・エンド・ジョンソンのワクチンに対して、日本政府として何かアプローチをするということを考えるべきなのではないかと思ったのですけれども、そういうアプローチか何か検討はされているのでしょうか。あるいは、どういう状況であるのかということ。そして、もしされていないのであれば、ぜひジョンソン・エンド・ジョンソンのワクチンの使用についても検討さ

れるということはやるべきではないかと思えます。

○尾身会長 ありがとうございます。それでは、岡部構成員。

○岡部構成員 アドバイザリーボードなどでも議論していたので、基本的には今回の対処方針は了解しますけれども、コメントなのですが、資料2の対比表の20ページの④、法律の改正に関する事で、差別の次にあるのですけれども、私はこれは非常に大切だと思っているのです。④のところは、アンダーラインもあるように、罰則が設けられている措置については患者や関係者の人権に十分配慮し、まずは当該措置の趣旨や必要性を患者等に丁寧に説明して、理解・協力を得られるようにすることを基本とするとあります。法律のことに關しては、この委員会で云々ということではありませんけれども、しかし、その運用に關しては十分重要視してほしい。

ここだけではなくて、ほかのところにも罰則規定に關する慎重な取扱いというのが何か所かに書いてあったので、それについては本当に強調しておくべきことではないかと思えます。

○尾身会長 ありがとうございます。それでは、谷口構成員。

○谷口構成員 3点、簡単に申し上げます。

1点目は、本コロナウイルス感染症の概念ですが、もう既に軽症例でもCTを撮ると60%にground glass appearanceがあるという報告はコンセンサスになりつつあります。また、いわゆるLong COVID、日本では後遺症と言われますが、そういったこともほぼコンセンサスだと思います。この対処方針案にそういったことを記載するのであれば、これは記載しておかないと、国がいつそれを認識したかということに関わってくると思いますので、記載すべきだろうと思います。

同じ状況で変異株についてですが、変異株に關するリスクアセスメントに記載されているのは、諸外国、ECDCといったところに比べるとかなり楽観的に見えます。これによろしいのかというのは、御確認いただければと思います。

3点目は、先ほどもお話がありました。これまでも私は何度も申し上げてまいりました。今、全体の感染者数が減ってきているのは事実だろうと思いますが、相対的に高齢者が増えて、若年者が減っています。ある意味、今の日本のサーベイランスはILI/CLIサーベイランスを行っておらず、臨牀的に診断された例の届出ですから、患者の受診行動に影響を受けます。そうしますと若年者、20代、30代の受診行動が減少すれば相対的に比率は下がりますから、そういったことも考えておかなければなりません。

そういうことを考えると、やはり下がった時期に十分な感染源対策、無症状者のスクリーニング、有症状者の積極的探知をしていく必要があると思います。

無症状者のスクリーニングというのは、いわゆるマス（あるいはユニバーサル）・スクリーニングとターゲット・スクリーニングに分けられると思いますが、アメリカ、色々な都市でユニバーサル・スクリーニングが行われています。もちろん余裕があれば、できればいいのですけれども、少なくとも最初は段階的にターゲット・スクリーニング、つまりリスクアセスメントに従って、ハイリスクの部分からターゲット・スクリーニングを導入していくべきだろうと思います。さもなくば、宣言を解除して、人と人との接触が戻れば、必ず元に戻ってしまうと思います。

このままだと、個人的にはレストラン、観光業といったところは軒並み潰れてしまうのではないかと思います。国民がそういった産業を守るのであれば、積極的にスクリーニングを受けて、感染していれば10日間の自宅待機をして、そうしてそういった産業を助けていかないと、恐らくこのままどんどん悪くなるのではないかと。

ワクチンを打っても全ての解決にはつながりません。少なくともしばらくは同じ対応を取り続ける必要がありますので、この対処方針のまん延防止対策のところ、明瞭にターゲット・スクリーニング、そしてリスクアセスメントに応じてユニバーサルあるいはマススクリーニングということに記載するべきだと思います。

○尾身会長 ありがとうございます。議論の効率化のために、私のサジェスションは、先ほど竹森構成員からもあったし、今、谷口構成員からも、いわゆるスクリーニングの話、感染源対策が一つのポイントですから、それについては後で必ずやりますので、他の意見はいかがでしょうか。石田構成員。

○石田副事務局長（連合） 連合として、今回の基本的対処方針の改定については賛同したいと思います。

その上で、1点お願いがございます。今回、緊急事態措置が発動される前後にまん延防止等重点措置が発動される可能性があるわけですが、該当地域の雇用調整助成金の特例措置の取扱いについては、業種の区分なく緊急事態措置と同等にするべきだと思っておりますので、そこのご検討をお願いしたいと思います。

まん延防止等重点措置は緊急事態措置と同じような影響が事業者、労働者におよびますので、そういった意味では、この特例措置の継続も含めてお願いをさせていただきたいと思います。

○尾身会長 ありがとうございます。それでは、飯泉知事、お願いします。

○飯泉知事会長（全国知事会） 3点申し上げたいと存じます。

1つは、改正特措法、また感染症法などの改正についてであります。我々、全国知事会から緊急事態宣言に行かないようにということで、ただいまステージⅢに差しかかる

前に強い措置をと、まん延防止等重点措置がつけられるとともに、これがリバウンドを防ぐことにも用いられることとなったところでもありますので、我々知事としても、しっかりとこれらの権限を踏まえていきたいと考えております。

また、今、多くの皆さん方、尾身会長からも、これは後で取りまとめというお話もいただきましたが、例えば今回実効性が担保されました積極的疫学調査、健康観察などについて、これは感染経路をしっかりと究明をする、クラスターを封じ込めるためにはどうしても必要なところでもありますので、罰則などに行く前に、我々知事としてもしっかりとその意義といったものを国民、都道府県民の皆様方に示していきたいと考えておりますので、国におきましても、政府広報あるいはSNSなどを通じまして、先ほど竹森委員からもお話がありましたように、しっかりとこれらの意義を示していきたいと思っております。

また、罰則適用も明日からスタートとなるところでありますが、全国一律、公平的な運用をしなければいけないということになりますので、ぜひ、政令などにおきましての分かりやすい指針やガイドラインといったものを速やかに我々に御提示いただきたいと思っております。

また、今回法的に位置づけられました差別的取扱いの防止、大変重要な点、我々も常々申し上げてきたところでもあります。知事会としても、その実態の把握、相談体制、支援、また広報を行ってまいりたいと思っておりますので、国においても同様をお願いしたいと思っております。

次に2番目、いよいよ来週半ばからスタートするワクチン接種についてであります。ぜひ、このワクチンが全国でスムーズに行われるように、実施主体であります市町村あるいは医療機関と国との間を我々全国知事会としてもしっかりとつないでいく。その意味で、来週の月曜日、2月15日から緊急対策本部の下にワクチン接種特別対策チームを立ち上げ、32道府県から出されるリエゾンを国へ派遣するとともに、これまでの先進事例、今後の先進事例あるいは課題といったものをしっかりと収集・分析させていただき、横展開を図るとともに、国にも積極的に御提言をタイムリーにしていきたいと考えておりますので、この点につきましても御協力をよろしくお願い申し上げたいと存じます。

最後、出口戦略について、今後、10都府県の知事から解除要請などがあると思っておりますが、ぜひその場合に速やかに解除をするのか、あるいは継続をするのか、その上でも様々なエビデンス、早め早めの方法などもお願いしたいと思っております。

また、コロナ対策もいよいよ2年次目に入ることとなります。これまでの様々な知見、教訓といったものをしっかりと踏まえて、より強力に対応していく必要があると我々も考えておりますので、ぜひ年度末、あるいは年度初め、人が多く移動する時期でもありますので、我々もしっかり国民の皆さん方にアナウンスさせていただきたいと考えておりますが、国におきましても、その広報、その意義といった点、ぜひよろしくお願い申し上げます。

この基本的対処事項をしっかりと実効あらしめるために、我々も一致結束してまいりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

○尾身会長 ありがとうございます。それでは、経団連の井上理事。

○井上常務理事（経団連） 特措法、感染症法の迅速な改正を、私ども経済界としても歓迎をしております。

また、今回のまん延防止等重点措置などによりまして、地域の実態に応じた機動的でメリハリのある対策が講じられることで、社会経済活動と感染拡大防止の両立が図られるということも期待をしております。1日も早い緊急事態宣言の措置の解除に向けまして、経済界も一体となって取り組んでまいります。

また、ワクチン接種にも大いに期待しているところでございまして、ワクチン接種の呼びかけ、あるいは、場合によっては職場での接種ということにつきましても様々な協力をしてまいりたいと考えておりますので、引き続き連携をよろしくお願いいたします。

○尾身会長 それでは、大体大事なテーマが出てきたと思いますが、舘田構成員。

○舘田構成員 私も、先生方のお考えと大体一緒なのですが、今回、まん延防止等重点措置が動き出すということが非常に大事な意味があると感じます。それは先ほどありましたけれども、とにかくリバウンドを起こさないのだという思いの中でまん延防止が出てきたわけですが、注意しなければいけないのは、急所が最後まで燃え残って、恐らくそこからまたリバウンドが始まる。そこを押さえるというのがまん延防止の目的だと感じているわけです。ただ、我々はこれを共有できているのですけれども、何となく緊急事態宣言が解除になって、まん延防止に移るぞといっても、一般の人たちにそこまで危機感、大事なポイントをそこまで認識していただけるかどうかということは、情報発信ですけれども、当たり前なのですが非常に注意して、準緊急事態宣言ですよね。ポイントのポイントですよね。ですから、我々も含めて、しっかりと正しい情報を伝えていかなければいけないということがお願いです。

もう一つは、急所の急所でなかなか言うことを聞いていただけないとか、最後まで燃え残るところというのは、タフなところ。そののところにお願いするわけですから大変なのです。先ほどありましたけれども、例えば今、飲食店の時短営業で1日6万円というような対策で、不平等があると言われるながらも、非常に効果的に動いているわけですが、今度はある意味ポイントを絞るわけですから、そこにはさらにもお願いするとき、倍の倍でもいいぐらいに、とにかく急所の急所なのだから、そこを押さえるような対策も考えていってもいいのではないかと思います。

○尾身会長 ありがとうございます。それでは、武藤構成員。これで一応区切りたいと思います。

○武藤構成員 今回、対処方針の中に法改正の項目が色々入りましたけれども、1つどこに挟んでいただくのが悩ましくて発言が遅れてしまいましたが、先ほど飯泉知事がおっしゃっていたように積極的疫学調査の意義を伝えるということと、今回変異株に関しては、疫学調査がうまくいっているので色々なことが分かってきているという貢献の部分について、国民にしっかり知らせるということは私も大変賛同したいと思います。

その上で、今回また起きたかと思ったのですけれども、変異株のクラスターが起きたなどというのが自治体から発表されると、報道の関係者の方から、その店はどこなのかとか、人間関係についてどんどん問われて、知事さんたちをはじめ都道府県の方々が必死で個人情報を守ろうとしていらっしゃるということが今回ひしひしと伝わってきました。

個人情報を必ず保護するということ、今、基本方針案を「個人情報」で検索すると1個も出てこないで、今回追加された部分に関してどこか挟めるところがあれば、それをしっかり守るのだということをおの方針の中でうたっていただきたいと思います。

そうしないと、報道機関と都道府県の間でまたとても大変なことが起きてしまって、それが差別や偏見のネタになってしまうという悪循環を繰り返すことになってしまいますので、ぜひ知事さんたちが頑張れるように、ここの中でも一押しいただければと思います。

○尾身会長 それでは、様々なコメント、質問がありましたので、まず事務局のほうから。

○事務局（池田） 幾つか御質問いただいた点にお答えします。まず、竹森構成員と谷口構成員からスクリーニング検査の実施について、ご意見をいただきました。厚労省に担っていただく部分が多いのですけれども、コロナ室といたしましても、基本的対処方針の21ページの②に書いておりますとおり、解除された団体の歓楽街等の比較的リスクが高いところを中心に、1日1万件ぐらいの大規模なスクリーニング検査を都道府県と連携して、1つの試みとして実施してまいりたいと考えております。こういった取組を通じまして、予兆、すなわちどこに火種があるのかを早期に探知して、感染の再拡大を防いでまいりたいと考えております。

釜萯構成員から、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発出について、政府対策本部長の判断がより重視されるのかとのご質問をいただきました。緊急事態宣言についてはこれまでと同様でございます。まん延防止等重点措置についても、政府対策本部長が今後、新たに判断をすることとなります。ただし、まん延防止等重点措置については、法律上、都道府県知事が要請できるという規定がありますので、都道府県の意向をより尊重しながら、政府対策本部長が判断するという事になるかと思っております。それから、

この基本的対処方針を簡略化できないかとの御指摘を受けました。事務局としても色々と工夫しておりますが、さらに分かりやすいように、今後工夫をしてみたいと思います。

小林構成員から、「緊急事態措置地域」と「特定都道府県」の用語の違いについて御質問がございました。緊急事態措置を実施すべき区域、基本的対処方針上は「緊急事態措置地域」と略称していますが、法律上は、都道府県には限らず区域の設定をすることが可能です。運用上、都道府県単位で地域の指定を行っておりますので、そういった意味では特定都道府県と区域的には重なるわけですけれども、特定都道府県はあくまで緊急事態措置を実施すべき区域が属する都道府県という概念ですので、基本的対処方針については、そういったことで書き分けております。

岡部構成員から、罰則の適用について御意見がございました。私どもも慎重に進めてまいりたいと思っております、その手続に関する通知を別途、地方自治体に発出したいと考えております。

館田構成員から、まん延防止等重点措置について御意見を賜りました。また、協力してくれる事業者に対する支援策についても御提案をいただきました。これにつきましては国会の附帯決議でも、財政支援措置の在り方について検討することという附帯決議がなされておりますので、それに沿いまして、引き続きどのような形で行っていくのが適切か、よく研究してまいりたいと考えております。

私からの回答は以上でございます。

○尾身会長 それでは、厚労省。

○厚生労働省（迫井） お時間もございませんので、病床につきまして簡単に。竹森構成員からの御指摘が2点ございます。

都庁との関係は、御指摘のとおりしっかりよく相談して、修正なりなんなりを対応したいと考えております。

あと、病床に関する運用や調整についての御指摘がございました。これは細かく御説明しませんが、資料2の今回修正案として出ております16ページ、17ページそれぞれに、まずスペースの問題なのか、マンパワーの問題なのかをきちんと、ということはおっしゃるとおりでありまして、基本的には、マンパワーが足りないのもむしろ病床を空けながらやっておりますので、物理的空間が足りないというのはあまりないわけがあります。その辺りをしっかり検討していただきたいというのが16ページに記載がございます。

17ページでありますけれども、限られた病床を効率よく使うことも非常に重要でありまして、その点についての認識を今回しっかり出ささせていただきまして、病床の調整、特に患者の医療提供に関する必要な総合調整を行う。それから、必要な支援を行う。こ

の点についてはしっかり対応させていただきたいと思っております。

○厚生労働省（正林） 幾つか御指摘いただきました。まず、COCOAの関係でございます。Android型の携帯におきまして通知が届いていなかったということが判明しまして、信頼を損ねることとなりまして、大変申し訳ございませんでした。

御指摘のように、このCOCOAはオープンソースを基にしたソフトになっておりますので、まさにその中で不具合が見つければ改良していくという仕組みになっておりまして、これまでも5回のバージョンアップを行っております。ただ、今回の大きな不具合がそもそも発見できていなかったということでございますので、まずは2月中旬、近々の修正版のリリースに向けて、今、全力で取り組んでいるところでございますけれども、この間の経緯を調査した上で、体制の強化などに取り組んでまいりたいと思っております。いずれにしても、大変御迷惑をおかけいたしまして、申し訳ございませんでした。

ワクチンの関係で御質問がございました。個々のワクチン企業との交渉につきましては申し上げることができませんけれども、現在公表しております3社以外の会社等につきましても、幅広く情報収集を行っているところでございます。これにつきましても、ともかく適切なワクチンの確保、接種に向けて、よりいい選択肢が取れるように取り組んでまいりたいということでございます。

感染症法改正の関係では、罰則に関しまして御指摘がございました。運用について慎重にやっていくということについて、これは今週2月9日に全国知事会との意見交換会、10日に事務レベルの方々との意見交換会もいたしまして、2月10日の夕方に、詳しいQ&Aなどを各都道府県にお出ししたところでございます。恐らく今日、各都道府県の実務のところには届いていると思っておりますので、こうしたものと合わせまして、慎重な取扱いにつきましても具体的な内容をしっかり周知徹底してまいりたいと思っております。

もう一点、ワクチンの関係で情報収集、横展開等の御指摘がございました。これも知事会のほうに御協力いただきまして、各都道府県から職員の方を派遣いただいて、健康局の中にお座りいただくという体制が来週から組まれております。こうしたリエゾン的な方にも御協力いただきながら、最新の情報をお伝えして、各自治体のレベルまで行き渡るようにしたいと思いますし、いい事例については、そうした仕組みも使いまして横展開をしてまいりたいと考えているところでございます。

○厚生労働省（佐々木） 追加でございますけれども、コロナの後遺症の関係で御指摘がございました。これに関しては様々な文献が出ておりますが、国内の状況につきまして、今、厚生労働科学研究におきまして実態把握、原因究明に関する調査研究を実施しております。この結果がまとまり次第、共有いたしたいと思っております。

また、変異株の記載に関しましては、アドバイザリーボードの議論など、感染研を主としてまとめたいただいたデータを基に議論をしておりまして、様々な情報を追加しな

がら、必要があれば記載についてまた御議論いただければと思っております。

○尾身会長 それでは、大体事務方のほうで答えていただきましたが、1つだけ、小林構成員のほうからジョンソン・エンド・ジョンソンについてのことがありました。

○厚生労働省（正林） 申し訳ありません。個別の会社との状況につきましては御説明することが難しいので、その点御容赦いただきたいと思っておりますけれども、ワクチンの関係につきましては、現在公表しております3社以外にも情報収集等を行っているところがございますので、公表できる段階で、それぞれまとまったものを公表していくということでございます。

○尾身会長 どうもありがとうございます。それでは、大体質問等についての事務方からの対応、答えがあったと思います。

私から、今日の主たる目的は、基本的対処方針案をどうするかということで、その中で、まず1点目、これは谷口構成員から、間質性肺炎等色々な重大な問題が出ていて、佐々木審議官からこれはさらに調査するということですが、1つは、間質性肺炎あるいはかなり強い副作用があるということを経験した方から書かれたほうがいいのではないかとコメントです。今のところこのことは書いていないですね。だから、今こういうことがあって、さらに調査するという趣旨のことは書いたほうがいいと私は思いますので、それでよろしいですか。場所は後で厚労省と相談します。

それから、今日の一番の議論である例の感染源については、先ほども竹森構成員と谷口構成員が感染源等々のことで、ここは非常に大事なので、分科会は当初から、7月、8月の段階から無症状者に対しても検査前確率の高い、つまりリスクが高いという場所・集団はやったほうがいいということを申し上げてきた。ここに来て加速度をつけるべきで、ここについて資料1の21ページの②と14ページの下のほうにサーベイランスということと2つ書いてあるのです。特に21ページのほうはいわゆる解除後のところを書いてあるわけなのですけれども、ここで21ページの②で、私のサジェスションは、感染源対策、それからユニバーサル・スクリーニングというのはリソースでなかなか難しいので、ターゲット・スクリーニングということで、もうこれはリバウンドを防ぐ、感染源を探知するという意味で極めて重要なので、ここについては、再度の感染拡大の予兆を早期に、とあるのだけれども、ここは感染源を早く見つけるということをはっきり言うことが必要だと思います。

実は、先日の分科会の後に記者会見をしたときにも、こういう書き方を我々はもう言っているわけで、感染リスクの高い地域などを中心に無症状者に焦点を当てて、広範かつ頻回に行う積極的な調査をするということ。それは解除した県です。全国の都道府県にも早期の感染源探知及び対策につながる疫学調査をするということをもう、アドバイ

ザリーボードも言っているので、ここの書きぶりをもう少し分かりやすく、感染源を早期に探知し、対策を打つという趣旨のこと。それでリバウンドを防ぐのだということ。ここは皆さんの意見が非常に強いので、修正をさせていただければと思います。

もう一つ、これも谷口さんですかね。変異株のことがあって、昨日もアドバイザーボードで、変異株のことについて、輸入例だけではなくて、地域の中での感染があるということで、もう少し変異株についても言及して、変異株の早期の探知等々というのが今、非常に求められていると思いますので、21ページの②のところは、変異株のことも一緒に書く。文章については我々に任せていただければということで、特に反対がなければ、修正をお願いしたいと思います。

それから、先ほど飯泉知事から、休み中のことですが、ここは事務局に教えていただきたいのですが、今回、分科会あるいはアドバイザーボードでも休み、いわゆる忘年会だとか、今度は謝恩会というものによる感染のリバウンドの可能性が今までの教訓としてあるので、ぜひ政府あるいは自治体からも、謝恩会や卒業旅行のことについて、国・自治体のリーダーに言っていただければいいのか、これを基本的対処方針に書き込むのかについて、教えていただければと思います。

○事務局（池田） 比較的長い休暇にまつわる問題ですが、これまでも8月のお盆の帰省の件、年末年始の忘年会、新年会、初詣の話などがございました。それにつきましては、分科会から御提言をいただき、その都度、政府としても分科会提言を受け止めて情報発信してきたところでございます。尾身会長がおっしゃっておられるのは、今回の分科会の提言でもございました卒業旅行や卒業式前後の謝恩会のお話だと思いますが、これについては基本的対処方針に書き込むというよりは、分科会提言を受けて政府としても適切に情報発信を行ってまいりたいと考えております。

○尾身会長 分かりました。大事なところはそんなところだと思いますが、時間があと少し残っていますので、特に今日は基本的対処方針の修正ということが一番大事ですが、ここだけは修正あるいは訂正、追加等々、今までの議論で漏れたことがあれば。それでは、大体よろしいですか。

○厚生労働省（正林） 修正と関わりませんが、先ほどCOCOAのバージョンアップは5回と申し上げましたが、7回でございましたので訂正させていただきます。申し訳ありません。

○尾身会長 それでは、修正のところは、この疾患は感染が軽くても副作用がかなり厳しい。先ほどの60%ということをしつかりとどこかに書く。

変異株のモニタリング、対策がここに来てさらに重要性を増してきたということを書

く。

既に基本的対処方針の21ページあるいは14ページに書いてあるのですが、少し言葉が分かりにくいので、もう少し感染源対策、リバウンドということで、いわゆるターゲット・スクリーニングを今やろうとして、始めるのだという強い思いを少し書いたほうが良いということで、ここは修文をする。

このぐらいで、あとはこれからの基本的対処方針のまとめ方とか、武藤さんが言った積極的調査の意味、そういうことはここではすぐにはできないので、またしっかりやっていくということだと思います。

そういうことで、今日の資料1、資料2について、基本的には政府の諮問について、今の幾つかの訂正の下で我々は合意したということによろしいですか。

(異議なし)

○尾身会長 オンラインの方も特にございませんか。では、そういうことで、どうもありがとうございます。

○西村国務大臣 今、尾身会長から御指摘のありました点、修文をしっかりとさせていただいた上で、今日、この後、私が国会で説明をした後に、夕方の政府対策本部で決定をするということになりますので、よろしくをお願いします。

その上で、幾つか御意見もいただきました。非常に大事な御意見だと思っております。全てを基本的対処方針に書き込むわけではありませんが、いただいた御意見はしっかりと受け止めて、対応していきたいと考えておりますので、引き続き、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

○尾身会長 それでは、事務局に返します。

○事務局（鳥井） 次回開催については、決まり次第、連絡をさせていただきます。本日は、急な案内にもかかわらずお集まりいただき、ありがとうございました。